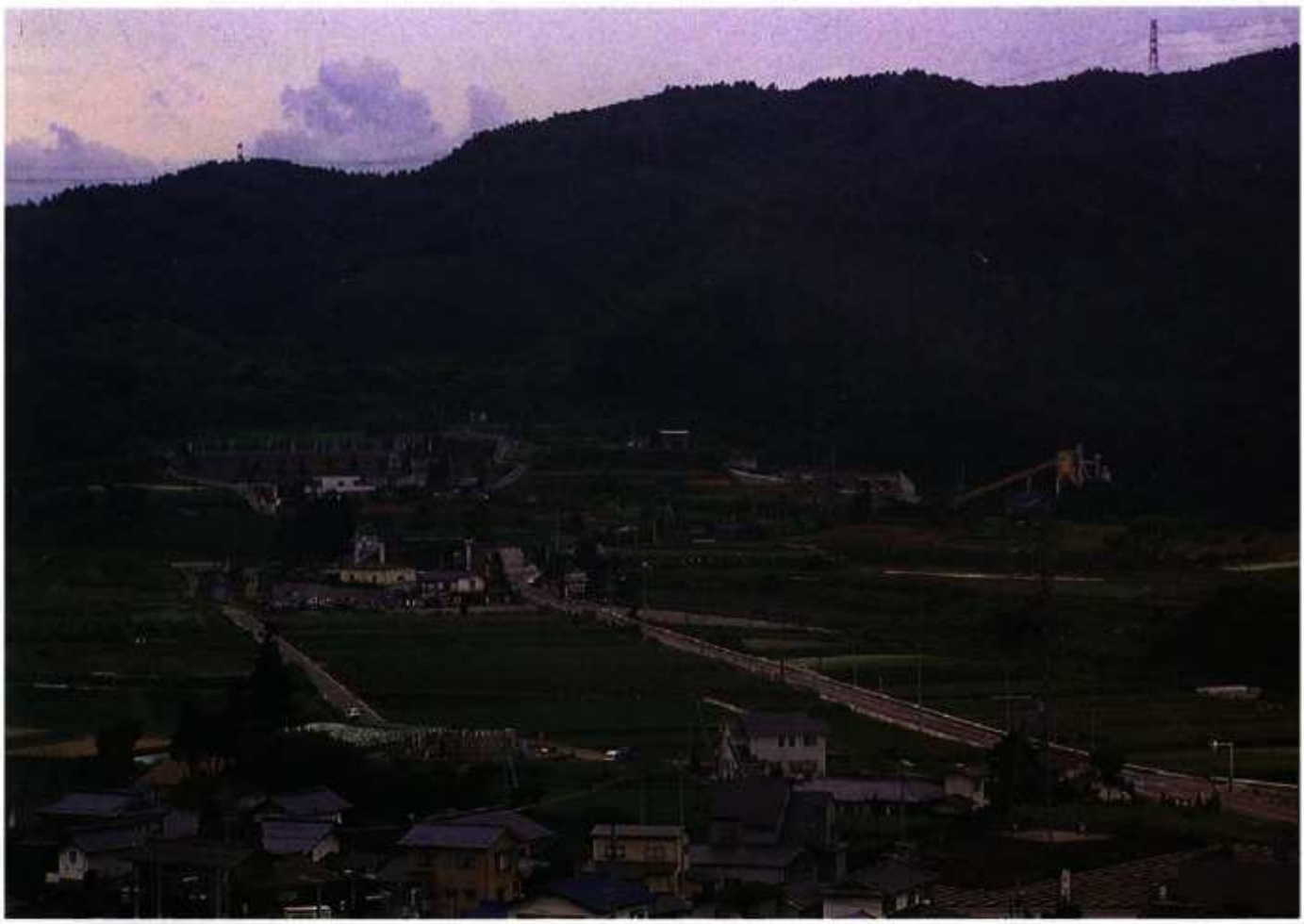
峯畑遺跡

発掘調査報告



1994

塩尻市教育委員会

遺 跡 遠 望（北西から）

遺 跡 遠 景（田川右岸段丘から）

遺 跡 全 景（東側から）

遺 跡 全 景（みどり湖入口、西側から）

旧石器出土状態

第2号住居址遺物出土状態

第10号住居址配石

第13号住居址埋甕出土状態

序

峯畑遺跡は塩尻市の東部、上西条・金井地区にあり、田川の左岸段丘上に位置しています。付近一帯は旧石時代から平安時代の遺跡が数多く残され、市内でも遺跡の密集した地域として知られていました。この度、国鉄側道線橋梁整備工事に伴い、遺跡の一部が破壊されることになったため、工事に先立ち発掘調査を行うことになりました。

発掘調査は平成３～５年の３ケ年、４次にわたって行われ、数多くの成果を挙げることができました。特に、縄文時代中期の集落址の発見をはじめ、旧石器時代から平安時代に至るまでの貴重な資料を得ることができ、同地区の古代史解明に大きな前進をもたらしたものといえましょう。　終わりにあたり、暑さ寒さのなか発掘作業に携わっていただいた参加者の皆様、調査実施に際して多大なご理解、御協力を下さいました関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。

平成６年３月

塩尻市教育委員会

教育長　平　出　友　伯

例　言

1．本書は、国鉄飯道線橋梁整備事業に伴う峯炻遺跡（長野県塩尻市大字上西条・金井所在）の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は、平成３年11月から平成５年５月までの３年間、４回にわたって行った。

3．遺物および記録類の整理作業から報告書作成は、平成３年12月から平成６年３月にかけて行った。分担は次のとおりである。

遺構 … 整理、トレース：小口。

遺物 … 洗浄、註記：一ノ瀬、古厩。

土器復元：市川、一ノ瀬、古厩。

石器実測、トレース：小口。

図版組み … 小口。

写真 … 小口。

4．本書の執筆・編集は小口が行った。

5．本調査の出土品、諸記録は平出遺跡考古博物館に保管している。

目　次

序
例　言
第Ⅰ章　調査状況 …… 1
　第1節　発掘調査に至る経過 …… 1
　第2節　調査体制 …… 2
　第3節　調査日誌 …… 3
　第4節　遺跡の状況と面積 …… 7
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境 …… 8
　第1節　遺跡の位置 …… 8
　第2節　自然環境 …… 10
　第3節　周辺遺跡 …… 10
第Ⅲ章　調査結果
　第1節　調査の概要 …… 12
　第2節　遺構 …… 12
　　1．旧石器時代 …… 12
　　2．縄文時代の住居址 …… 16
　　3．平安時代の住居址 …… 32
　　4．方形柱穴列 …… 32
　　5．土坑 …… 32
　　6．集石土坑 …… 37
　第3節　遺物 …… 50
　　1．縄文時代の遺物 …… 50
　　(1) 土器
　　(2) 石器
　　(3) 土製品
　　2．平安時代の遺物 …… 98
　　(1) 土器・陶器
第Ⅳ章　調査のまとめ …… 99
第Ⅴ章　結語 …… 102

第Ⅰ章　調査状況

第1節　発掘調査に至る経過

平成3年7月10日	市土木課、市教育委員会により調査箇所についての現地協議
10月25日	埋蔵文化財包蔵地峯畑遺跡の発掘調査について（通知）
11月19日	峯畑遺跡発掘調査終了について（届）
11月19日	峯畑遺跡埋蔵文化財の収得について（届）
12月10日	峯畑遺跡埋蔵物の文化財認定について（通知）
平成4年5月7日	市土木課、市教育委員会により調査箇所についての現地協議
5月21日	埋蔵文化財包蔵地峯畑遺跡の発掘御憂さについて（通知）
平成5年3月30日	峯畑遺跡埋蔵文化財の収得について（届）
月　日	峯畑遺跡埋蔵物の文化財認定について（通知）
平成5年4月2日	市土木課、市教育委員会により調査箇所についての現地協議
4月9日	埋蔵文化財包蔵地峯畑遺跡の発掘調査について（通知）
5月18日	峯畑遺跡発掘調査終了について（届）
5月18日	峯畑遺跡埋蔵文化財の収得について（届）
月　日	峯畑遺跡埋蔵物の文化財認定について（通知）

1．遺跡名　　峯畑遺跡

2．発掘調査の目的及び概要

市道国鉄側道線の改良工事に先立ち、2,320㎡以上を発掘調査して記録保存をはかる。工事は多年度にわたり、随時用地買収となるため、当該箇所ごとに発掘調査を実施し、調査報告書は最終年度にまとめて作成するものとする。

3．調査の作業日数

平成3年度	発掘作業　7日	整理作業　11日	合計　18日
平成4年度	発掘作業　54日	整理作業　68日	合計 122日
平成5年度	発掘作業　16日	整理作業　40日	合計　56日

4．調査に要する費用　　発掘調査総額　12,500,000円

5．調査報告書作成部数　　300部

第2節 調 査 体 制

平成3年度

団　　長　平出友伯（塩尻市教育長）

担 当 者　鳥羽嘉彦（日本考古学協会員、市教委）

調 査 員　小林康男（日本考古学協会員、市教委）

市川二三夫（長野県考古学会員）

参 加 者　小沢甲子郎・小松幸美・小松義丸・清水年男・高橋烏億
高橋阿や子・中野やすみ・藤松謙一・山口仲司・小松貞文
大和　廣・内川初雄・小松礼子・小松光男・吉江正男
宮崎秀賢・上条スミ江・松島まつ子・高橋タケ子・田中源三郎
古厩馨子

平成4年度

団　　長　平出友伯（塩尻市教育長）

担 当 者　小口達志（長野県考古学会員、市教委）

調 査 員　小林康男（日本考古学協会員、市教委）

市川二三夫（長野県考古学会員）

調査補助員　布施光敏・鴨下文秀・鵜飼堅証
市川隆一・岩垂　功・内川初雄・小沢甲子郎・黒沢広光
小松幸美・小松義丸・小松静子・小松礼子・斉藤秀康
清水年男・高橋烏億・高橋阿や子・手塚きくへ・藤松謙一
古田邦子・山口仲司・山本久子・小松光男・吉江正男
宮崎秀賢・上条スミ江・松島まつ子・高橋タケ子・中村房男
大塩正春・小松弘一・宮川隆明・洞　義昌・山本政春
樋口辰雄・酒井政雄・小林武人・横山兼司・樋口芳明
由上はるみ・柴垣隆一・一ノ瀬　文・大和　廣・古厩馨子

平成5年度

団　　長　平出友伯（塩尻市教育長）

担 当 者　小口達志（長野県考古学会員、市教委）

調 査 員　小林康男（日本考古学協会員、市教委）

小松　学（長野県考古学会員、市教委）

市川二三夫（長野県考古学会員）

山本紀之

参 加 者　赤沢捨治・内川初雄・小沢甲子郎・小泉忠行・小松千元
小松美喜男・小松幸美・小松義丸・小松礼子・清水年男

高橋鳥億・高橋阿や子・藤松謙一・山口仲司・由上はるみ
一ノ瀬　文・大和　廣・古屋馨子・田原和美・逸見秀子

事務局	市教委総合文化センター所長	武井範治
	〃　文化教養担当課長	横山哲宜（平成3年度）
	〃　〃	松崎宏征（平成4・5年度）
	〃　文化教養担当副主幹	大和清志
	〃　平出遺跡考古博物館長	小林康男
	〃　平出遺跡考古博物館学芸員	鳥羽嘉彦（平成3年度）
	〃　〃	小口達志（平成4・5年度）
	〃　〃	小松　学（平成5年度）

第3節　調査日誌

平成3年度調査

○平成3年11月8日(金) 曇
用地買収の終わったみどり湖駅に近い箇所から調査を開始する。バックホーによる表土除去。調査区東端から平均30cmの厚さで削平。機材搬入。

○11月9日(土)・10日(日)　定休日

○11月11日(火) 晴
本日から作業開始。小林館長から挨拶、事務局から発掘日程、作業方法の説明があったのち、機材準備、テントの設営。ジョレンによる遺構検出作業を開始する。

○11月12日(水) 晴
引き続き遺構検出作業。住居址2軒（円形と方形）、小竪穴16基と多数のピットを検出する。

○11月13日(木) 晴
第1・2号住居址掘り下げ、床面検出。小竪穴掘り下げ。

○11月14日(木) 晴
第1号住居址カマド、周溝検出。第5号小竪穴から礫と焼土が出土し住居址の炉と判明したため第3号住居址とする。第9・12・16号小竪穴は消滅したため欠番とする。小竪穴セクション図化。

○11月15日(金) 晴
遺構掘り下げ作業。第1号住居址セクション図化、ベルトはずし、平面図作成。第2・3号住居址写真撮影、平面図化。小竪穴セクション図化、写真撮影、平面図作成。

○11月6日(土) 快晴
第1号住居址写真撮影。全体写真撮影、全体図作成。機材撤収。本日をもって現場における作業を終了する。

● 整理作業は11月3月に平出遺跡考古博物館において実施された。

遺構検出作業（平成3年度）

第1号住居掘り下げ

平成４年度調査

○平成４年５月22日(金) 晴　市道改良工事の東端、国道153号線の西側に接した箇所の調査を開始する。機材搬入。

○５月25日(月) 晴　バックホーによる表土除去。調査区内で残土を処理するため、南側半分を20～50cmの厚さで削平。

○５月27日(水) 晴／雨　本日から作業開始。小林博物館長から挨拶、遺跡の概要説明、事務局から発掘日程、作業方法の説明。終了後、機材準備、テントとトイレの設営。調査区東端からジョレンによる表土除去。縄文中期住居址を数軒確認する。雨のため午後作業中止。塩尻日報記者来訪。

○５月28日(木) 曇／雨　引き続き、ジョレンによる表土除去。縄文中期住居址を５軒検出し、東から第２～６号住居址とする。雨のため昼で作業中止。

○５月29日(金) 晴　ジョレンによる表土除去。第２・４・５号住居址掘り下げ。当初、調査の対象外であった国道153号線の東側で遺物を採集したため、人力により表土除去を行い、縄文中期の住居址４軒を検出する。第７～10号住居址とする。

○５月30日(土)・31日(日) 定休日

○６月１日(月) 快晴　第２・４・５・７号住居址掘り下げ。

○６月２日(火) 快晴　第２・４・５・７・８・９・10号住居址掘り下げ。第２号住居址の覆土から完形、半完形の土器が多数出土する。第７号住居址の床面、埋甕を検出する。

○６月３日(水) 快晴　第２～５、７～10号住居址掘り下げ。第２号住居址の覆土からさらに多数の土器が出土し、典型的な吹上パターンを示す。第10号住居址から長さ約１mの礫が２個検出される。市民タイムス、中日新聞記者来訪。

○６月４日(木) 晴／曇　引き続き、第２～５、７～10号住居址掘り下げ。

○６月５日(金) 晴　第２号住居址の遺物出土状況作図、取り上げ。第５～10号住居址掘り下げ。第16号土坑から土偶の腹部出土。第10号住居址の礫下から埋甕を検出する。

○６月６日(土)・７日(日)・８日(月) 定休日

○６月９日(火) 晴　第２、６～10号住居址掘り下げ。第４・５住居址セクション図化、ベルトをはずす。

○６月10日(水) 晴　第２・６号住居址掘り下げ。第７～10号住居址セクション図化、ベルトはずす。調査区西側の土坑掘り下げ。

○６月11日(木) 晴／雨　第２号住居址掘り下げ。第４・５号住居址遺物取り上げ床面検出。調査区西側の土坑掘り下げ。

○６月12日(金) 晴　第２号住居址掘り下げ。第４・５号住居址遺物取り上げ床面検出。調査区西側の土坑、方形柱穴列掘り下げ。

○６月13日(土) 晴　第２号住居址セクション図化、ベルトをはずす。第４・５号住居址掘り下げ。国道東、みどり湖側の土坑群掘り下げ。

○６月14日(日)・15日(月) 定休日

重機による表土除去（平成４年度）

遺構検出作業

遺構検出作業（みどり湖入口）

○ 6月16日(火) 晴　第2号住居址掘り下げ。第4・5号住居址完掘、写真撮影。
○ 6月17日(水) 晴　第2・7・8・10号住居址掘り下げ。第4・5号住居址平面図作成。調査区西側平面図作成。レベリングを行う。
○ 6月18日(木) 曇／晴　バックホーにより調査区北側半分を表土除去。南から北へ田川に向かって傾斜しているためロームまで深く50～60cmの厚さで削平する。
○ 6月19日(金) 晴　引き続きバックホーによる表土除去。
○ 6月20日(土) 曇／雨　方形柱穴列セクション図化。埋め土のロームブロックが観察できる。
○ 6月21日(日) 定休日
○ 6月22日(月) 晴　引き続きバックホーによる表土除去。第2号住居址遺物取り上げ。
○ 6月23日(火) 曇／雨　ジョレンによる遺構検出作業。縄文中期住居址を2軒検出し、第12・13号住居址とする。第2号住居址掘り下げ。雨のため午後作業中止。
○ 6月24日(水) 雨天中止
○ 6月25日(木) 曇　第12・13号住居址掘り下げ。みどり湖側の土坑群掘り下げ。
○ 6月26日(金) 曇　第12・13号住居址掘り下げ。
○ 6月27日(土) 曇　第2号住居址遺物取り上げ。第12・13号住居址掘り下げ。
○ 6月28日(日)・29日(月) 定休日
○ 7月4日(土) 晴　第2・13号住居址掘り下げ。
○ 7月5日(日)・6日(月) 定休日
○ 7月7日(火) 晴／曇　第2・13・14号住居址掘り下げ。
○ 7月8日(水) 曇　第2・13・14号住居址掘り下げ。
○ 7月9日(木) 晴　第2号住居址掘り下げ。第13・14号住居址掘り下げ、セクション図化。
○ 7月10日(金) 晴　第2・12・13号住居址掘り下げ。
○ 7月11日(土) 雨／晴　調査区東側の遺構検出作業が不十分であったため、再度ジョレンによる検出作業を行う。その結果、調査区南東隅から住居址の一部を検出し、第14号住居址とする。また、第2号住居址北側から20基近くの土坑を検出する。
○ 7月12日(日)・13日(月) 定休日
○ 7月14日(火) 曇／雨　みどり湖側の土坑群掘り下げ。雨のため午後作業中止。
○ 7月15日(水) 曇　第2号住居址掘り下げ。調査区北東端とみどり湖側の土坑群掘り下げ、セクション図化。
○ 7月16日(木) 晴　第2号住居址掘り下げ。調査区北東端の土坑群完掘。
○ 7月24日(金) 晴　第2～5号、12・13号住居址写真撮影。第14号住居址掘り下げ、完掘。本日をもって作業員による作業を終了する。
○ 7月28日(火) 晴　第5・13号住居址埋甕、第37号土坑埋設土器取り上げ。
○ 8月1日(土) 晴　第12号住居址炉体土器取り上げ。土坑群写真撮影。
○ 8月8日(土) 晴　調査区東側の土坑群平面図作成。

第2号住居掘り下げ

遺構実測

土坑掘り下げ（平成4年初冬）

○ 8月25日(火) 晴　第13号住居址平面図作成。
○ 8月26日(水) 晴　第2・3・9号住居址、方形柱穴列平面図作成。
○ 8月27日(木) 晴　みどり湖側の土坑群平面図作成。
○ 9月5日(土) 晴　第2号住居址平面図作成。
○ 9月11日(金) 晴　第2号住居址平面図作成、レベリング。みどり湖側のレベリング終了。
○ 9月12日(土) 晴　調査区全体のレベリング。本日をもって現場における作業を終了する。

○ 12月9日(水) 晴　平成3年度に調査した東側から中程までを農作物の収穫が終わったところで調査を開始する。現場へ機材搬入。
○ 12月10日(木) 晴　本日から作業員参加による発掘調査開始。表土が浅い箇所からジョレンによる遺構検出作業を行う。土坑1基検出。
○ 12月11日(金) 雪時々晴　バックホーによる表土除去。調査区西端から20～40cmの厚さで別平遺物は全く出土しない。
○ 12月12日(土) 晴／雪　引き続き重機による表土除去。ジョレンによる遺構検出作業を行う。調査区断面に土坑が1基検出される。
○ 12月13日(日) 定休日
○ 12月14日(月) 晴　ジョレンによる遺構検出作業。
○ 12月15日(火) 晴　ジョレンによる遺構検出作業。
○ 12月16日(水) 晴　ジョレンによる遺構検出作業。3日間、遺構、遺物の出土全く無し。
○ 12月17日(木) 晴／雪　ジョレンによる遺構検出作業。漸く縄文中期住居址1軒、土坑1基を検出する。住居址は通し番号で第16号住居址とする。
○ 12月18日(金) 積雪にて作業中止
○ 12月19日(土) 晴　第1号住居址、土坑掘り下げ。
○ 12月20日(日) 定休日
○ 12月21日(月) 晴　第1号住居址、土坑完掘。本日をもって現場における作業を終了する。機材を撤収して洗馬焼登窯の現場へ搬入する。
● 整理作業は、6月～平成5年3月、平出遺跡考古博物館において実施された。

旧石器調査（平成5年）

ローム掘り下げ

平成5年度調査

○ 平成5年4月15日(木) 晴　平成4・5年度調査に挟まれた残りの区間の調査を開始する。バックホーによる表土除去を調査区西端から行う。表土は10～20cmと浅く、ロームまで耕作が及んで漸移層は存在せず期待薄い。
○ 4月16日(金) 晴　機材搬入。引き続き重機による表土除去。本日から作業員参加による発掘調査開始。小林博物館長から挨拶、事務局から発掘日程、作業方法等の説明ののち、ジョレンによる遺構検出作業を開始する。
○ 4月17日(土) 晴　引き続きジョレンによる遺構検出作業を開始する。
○ 4月18日(日)・19日(月) 定休日
○ 4月20日(火) 晴　ジョレンによる遺構検出作業。石鏃、

ひと休み

黒曜石剥片出土。

○4月21日(水) 晴　ジョレンによる遺構検出作業続行するが、遺構、遺物は全くない。

○4月22日(木) 曇／雨　ジョレンによる検出作業。雨のため屋にて作業中止。

○4月23日(金) 晴　黒曜石剥片が出土した地点のローム層上面から、旧石器と思えるような頁岩製の剥片が出土したため、ローム層を掘り下げたところ黒曜石製の剥片が検出された。

○4月24日(土) 晴　昨日、旧石器が出土した地点を中心に1.5m四方のグリッドを設定してローム層を掘り下げる。黒曜石製の剥片が数点出土した。

○4月25日(日)・26日(月) 定休日。

○4月27日(火) 晴　引き続きローム層を掘り下げ、黒曜石製の剥片が数点出土する。

○4月28日(水) 晴　引き続きローム層を掘り下げ、ローム層上面から約20cmの深さからも黒曜石製の剥片が出土する。直径15mの範囲から18点の旧石器が確認された。

○4月29日(木)～5月6日(水) 定休日

○5月7日(金) 晴　引き続きローム層を掘り下げるが、遺物は検出されない。

○5月8日(土) 晴　グリッドを更に東に設定してローム層を掘り下げるが遺物の出土は無い。

○5月9日(日)・10日(月) 定休日

○5月11日(火) 晴　引き続きローム層を掘り下げる。

○5月12日(水) 晴　引き続きローム層を掘り下げる。調査区全体図作成。

○5月13日(木) 晴　旧石器出土地点を中心にさらに掘り下げるが出土遺物はない。全体図作成。

○5月14日(金) 雨天中止

○5月15日(土) 晴　旧石器出土地点のローム層掘り下げ、精査。調査区全体写真撮影。本日をもって、3ケ年にわたり、市道改良工事に伴い実施された発掘調査の全日程を終了する。

●整理作業は5月～3月、平出遺跡考古博物館において実施された。出土品、諸記録の整理、報告書の図版作成、原稿執筆作業。

第4節　調査の状況と面積

調査年	場　所	現況	種類	全体面積	事業対象面積	調査面積	発掘経費
3	塩尻市大字上西条	畑地	包蔵地	30,000	430	430	1,100,000
4	塩尻市大字金井・上西条	畑地	包蔵地		863	700	3,400,000
4	塩尻市大字上西条	畑地 果樹	包蔵地		800	800	2,600,000
5	塩尻市大字上西条	畑地	包蔵地		2,000	1,200	5,400,000

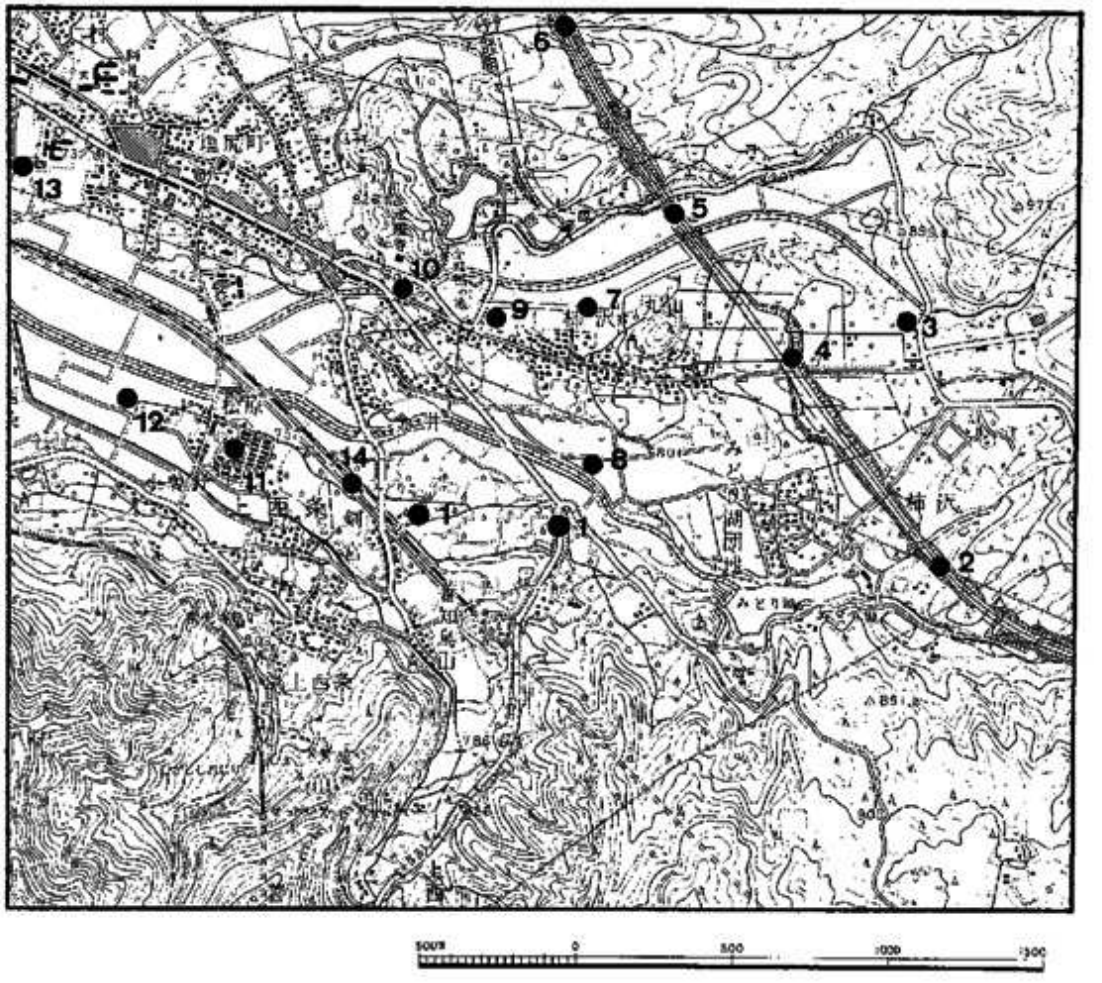
第1表　発掘調査経過表

調査年＼月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	主な遺構	主な遺物
3								8 発掘	16 遺物整理				縄文時代中期住居址 1 平安時代住居址 2 土坑 140 集石土坑 1	縄文中期 土器、石器 平安時代 土師器
4	22 発掘						12 遺物整理		発掘	遺物整理			縄文時代中期住居址 15 縄文時代方形柱穴列 1 土坑 集石土坑 11	縄文中期 土器、石器 縄文後期 土器
5	15 発掘	15 遺物整理・図面作成・原稿執筆											旧石器時代遺物集中箇所 1	旧石器時代 石器

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

第1節　遺跡の位置と地形

峯畑遺跡は、塩尻市大字上西条、金井両地籍にまたがって所在する。遺跡の範囲は田川と椎現沢川の両河川によって解析された東西に延びる尾根状台地で、東西600m、南北400mの広範囲に展開している。従来、みどり湖駅東側周辺を峯畑遺跡としており、今回の調査で縄文中期の集落が確認された国道153号線のみどり湖入口付近との間に遺構、遺物の空白地帯があることからも別遺跡と考えられたが、報告書では統一して扱った。

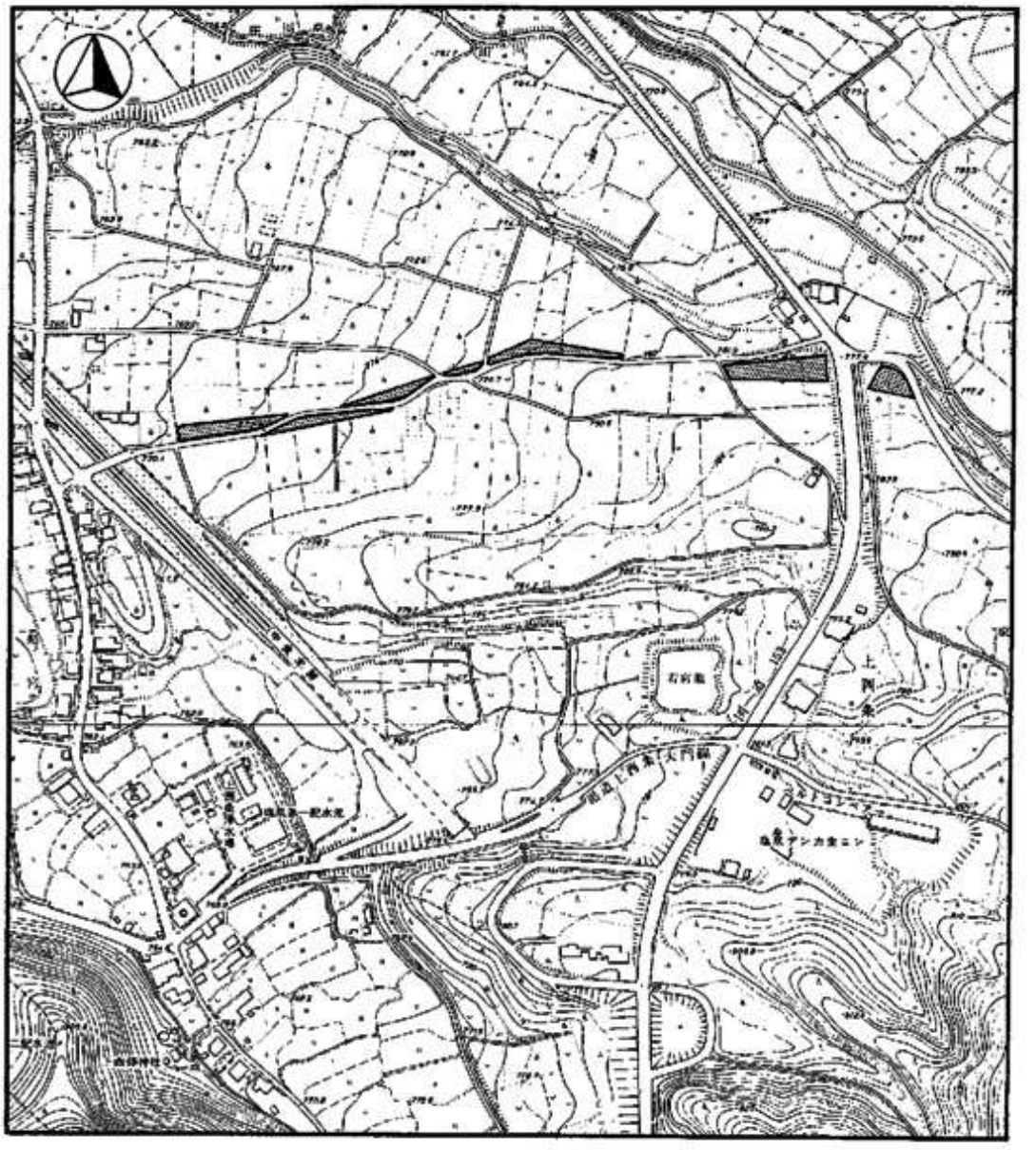


1 峯　畑　2 八　窪　3 稲ノ神　4 大　原　5 御堂垣外　6 栗木沢　7 柿沢東
8 五輪堂　9 中　島　10 椎　沢　11 焼　町　12 田川端　13 砂　田　14 剣ノ宮

第1図　峯畑遺跡位置図

昭和47年に行われた中央本線岡谷・塩尻間複線化工事に伴う発掘調査では隣接する剣ノ宮遺跡とともに、縄文時代中期・後期住居址、平安時代住居址、中世建物址、土壙墓などが検出されている。

今回の発掘箇所はみどり湖駅東側から国道153号線のみどり湖入口にいたる部分で、尾根状台地を斜めに横切るかたちとなった。標高は770～790m、田川との比高は8～10m、権現沢川と



0　200m

第2図　調査地区図

の比高は13～15mで南東から田川に向かって緩やかに傾斜している。背後には善知鳥峠と塩尻峠を控え、眼下には塩尻市街地を望み、遠く穂高連峰を一望することができる。

遺跡の現況は、みどり湖駅周辺で宅地化が進んでいるものの、国道153号線とJR中央本線に挟まれた地域は畑地と果樹園でよく保存されている。

第2節　自　然　環　境

塩尻東地区は塩尻市街地の東側を流れる田川から東は塩尻峠まで、南は伊那路へ連結する善知鳥峠までを地区域としている。ここは中山道（国道20号線）と三州街道（国道153号線）の分岐点として交通の要衝地となり、塩尻宿を中心として繁栄してきた。

地質学的には、ちょうど領家変成帯とフォッサマグナ西縁（糸魚川―静岡構造線）とが接する地域にあたるため複雑な様相を呈しており、南側の大芝山、善知鳥峠の硬砂岩、粘板岩、石灰岩に代表される古生層と東山山麓の基盤を構成するグリーンタフ第三系およびそれを被覆する第四紀の安山岩質溶岩を隣接させている。

塩尻峠から塩尻市街地まで広がるこの西向斜面を概観すると塩嶺山塊に展開する広大な西向山麓斜面と田川によって形成された扇状地形からなり、その中を数本の小河川が開析流下している。扇状地は長さ約4.5km、幅2kmの広大な規模を持ち、その扇端は下西条西福寺の付近から桟敷、入道部落に至る狭長な低窪地を挟んで奈良井川扇状地（桔梗ケ原台地）に連なっている。

田川は東山山麓に源を発しており、塩尻峠の山間渓谷を西へ下り、中・下西条周辺で柳現沢川、四沢川、矢沢川などを集めながら下西条で流れの向きを北にかえ、松本市の西部で奈良井川に合流している。みどり湖より上流では極めて浅い谷を形成しているだけの截頭扇状地であるが、湖より下流では地盤隆起に伴い浸食量が大きく、一種の開析扇状地を形成している。田川沿いに発達するこれらの台地の縁辺部には今回の峯畑遺跡をはじめとして、柿沢東（柿沢）、焼町（上西条）、五輪堂（金井）、田川端（中西条）、など数多くの市内を代表する遺跡が密集しており、古代からかなり好条件な立地環境であったと考えられる。

第3節　周　辺　遺　跡

今回発掘された峯畑遺跡が所在する塩尻東地区一帯は、松本平でも遺跡の密集した地域のひとつである。当地区には、旧石器時代から中世にかけての遺跡が数多くあり、以下、時代を追って遺跡の在り方を概観したい。

旧石器時代田川上流域では比較的多くの遺跡が発見されている。昭和59年に発掘調査が行われた青木沢遺跡ではナイフ形石器、槍先形尖頭器、御子柴型石斧が出土している。南熊井山ノ神遺

跡では槍先形尖頭器未製品を含む遺物集中箇所が1基発見された。また、峯畑遺跡と向かい合った田川段丘上の五輪堂、柿沢、禰ノ神遺跡からは槍先形尖頭器が表面採集で得られている。

縄文時代　早期は八窪、向陽台、福沢、堂の前遺跡で住居址や集石などの遺構が発見され、狙原、禰ノ神で押型文土器が出土している。前期は田川端で住居址、宗張で集石が検出された他、社宮寺、三嶽神社西などで土器片が採集されている。中期は環状集落として注目を集めた狙原、環状集落の一部を検出した柿沢東、焼町土器の示標となった焼町遺跡を始め、中島、堂の前、御堂垣外、剣ノ宮遺跡などで住居址が検出されている。今回、調査された峯畑遺跡もこうした集落址のひとつと言えよう。後、晩期に入ると、御堂垣外で敷石住居が発見されている以外、遺構の発見はなく、柿沢、青木沢、堂の前、福沢、館、ちんじゅで遺物が出土しているが量的には多くない。

弥生時代　初期の遺物が柿沢、ちんじゅ、銭宮、砂田で出土している。中期の遺跡は少ないが後期に入ると、田川端で40軒の住居址が発見されたのをはじめ、砂田で住居址が、向陽台、中挟で住居址と方形周溝墓が発見されている。その他、青木沢、久野井、西福寺前、大門3番町、中島、銅鐸を出土した柴宮で、この時期の遺物が出土している。

古墳時代　禰ノ神1・2・3号、記常塚、狐塚、銭宮1・2号など山麓部に古墳が築造され、久野井、中挟で住居址が発見されている。古墳の数に比較し、その背景となった集落址の発見が少ない。

奈良・平安時代　奈良時代の遺跡は殆ど見当たらない。平安時代には、田川端、狙原、高山城、剣ノ宮、久野井、栃久保、堂の前、栗木沢、樋口、中島で住居址が発見されている。いずれも山地に立地し、集落規模も小さい。平地では中挟で住居址が発見されている。

中世　中世に属する遺構は、中島の館地、堂の前、砂田の建物址、剣ノ宮の墓壙などが発見されている。

第Ⅲ章　調査結果

第1節　調査の概要

発掘調査は市道改良工事に伴うものであり、道路拡幅部分の畑地を平成3年から5年の4次にわたって行い、調査総面積は2,530㎡に及ぶ。

調査の結果、旧石器時代の遺物集中箇所1、竪穴式住居址18軒（縄文中期16、平安時代2）、方形柱穴列1、土坑107基、集石土坑11基が検出された。

旧石器時代のブロックは平成5年度の調査で検出した。尾根状台地の北寄り、田川の段丘上に位置し、黒曜石を主体とする約20点の剥片と石核で構成されていた。

竪穴住居址は従来から峯炬遺跡とされているみどり湖駅東側で4軒（縄文2、平安2）、国道153号線沿いみどり湖入口で14軒と2つのまとまりが確認された。

市内で初めて発見された方形柱穴列や土坑、集石土坑の多くはみどり湖入口の住居址周辺で検出され、中期集落に伴うものと考えられる。

遺物はこれらの遺構を中心にして土器、石器が大量に出土した。旧石器時代の遺物は製品が検出されなかったことは惜しまれるが、ローム層からの出土例では市内2例目となった。

縄文時代では、中期初頭～後葉土器、後期・堀之内式土器が出土している。特に、第2号住居址の出土状況は、吹上パターンを呈し、数十個体の土器と多量の石器が出土した。また、第10号住居址からは埋甕上に2個の巨礫を配した特異な遺構が検出された。石器では石鏃、石匙、石錐、ピエス・エスキーユ、スクレイパー、打製石斧、大形石匙、横刃形石器、磨製石斧、磨石、凹石、敲石、石皿、砥石などが出土している。

平安時代では須恵器の坏、土師器の甕、灰釉陶器の坏が出土している。

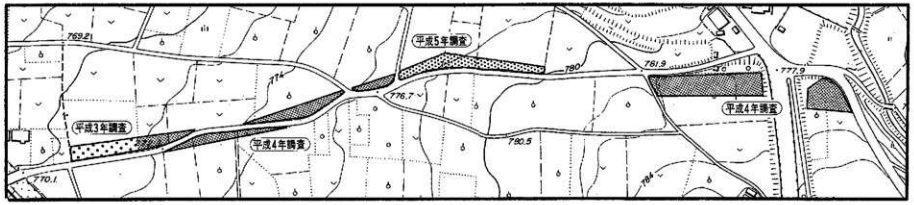
第2節　遺　　構

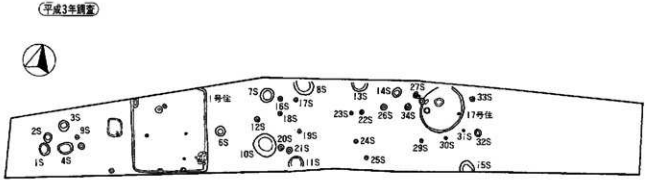
1．旧石器時代の遺構と遺物（第4・5図）

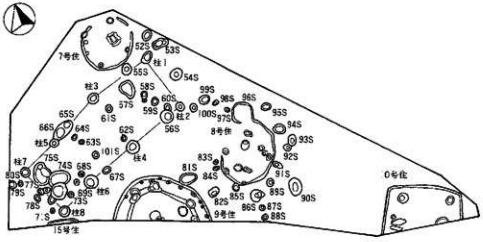
遺構検出時にローム層上面で旧石器と思われる剥片が出土し、ローム層を掘り下げたところ、東西15mの範囲に21点の石器が分布していた。垂直分布はローム層中5～20cmにわたっている。付近の畑地は表土が薄く、耕作が深くまで及んでいないこともあり、地表から浅いにもかかわらず、良好な保存状態であった。

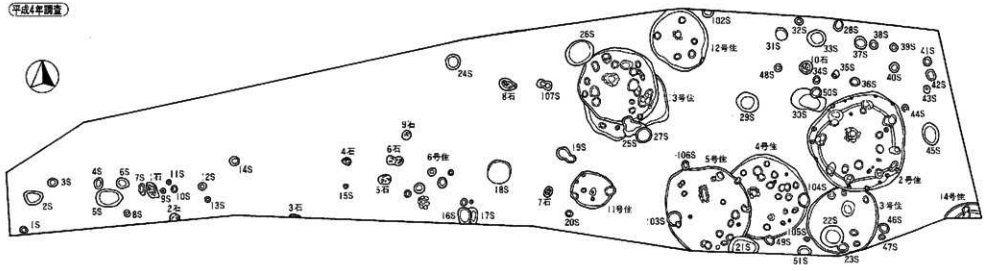
遺物は石核1点の他は剥片、砕片で、石材は安山岩1点の他はすべて黒曜石である。遺物の分布は散漫であるが、西側の径3mにややまとまりが見られ田川寄りに分布の拡がりが考えられる。

市内において、発掘調査で旧石器時代の遺物がローム層から出土したのは南熊井の山ノ神遺跡



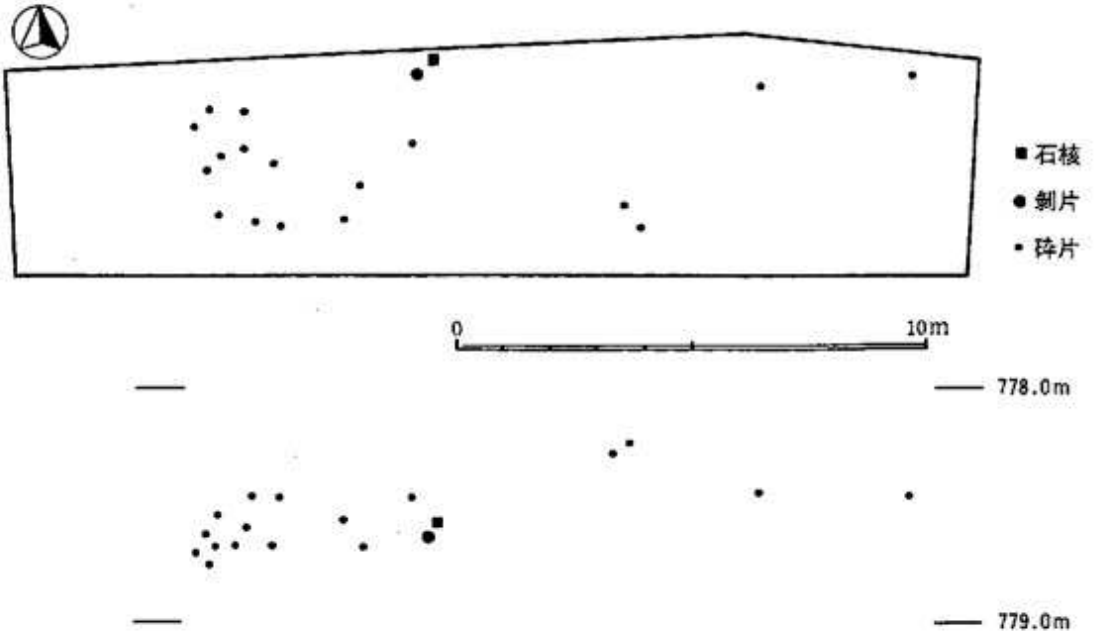




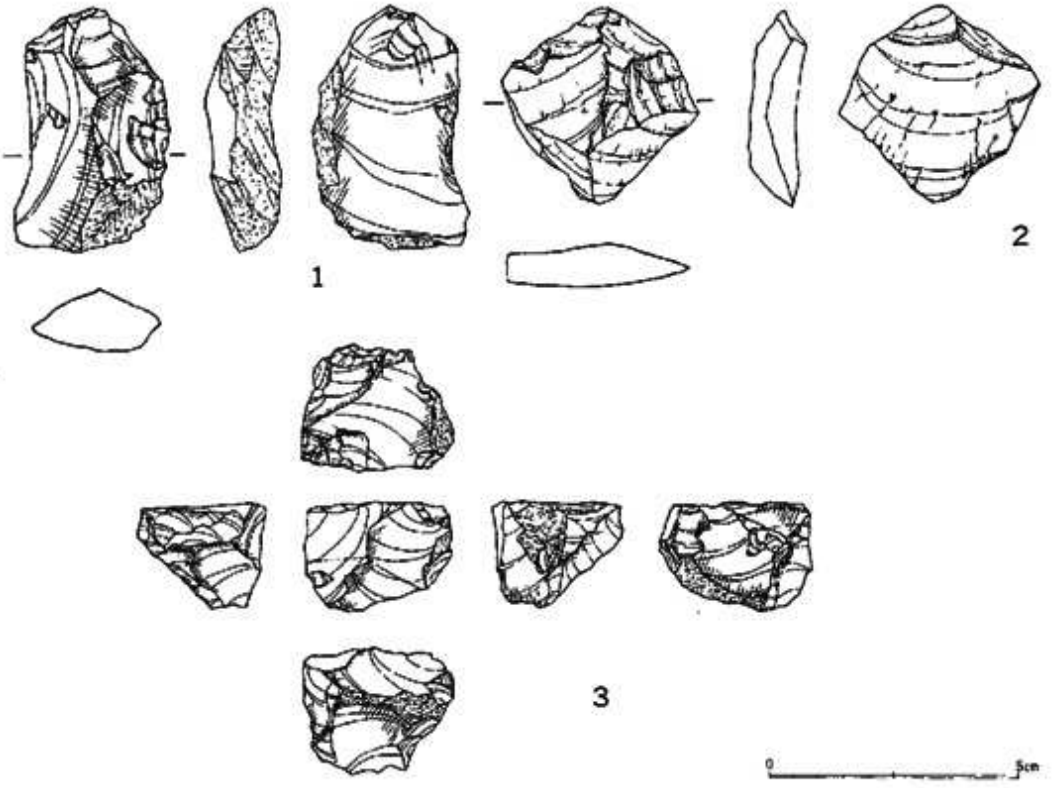


第3図 峯畑全体図 1:250

0 20m



第4図　器種別分布図



第5図　旧石器実測図

に次いで２例目のことで貴重な発見となった。また、田川上流域は旧石器時代の遺跡が集中し、表面採集で多くの石器が得られていることもあり、これらとの関連性が注目される。

２．縄文時代の住居址

第２号住居址（第６・７図）

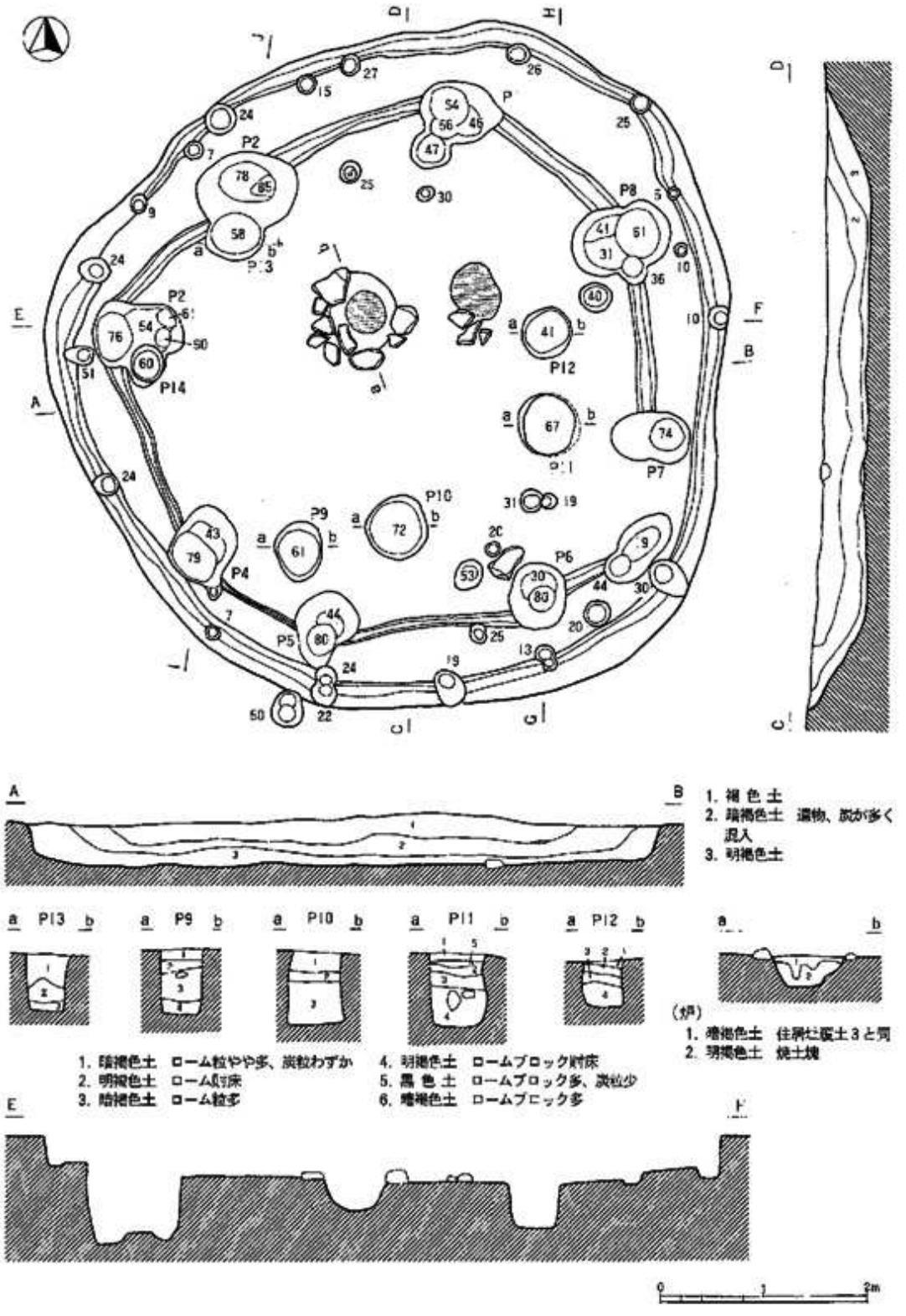
調査経過：重機による表土除去の段階から土器片、炭粒の出土が多く、漸移層で検出する。**規模・形状**：6.5m×6.6mの不整円形を呈する。**覆土**：自然流入土により埋没したと推定され、３層が整然と堆積する。２層中から多くの遺物が出土した。**床面・壁**：床は壁下と炉面の２段からなり比高差は北側で10cm、南側で20cmを測る。全体的に平坦で非常に堅く締まっている。壁はほぼ垂直に立ち上がり、南壁で30～40cm、北側で10cmの高さを持つ。**周溝**：壁下の周溝は全周し、内側の周溝は東側の一部を除いて柱穴を結んでいる。**炉**：中央北寄りにある。掘り形は径70cm、深さ30cmで炉石は大小組み合せて置いている。また東側には焼土を伴った炉の痕跡がある。**柱穴**：８個の主柱穴でそれぞれ２・３回の立て替えを行っている。また、壁下にも19個の支柱穴がある。**その他の施設**：床面に壁、底面ともに堅くしまった大きなピットが４個（P_9～P_{12}）ありロームで埋め戻され貼床がなされる。P_{11}貼床下からは石皿が出土した。**出土遺物**：多量の遺物が覆土中に廃棄され、それらは壁際１mの範囲を除いて全面から出土した。土器では深鉢形土器（第35図10～第49図64）をはじめ、様々な器種が出土している。
石器は石鏃15、石匙１、石錐２、ピエス・エスキーユ31、打製石斧35、大形石匙６、横刃形石器20、磨製石斧１、磨石３、凹石１、敲石１、石皿１、使用痕を有する剥片51がある。**時期**：出土土器から中期中葉Ⅴ～Ⅵ期（井戸尻Ⅰ・Ⅱ～Ⅲ式期）にかけて構築されたと考えられる。

第３号住居址（第９図）

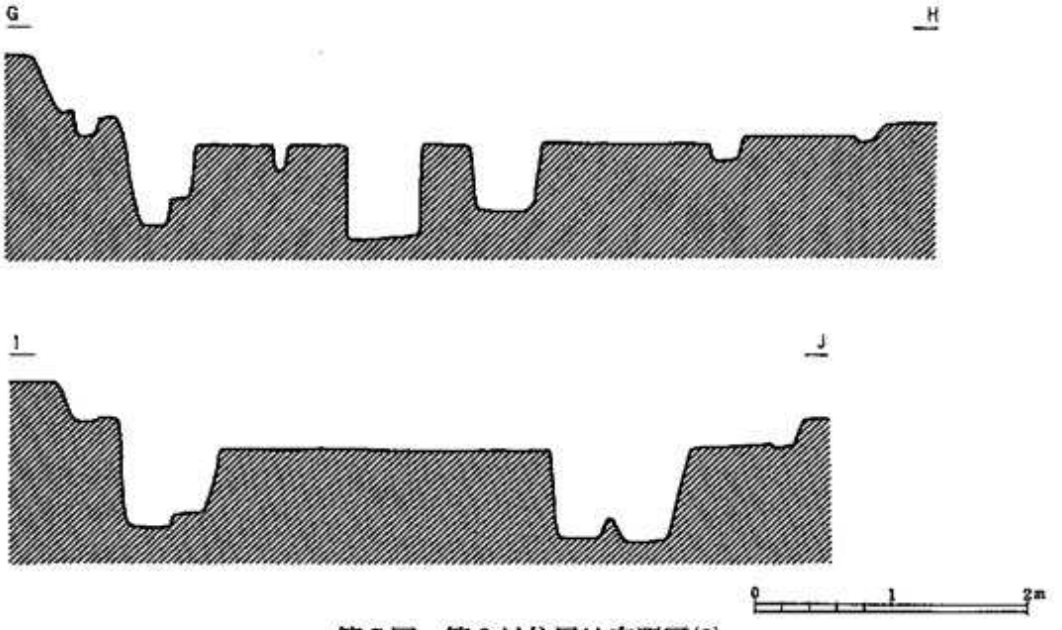
調査経過：遺構検出時にローム層上面で検出した。北側の壁が耕作によって削平されていたため、当初は小形の住居址と考えていたが、北に拡がる周溝が検出されて規模が明らかになった。**規模・形状**：径4.7mの円形と推定される。**覆土**：２層の暗褐色土が堆積し、22・23号土坑に掘り込まれている。**床面・壁**：床面は平坦で比較的堅い。壁は北側で削平され、残存部の壁高は５～10cmである。**周溝**：北側で欠如しているが全周していたと推定される。**炉**：中央北よりに焼土が確認できる長径1.1m、深さ30cm掘りこみがある。**柱穴**：５個あるが等間隔の４個が主柱穴か。**出土遺物**：覆土が薄く遺物は少ない。中期後葉の土器片とピエス・エスキーユ１、打製石斧３、凹石１がある。**時期**：出土土器から中期後葉と考えられる。

第４号住居址（第８図）

調査経過：検出時に漸移層で確認するが、表土中から土器片、炭粒の出土があった。第５号住居址と重複し、本址が新られる。**規模・形状**：径5.6mの円形と推定される。**覆土**：炭粒とローム粒を含んだ暗褐色土の２層がある。**床面・壁**：堅く締まった床面で、南から北へやや傾斜があ



第6図　第2号住居址実測図(1)

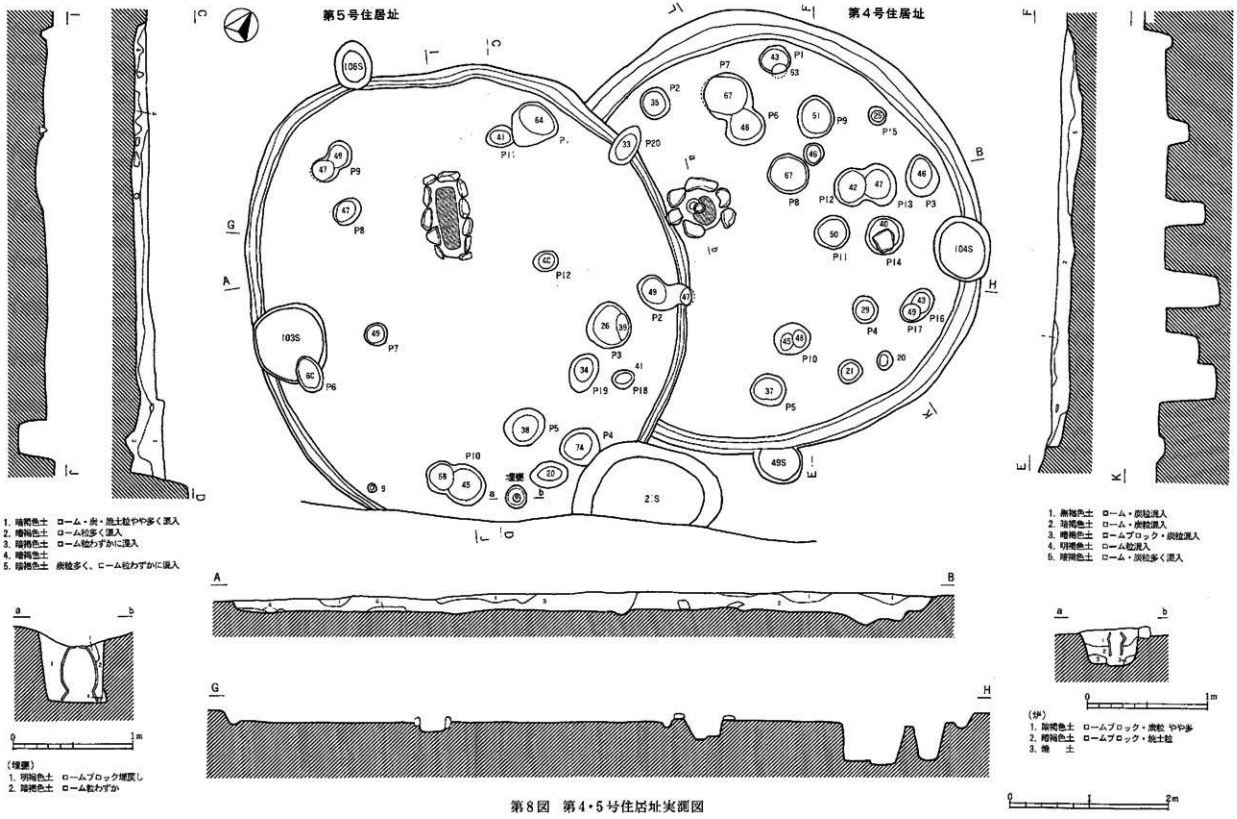


第7図　第2号住居址実測図(2)

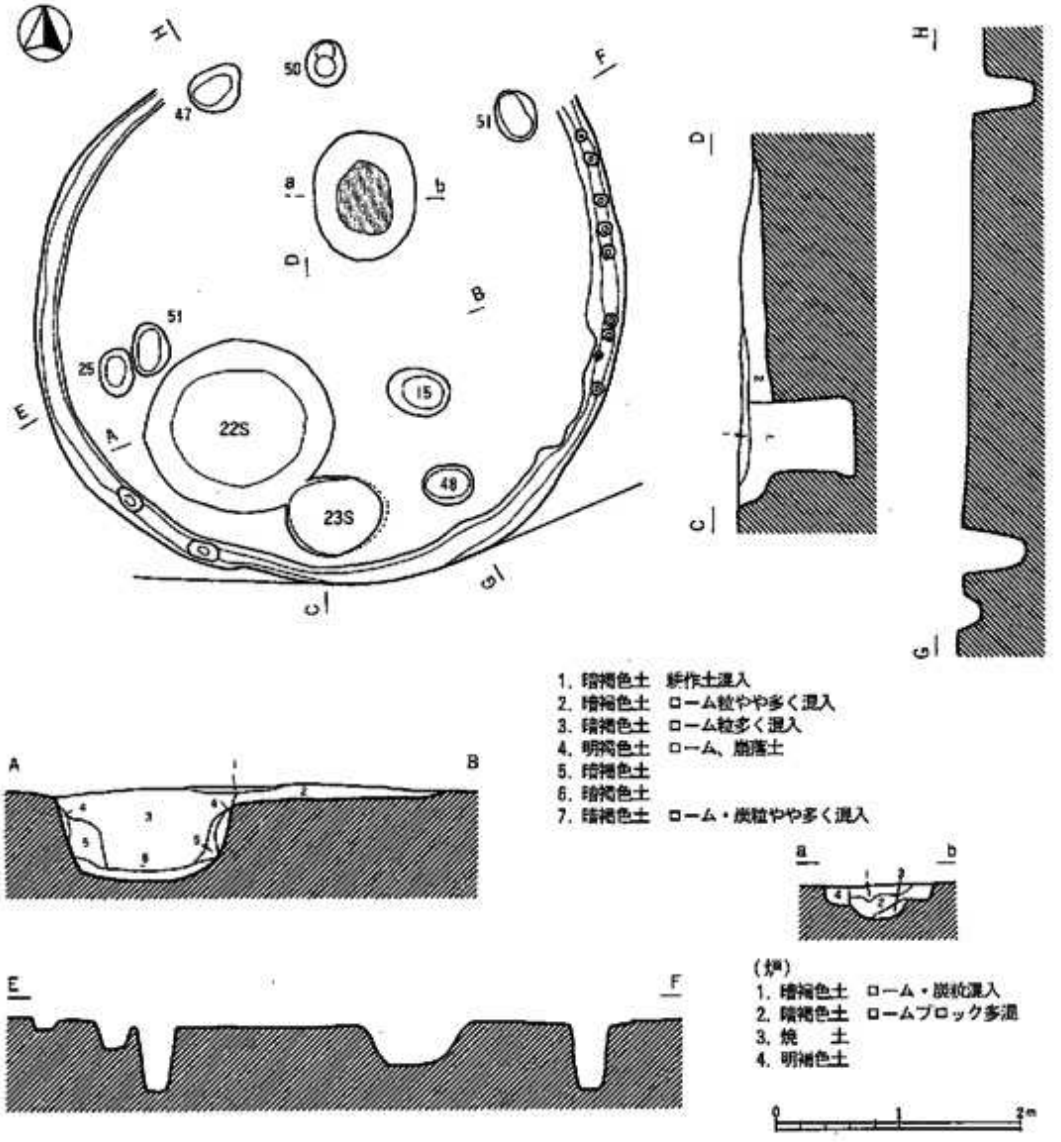
り炉の周辺で凹凸がみられる。壁は垂直に立ち上がり、壁高は10～20cmである。**周溝**：第5号住居址の掘り込みによって欠如するが、残存部では深さ10cm前後を測る。**炉**：中央北西寄りにある石囲い埋甕炉で6個の石を円形に配置している。南側は焚き口として開いている。北側の大きな石だけわずかに埋めこみ、その他は置いている程度である。径50cm、深さ20cmの掘形の中央には小形の土器が設置されている。**柱穴**：$P_{2\cdot20}$、P_3、$P_{16\cdot17}$、P_8、$P_{18\cdot19}$ の5本柱が考えられる。P_7、$P_{8\cdot15}$ は埋め戻されている。**出土遺物**：炉体土器（第51図75）の他にP_8内（第52図78）と中央付近の覆土から深鉢形土器（第51図76・77、第52図79）が出土している。石器では石鏃4、ピエス・エスキーユ2、打製石斧8、大形石匙2、横刃形石器2、磨製石斧1がある。**時期**：中期後葉Ⅰ期。

第5号住居址（第8図）

調査経過：表土除去中から多くの土器片の出土があり、漸移層で検出した。第4号住居址の西側を掘り込んで構築される。**規模・形状**：プランは東西5.5m×南北6mの楕円形と推定される。**覆土**：遺物や炭粒、ローム粒を多く含んだ暗褐色土が堆積する。**床面・壁**：床面は平坦で堅く締まる。壁は垂直に立ち上がり、壁高は10cm前後である。**周溝**：調査区外は不明だが、5cm前後の深さがある。**炉**：中央北寄りにある。長方形の石囲い炉で1.2m×60cmを測る。11個の石で構成され東側はわずかに埋め込み、西側は上面が平になるように置かれている。南側の炉石のみ抜き去られている。深さは10cmで底面は凹凸がある。**柱穴**：P_7、P_8、P_{11}、P_{12}の4本柱と考えられる。P_5、P_9、P_{10}は埋め戻されている。**その他の施設**：南側に埋甕が設けられる。底を抜いて逆位に埋設され、床面にわずかに底部を覗かせる。掘り形はやや大きく埋甕の両脇はロームでしっかり



第8図　第4・5号住居址実測図



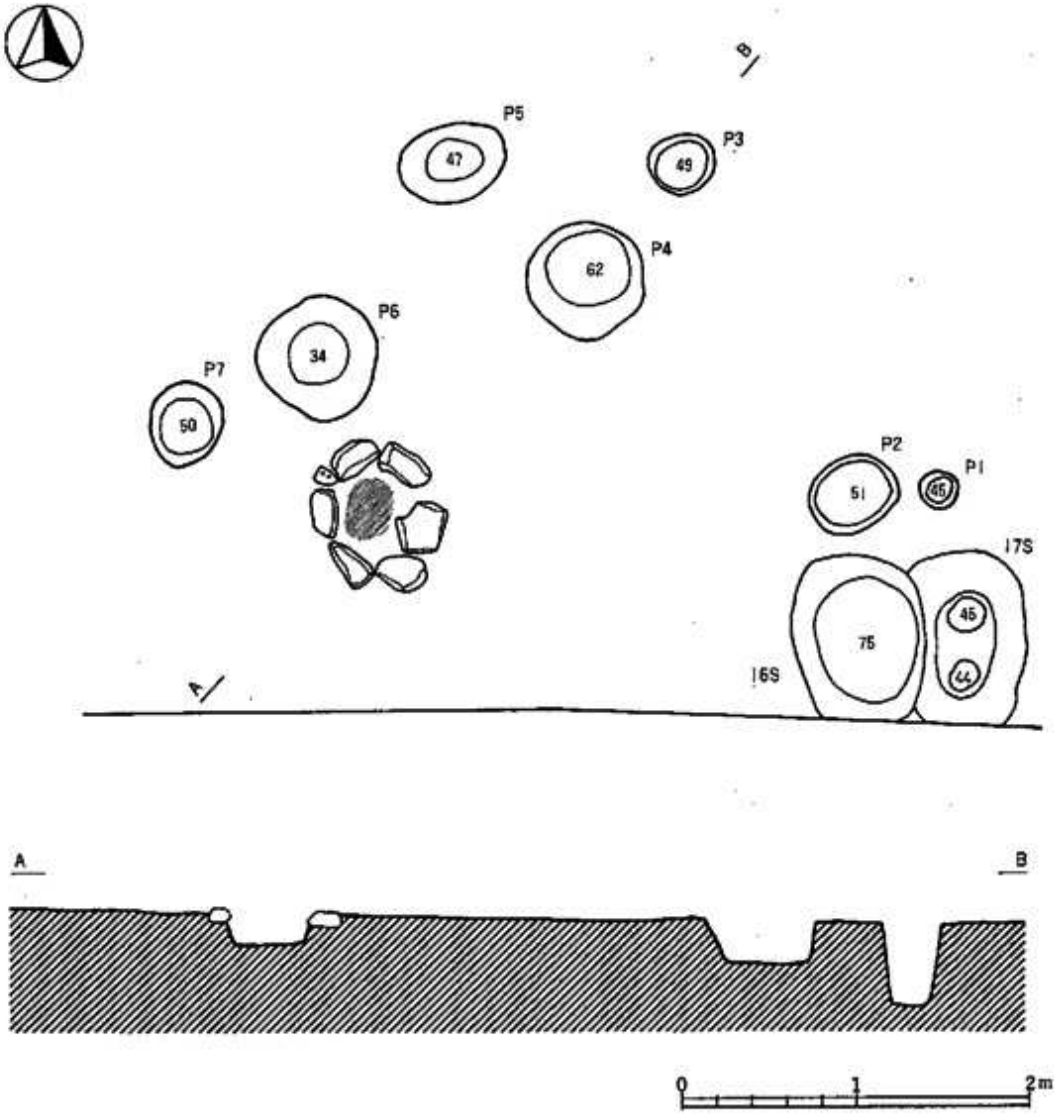
第9図　第3号住居址実測図

と埋め戻されていた。**出土遺物**：埋甕（第53図85）の他に南側の覆土を中心に多くの遺物が廃棄されていた。土器は深鉢形土器（第52図83、第53図84）が出土している。石器はピエス・エスキーユ1、打製石斧1、磨石1、凹石2がある。**時期**：中期後葉Ⅱ期。

第6号住居址（第10図）

調査経過：遺構検出時、ローム層に近くなったところで石囲いが検出し、住居址と確認したが土器片は比較的多く出土していた。**規模・形状**：壁、周溝が確認できず不明であるが、柱穴の位置から約5m強の円形プランと推定される。**覆土**：漸移層中に掘り込まれていたため確認でき

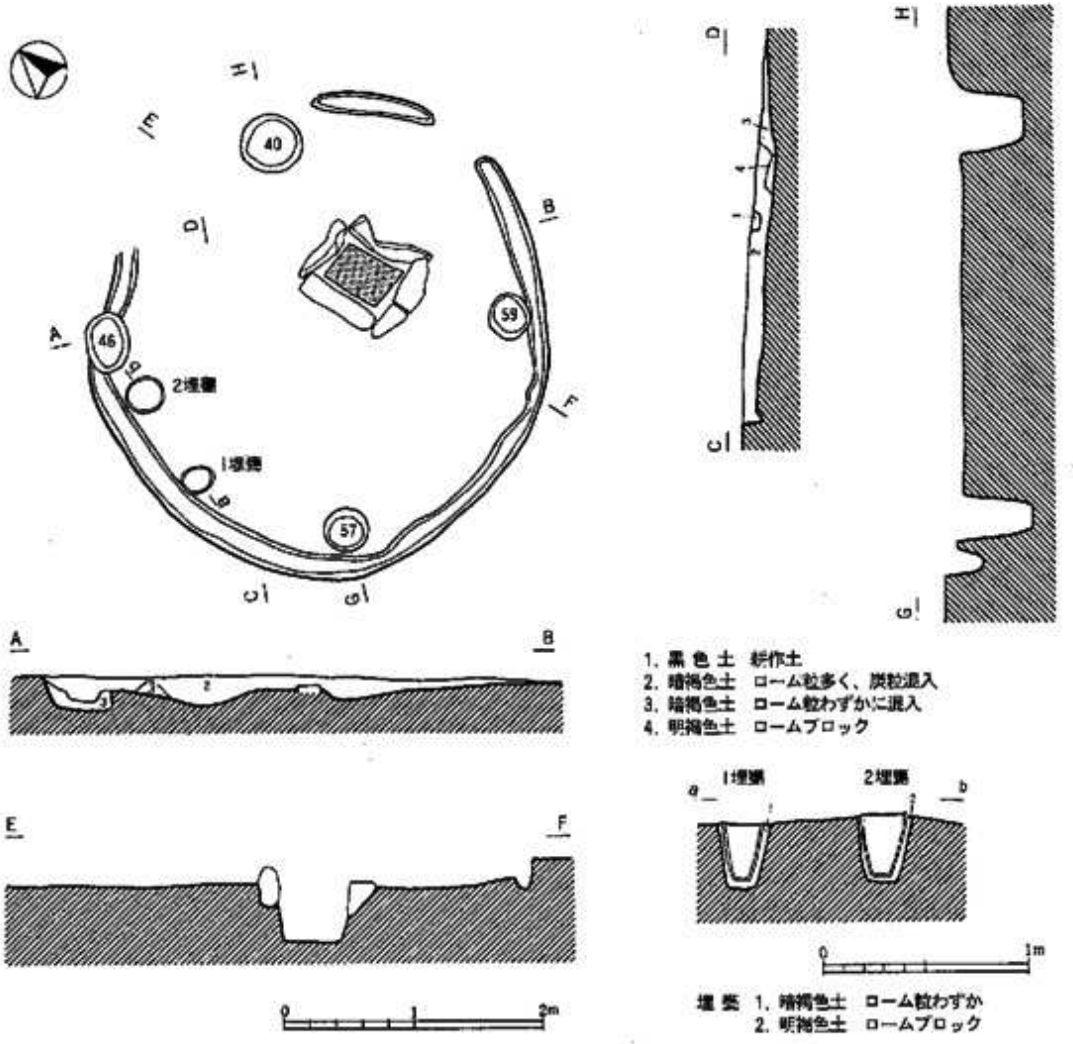
なかったが土器片や炭粒、ローム粒を含んだ暗褐色土があった。**床面・壁**：ローム層上面を床面として柱穴を結んだ内側がやや堅くなっている。**炉**：円形の石囲い炉で破損した石皿と凹石が使用されている。炉石は南側で平らにそろえられ、深さは15cmである。**柱穴**：17号土坑底面にある2個を含め、床面から9個のピットが検出された。**柱穴**の可能性を持つのはP_2、P_3、P_7である。P_4は完掘で深さ62cmの掘り込みがあったが、床面下26cmでロームを埋め戻した底面がいったん設けられ、その下部の暗褐色土層には打製石斧1、磨製石斧2と人頭大の礫が詰め込まれていた。**出土遺物**：中期後葉土器（第52図80）と打製石斧2、磨製石斧2、凹石2、石皿1がある。**時期**：中期後葉Ⅰ期。



第10図　第6号住居址実測図

第７号住居址（第11図）

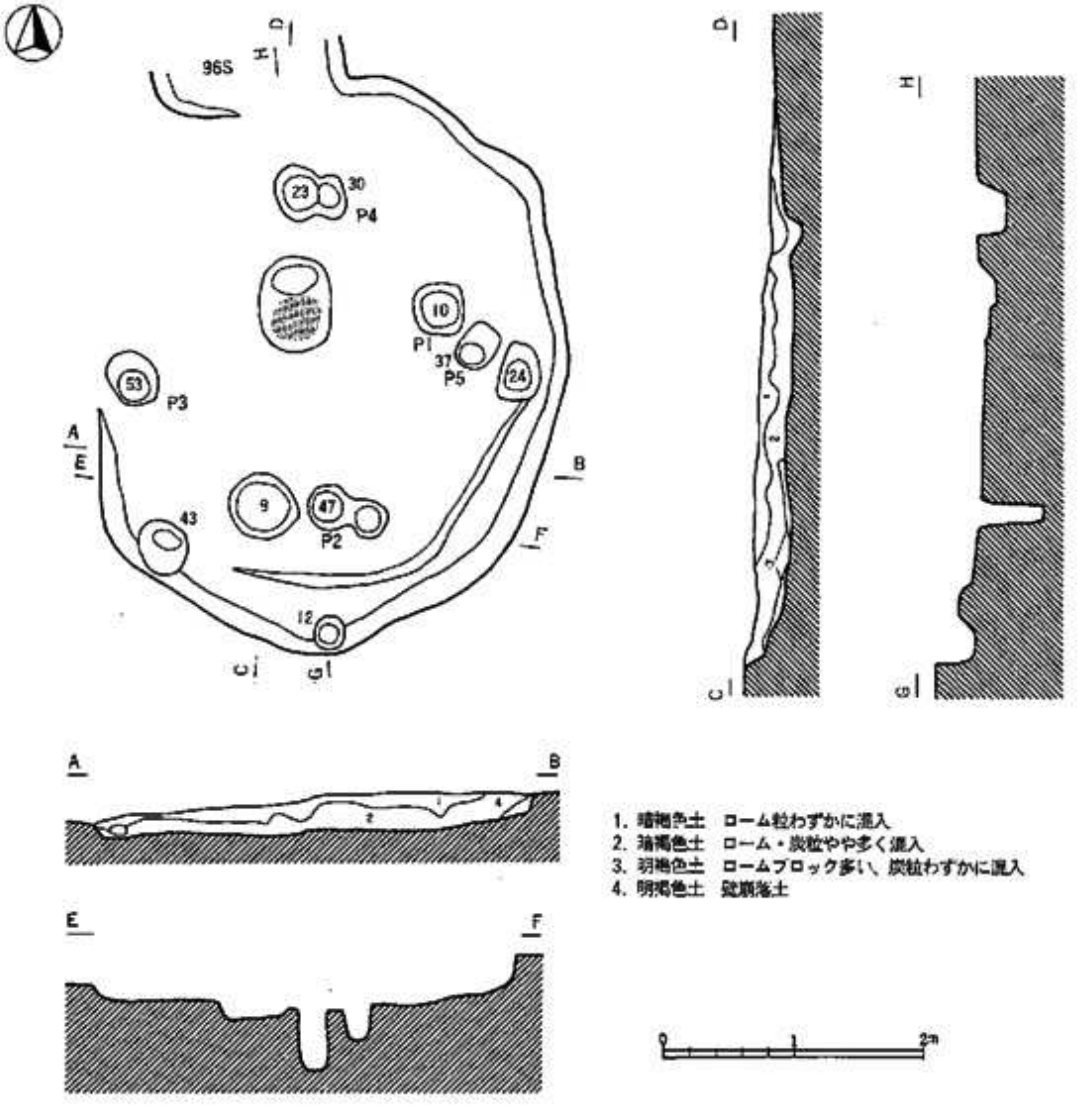
調査経過：表土除去中にローム層上面で検出した。北側は表土直下が床面となっていた。**規模・形状**：直径3.6mの円形プランである。**覆土**：北側は削平され存在しないが、ローム・炭粒を含んだ暗褐色土が２Py堆積している。**床面・壁**：平坦な床面で非常に堅く締まる。壁は垂直に立ち上がり、10～20cmの高さがある。**周溝**：北側は削平されているが残存部で深さ10～20cmを測る。**炉**：石囲い炉で中央奥寄りにある。４個の大きな石を深く埋め込んだ立派な作りである。入口方向のみ上面を平にして焚き口としている。掘り形は60×40cmの長方形で40cmの深さがある。炉壁、炉底ともに非常に堅く、よく熱を受けている。**柱穴**：４個の主柱穴で深さは50～60cmである。**その他の施設**：出入口壁下に２基の埋甕が設けられる。２基とも正位に埋設された完形品である。**出土遺物**：土器は１号埋甕（第55図87）と２号埋甕（第55図88）の他に小形の鉢（89）がある。石器はピエス・エスキーユ３のみである。**時期**：中期後葉Ⅲ期。



第11図　第７号住居址実測図

第８号住居址（第12図）

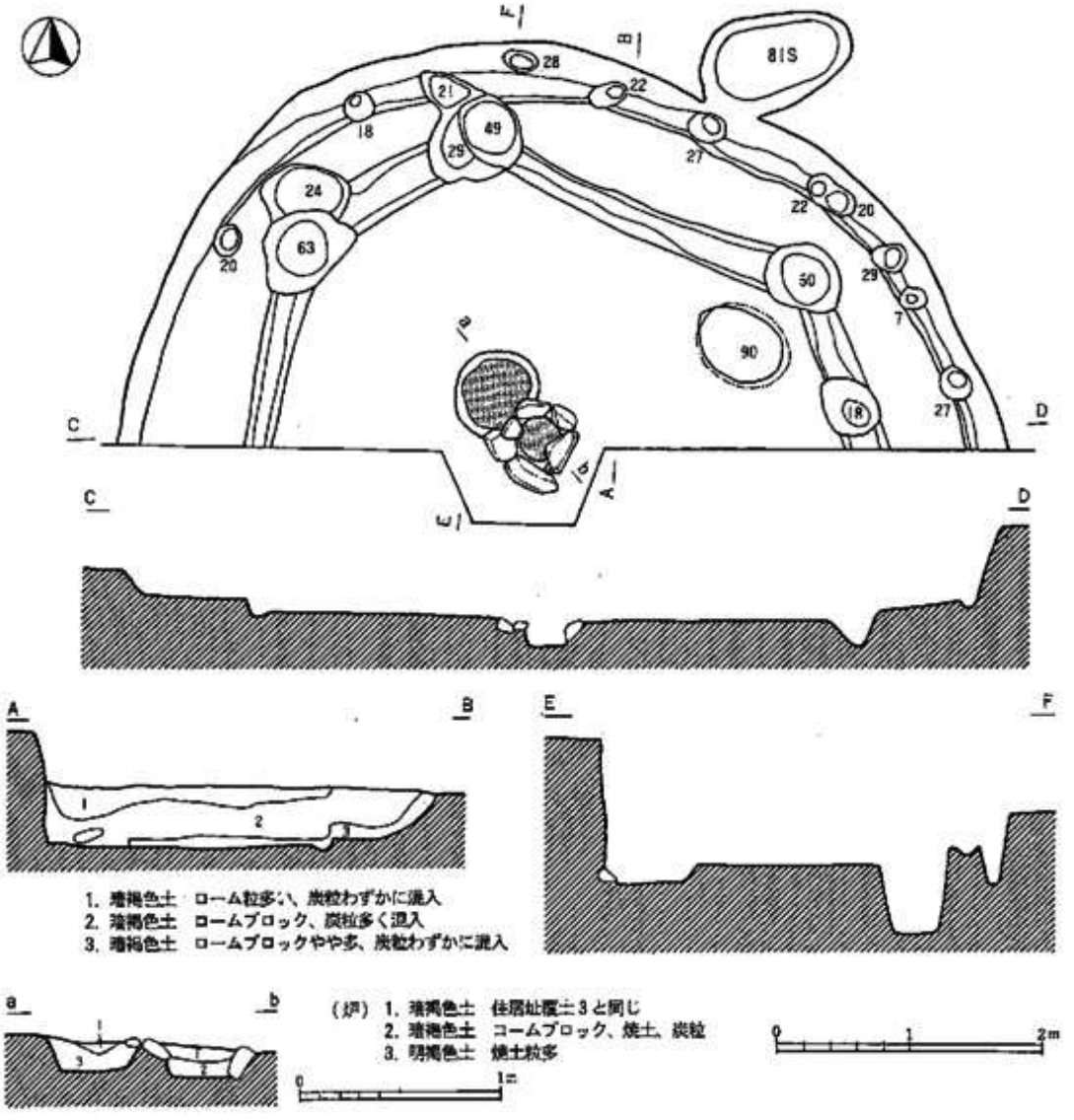
調査経過：ローム層上面で検出するが遺物はほとんど出土しなかった。**規模・形状**：西側は削平のため不明であるが、4.3×3.6mの隅丸六角形を呈すると推定される。**覆土**：ローム・炭粒を含んだ２層の暗褐色土が堆積する。**床面・壁**：凹凸のある床面で硬化したところはない。南側に10cmの段差がある。壁はだらだらと立ち上がる10～20cmの壁高を持つ。**周溝**：存在しない。**炉**：中央北寄りにわずかに掘り込まれた火床があり、微量の焼土が観察される。**柱穴**：床面から11個のピットが検出され、深さ、規模からP_1～P_4が主柱穴と考えられる。**出土遺物**：中期初頭土器片とピエス・エスキーユ２、凹石１、使用痕を有する剥片３のみである。**時期**：中期初頭と考えられる。



第12図　第８号住居址実測図

第９号住居址（第13図）

調査経過：ローム層上面で検出する。地表からローム層まで30cmと浅いが耕作の影響は全く受けておらず、漸移層がきれいに残り住居址の覆土へと続いていた。**規模・形状**：調査できたのは北半部で全容は不明だが直径７ｍ弱の円形プランと推定できる。第２号住居址と似ており、やや大きめの規模となろう。**覆土**：ローム・炭粒を含んだ３層の暗褐色土に分かれる。床面と接する３層は拡張した住居の貼床とも考えられたが、拡張部の覆土との違いは見いだせなかった。**床面・壁**：床は壁下と炉面の２段からなり、比高差は10cm前後ある。壁下の床面は内側に傾斜し、下段の床面は平坦でどちらも非常に堅く締まっている。壁はほぼ垂直に掘り込まれ、壁高は20～45cmと深い。**周溝**：壁下の周溝は３cm前後と浅く西側で途切れている。内側の周溝は杜穴を結びな

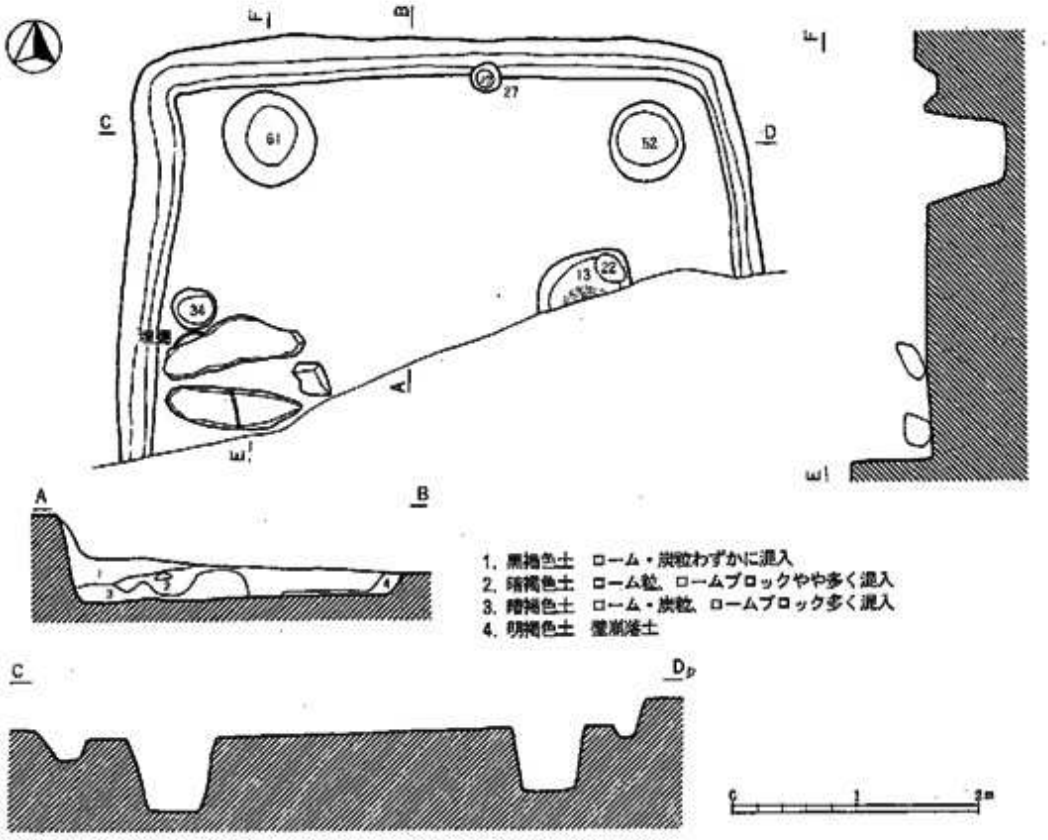


第13図　第９号住居址実測図

がら調査区内では全周する。**炉**：調査区外に接して検出され、住居中央北寄りに位置すると推定される。小形の石囲い炉で、掘り形に沿って斜めに石を埋め込んでいる。北側には旧炉址の浅い火床がある。**柱穴**：4個の主柱穴があり、立て替えを行っている。また、壁下には11個の支柱穴がまわっている。その他の施設：東側床面に深さ80cmの袋状ピットがあり、底面には石が並べられ脇から土製品が出土した。床面に掘り込まれた大きなピットは第2号住居址とも共通している。**出土遺物**：石囲い炉上の覆土を中心に多くの遺物が出土した。土器は大小の深鉢（第32図2～34図9）が出土している。石器は石鏃6、石錐4、ピエス・エスキーユ25、打製石斧12、大形石匙1、横刃形石器7、磨製石斧1、凹石2、使用痕を有する剥片31がある。**時期**：中期中葉Ⅳ期（藤内Ⅱ式期）。

第10号住居址（第14図）

調査経過：ローム層上面で検出する。第9号住居址と同様、地表からローム層まで浅いにもかかわらず、耕作の影響を受けていない。**規模・形状**：調査区外にかかるため全容は不明だが北壁の長さは4.7mを測る。4本主柱穴で埋甕が西壁の中央にあるとすると隅丸方形のプランが推定される。**覆土**：ロームブロックを多く含む土層の複雑な堆積状況が観察され、埋め戻された可能

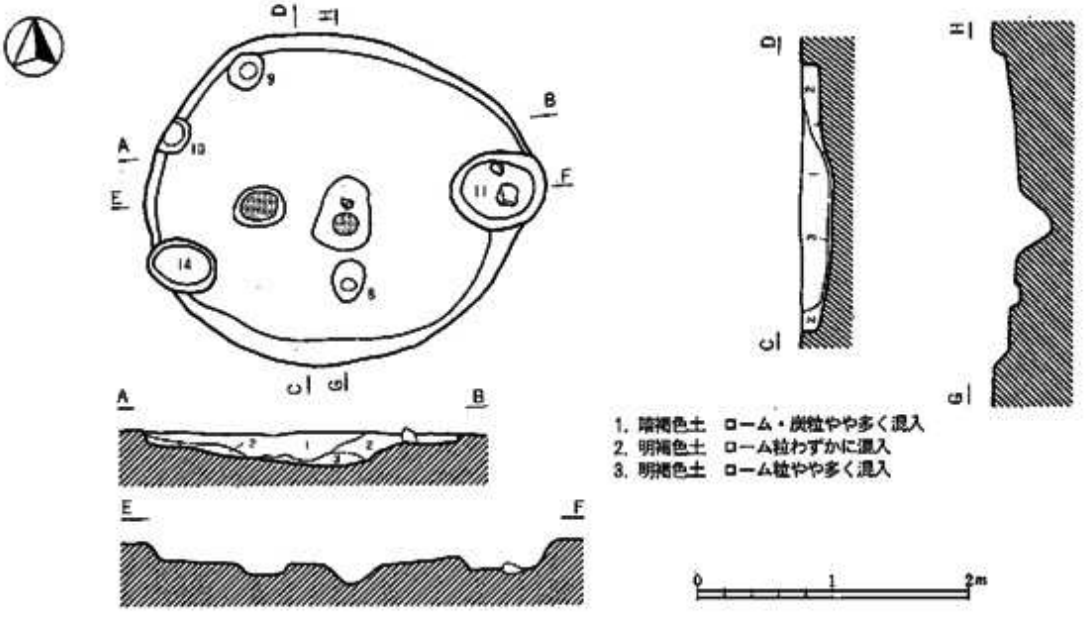


第14図　第10号住居址実測図

性がある。**床面・壁**：平坦な床面で堅く締まる。壁はほぼ垂直に掘り込まれ、壁高は20～30cmを測る。**周溝**：調査区内では10～15cmの深さで壁下に築かれる。**炉**：中央東寄り、調査区外にかかって焼土の落ち込みを検出した。炉石は抜き去られ、底面に焼石が転がっていた。**柱穴**：3個のピットが床面にあり、2隅のものが主柱穴で、埋甕の脇は出入口施設の柱穴であろう。**その他の施設**：出入口壁下に埋甕が正位に設けられている。埋設された土器は口縁部がやや欠けている程度で完形に近い。さらに、その上に直径1m余りある2個の巨石が埋甕をはさむ形で置かれていた。覆土を掘り下げ、この巨石が検出された時には別遺構の施設か後世に入り込んだものかとも考えたが、床面に設置していることから本址に伴うことは確実になった。加工をした様子はなく自然石で、左のものは反り上がって床面から浮き上がっている。石の両脇からは床面に接して小形の土器が出土した。**出土遺物**：土器は埋甕（第56図90）と小形の土器（第56図91）がある。石器は石鏃1、ピエス・エスキーユ1、打製石斧1、横刃形石器1、使用痕を有する剥片1がある。**時期**：中期後葉Ⅲ期。

第11号住居址（第15図）

調査経過：ローム層上面で検出したが、覆土の落ち込みが不明瞭で遺物の出土も少なく掘り込み面を特定するのに手間取った。**規模・形状**：プランは2.9×2.4mの楕円形を呈する。**覆土**：ローム・炭粒を含んだ3層の堆積があり、自然埋没と考えられる。**床面・壁**：床面は軟弱で凹凸がある。壁は緩やかに掘り込まれ不明瞭であるが10～15cmの高さがある。**周溝**：存在しない。**炉**：中央西寄りにある。長径30cm、深さ15cmの小さな掘り込みだが、焼土はよく残っている。炉石の抜き痕がないところをみると地床炉か。**柱穴**：床面と壁に6個のピットがあるがいずれも浅い。

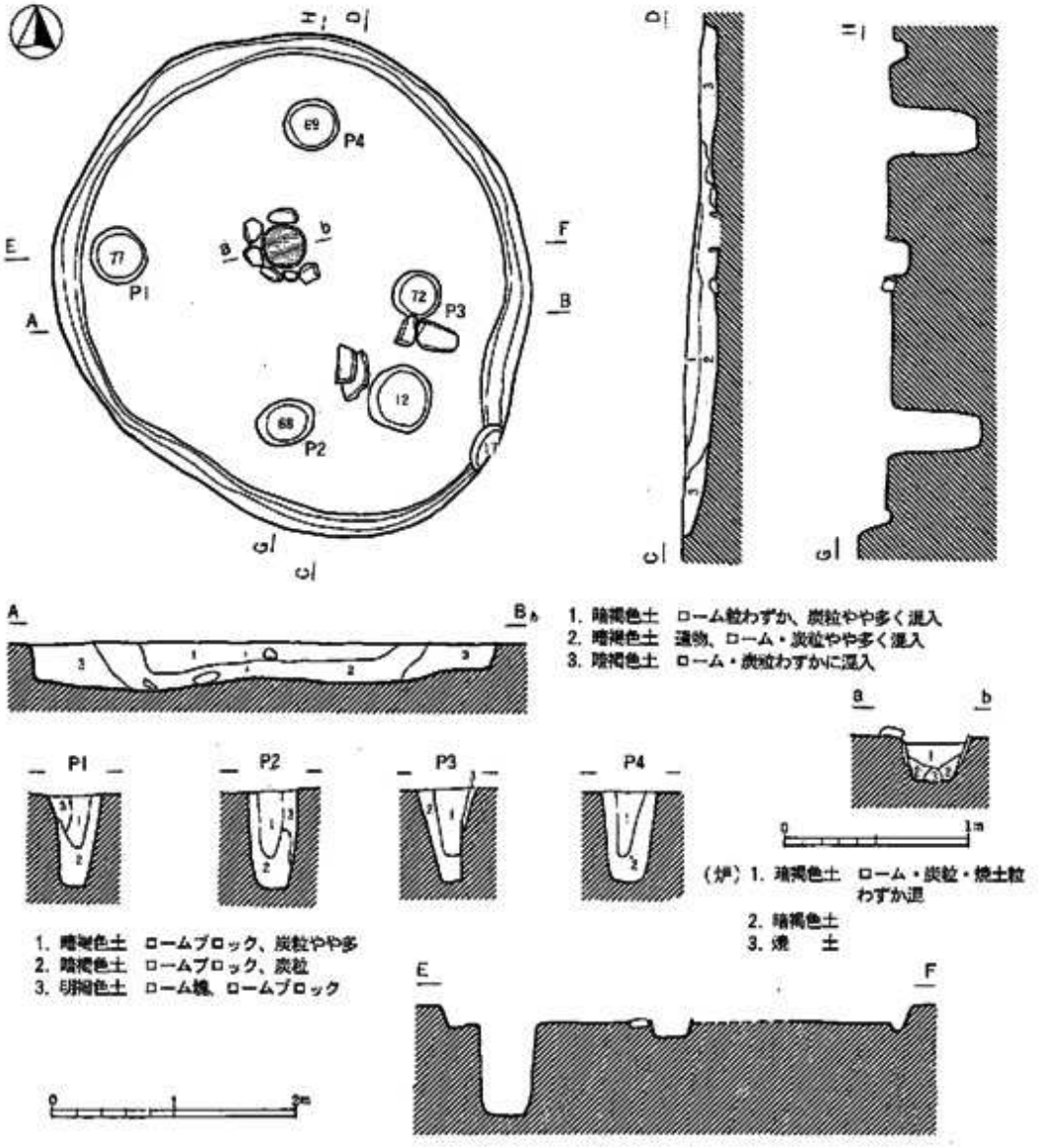


第15図　第11号住居址実測図

住居の規模から考えれば、不規則な配置であったことも予想される。**出土遺物**：中期後葉土器片と打製石斧1のみである。**時期**：中期後葉1期と考えられる。

第12号住居址（第16図）

調査経過：ローム層上面で検出するが漸移層から多くの土器片が出土していた。**規模・形状**：プランは4.2×3.7mの南側が挟まった楕円形を呈する。**覆土**：ローム・炭粒を含んだ3層の暗褐色土が堆積し、遺物の多くは2層中から出土した。堆積状況から自然埋没と考えられる。**床面・壁**：平坦な床面で堅く締まっている。壁はほぼ垂直に掘り込まれ、20cm前後の壁高がある。**周溝**



第16図　第12号住居址実測図

：壁下に設けられ、深さ５～10cmで全周している。**炉**：中央北西寄りにある。石囲い埋甕炉で攪乱によって一部破壊されている。埋設された土器は上下を切って胴部を利用している。炉石は扁平なものが選ばれ、埋め込むことなく置かれている。炉底は平坦で被熱によって堅く締まっている。**柱穴**：４個の主柱穴で70cm前後と深い。**出土遺物**：炉体土器（第50図70）と覆土から多くの土器（第50図71～51図74）が出土している。石器はピエス・エスキーユ１、打製石斧２、大形石匙１、磨石１、使用痕を有する剥片１がある。**時期**：中期中葉Ⅵ期。

第13号住居址（第17図）

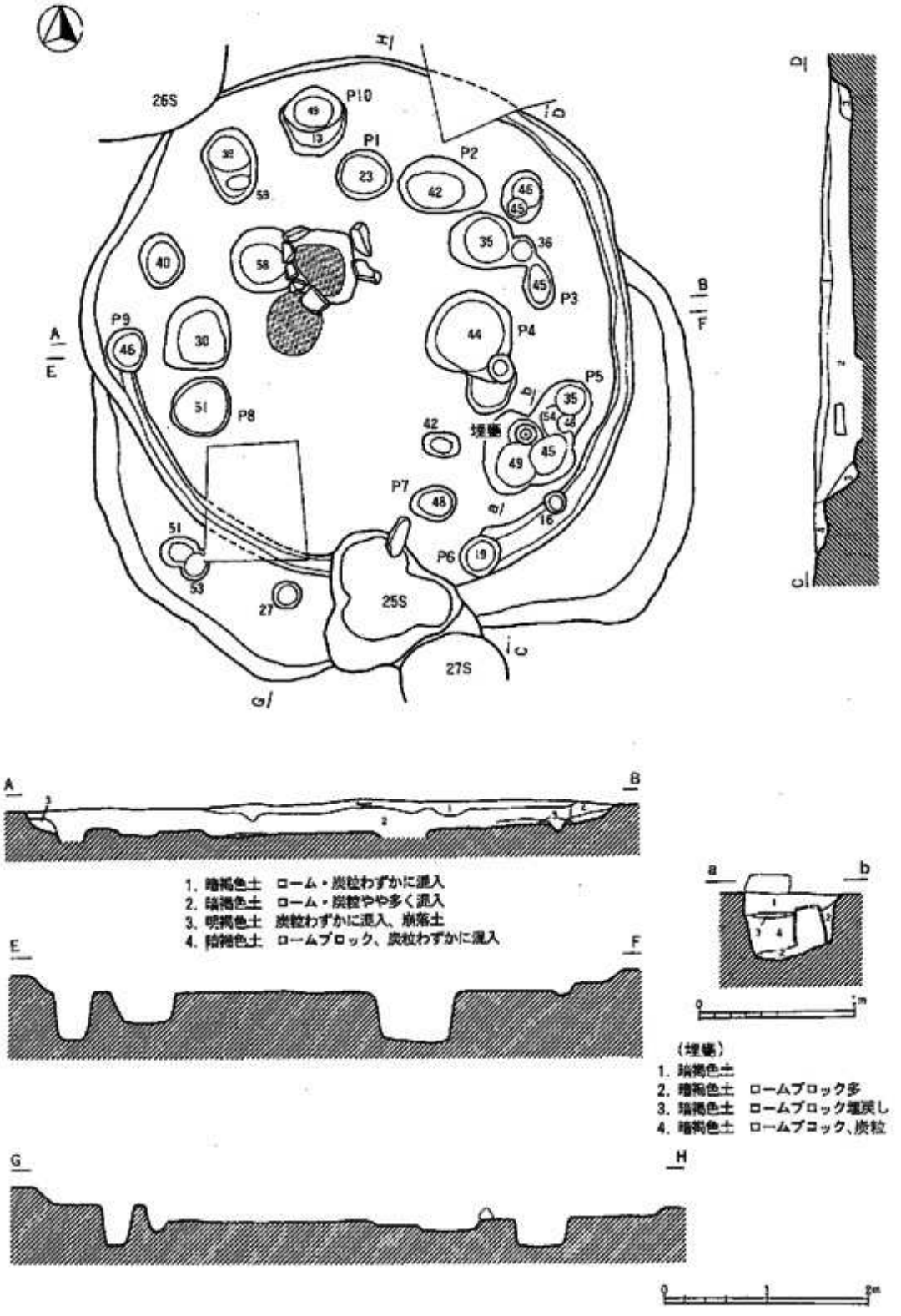
調査経過：第12号住居址に近接して位置する。ローム層上面で検出する。**規模・形状**：5.3×5.0mのほぼ円形を呈する。南側には不整形の掘り込みが接し堅緻な面もあることから、住居址が重複している可能性がある。**覆土**：炭粒、ローム粒を含む２層の暗褐色土が堆積し、自然埋没と考えられる。また、本址が南側に接する住居址状の覆土を掘り込み、この遺構は25号土坑を埋めて貼床を設けていることが確認できた。**床面・壁**：平坦な床面で堅く締まっている。壁はほぼ垂直に立ち上がり、南壁で10～30cm、北壁で10cm前後の高さがある。**周溝**：北西側を除いて設けられるが、５cm前後と浅い。**炉**：石囲い炉で中央北寄りにある。西側の炉石は埋め込まれているが東側は置かれた程度である。北側の炉石は抜き去られている。**柱穴**：床面に重複したものも含め25個のピットがあり断定しがたいが、位置、規模からP_3、P_7、P_3、P_{10}あたりが主柱穴か。**その他の施設**：南東の床下に埋甕が設けられる。土坑の覆土である暗褐色土を掘り下げたところ、胴下半部の底部中央を穿孔した逆位の埋設土器が現れた。底部の周囲にはロームの貼床が認められた。後葉Ⅱ期に出現する埋甕とは埋設方法が異なっている。**出土遺物**：土器は埋甕（第52図81）の他に深鉢（第52図82）が覆土から出土した。石器は石鏃１、ピエス・エスキーユ７、打製石斧２、大形石匙４、横刃形石器４、凹石１、砥石１、使用痕を有する剥片４がある。**時期**：中期後葉Ⅰ期。

第14号住居址（第18図）

調査経過：ローム層上面で検出するが大部分は調査区外にかかる。**規模・形状**：円形を呈すると推定される。**覆土**：暗褐色土の堆積がある。**床面・壁**：堅く締まった床面があり、壁の掘り込みもしっかりしている。**周溝**：２本あり、壁下のものは15cm前後の深さで設けられる。**炉**：調査区外にあると考えられる。**柱穴**：床面上に内側の周溝と接する２個のピットがあり、柱穴と思われる。**出土遺物**：中期後葉土器片と打製石斧２、横刃形石器１がある。**時期**：中期後葉Ⅰ期。

第15号住居址（第18図）

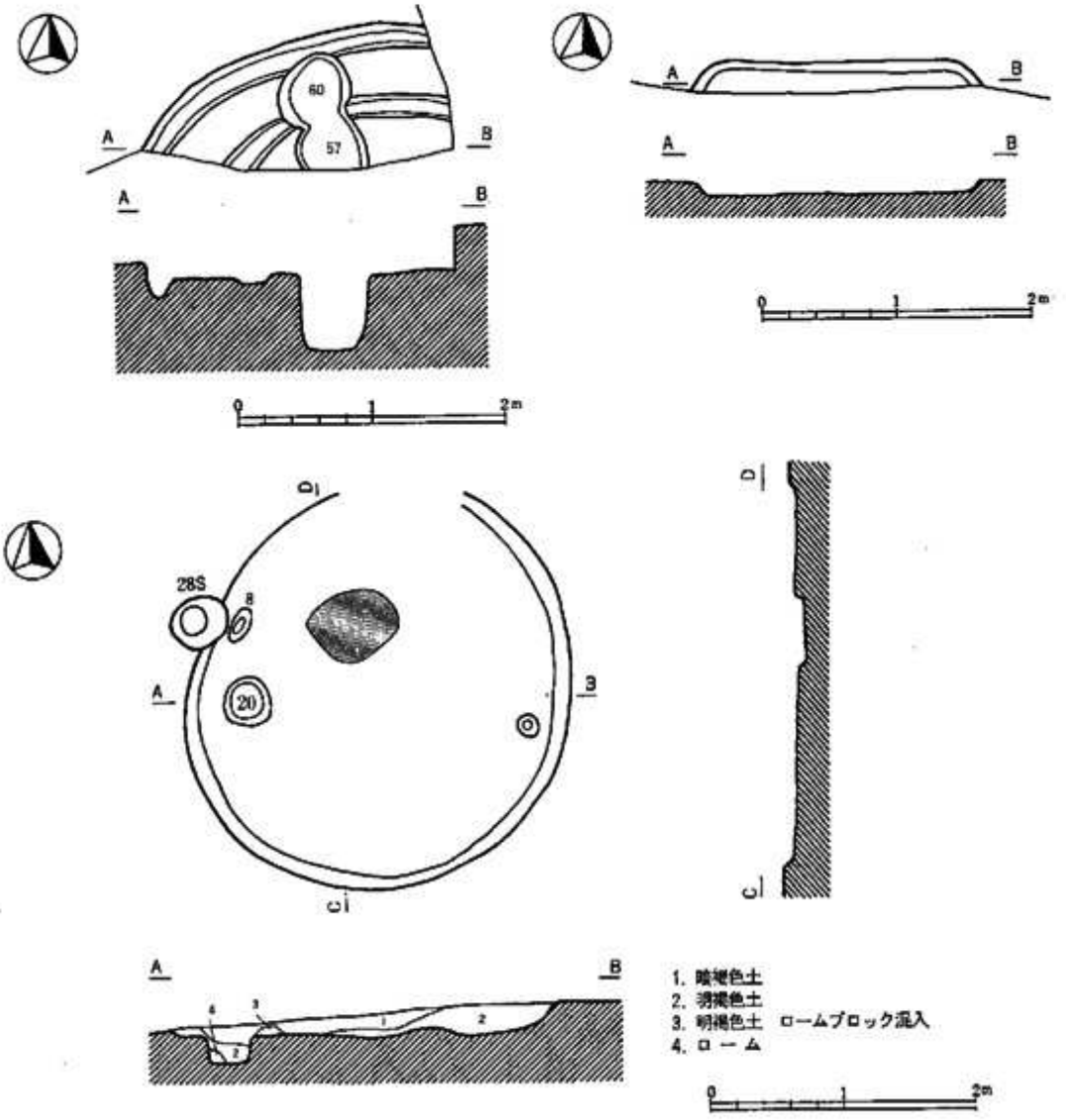
調査経過：第９号住居址の西側にあり、ローム層上面で検出する。壁と床面の一部を確認できたにすぎない。**規模・形状**：不明。**覆土**：暗褐色土の堆積がある。**床面・壁**：平坦な床面で堅く締まる。壁高は15cm前後あり、しっかりした掘り込みである。**周溝・炉・柱穴**：検出されていない。



第17図　第13号住居址実測図

第17号住居址（第18図）

調査経過：平成３年度調査（調査時は第２号住居址）。ローム層上面で検出する。**規模・形状**：3.0×2.8mのほぼ円形を呈する。**覆土**：暗褐色土と明褐色土の２層の堆積があり、自然埋没と考えられる。**床面・壁**：床は凹凸が著しく北側の３分の２に硬化した面が存在する。壁はほぼ垂直に掘りこまれるが、壁高は東で10cm、西で５cmと浅い。**周溝**：存在しない。**炉**：中央北寄りにある。５cmほどの浅い掘りこみがあり、焼土と炭化物が確認できた。**柱穴**：床面に３個のピットがあるが、柱穴として使用したかわからない。また、住居址の外側に深さ10～30cmのピットが廻ることから壁外柱穴の可能性もある。**出土遺物**：中期の土器片が出土している。**時期**：中期後葉。



第18図　第14･15･17号住居址実測図

3．平安時代の住居址

第１号住居址（第19図）

調査経過：平成３年度調査。ローム層上面で検出する。**規模・形状**：東西5.5m×南北推定5.7mの長方形を呈する。**覆土**：３層の堆積があり、自然埋没と考えられる。**床面・壁**：平坦な床面であるが凹凸が著しい。堅く締まり、南半がより堅緻に残っている。壁高は東西南で30～40cmと深く、ほぼ垂直に掘り込まれている。**周溝**：カマドの部分を除いて全周する。深さ５cm前後を測る。**カマド**：南東隅に設けられた石組み粘土カマドで焼土、炭は確認できなかった。**柱穴**：床面から５個、南壁の周溝にかかって２個のピットがある。**出土遺物**：カマドの周辺から須恵器坏、土師器甕（第70図１～３）が出土した。また西側周溝から炭化したカヤが出土している。**時期**：９世紀前半と考えられる。

第18号住居址（第19図）

調査経過：平成３年度調査（調査時は第３号住居址）。ローム層上面で検出し、第１号住居址に斬られる。**規模・形状**：不明であるが柱穴の配列から５m前後の円形を呈するか。**床面・壁**：壁は存在せず、床面も堅くない。**炉**：1.2×0.9m、深さ20cmの掘り込みがあり、焼土、礫が若干出土した。底面は平坦で堅く締まっている。**柱穴**：３個のピットが存在する。**出土遺物**：土師器がわずかに出土した。**時期**：平安時代と考えられる。

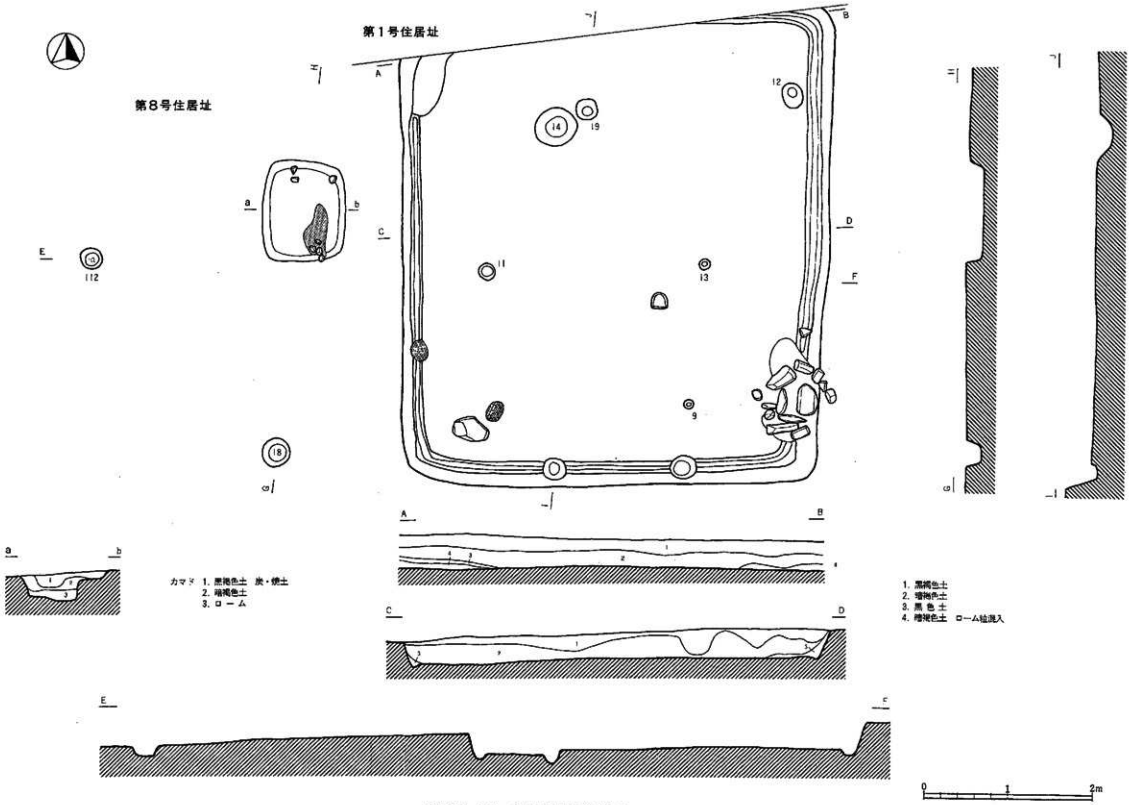
4．方形柱穴列

第１号方形柱穴列（第20図）

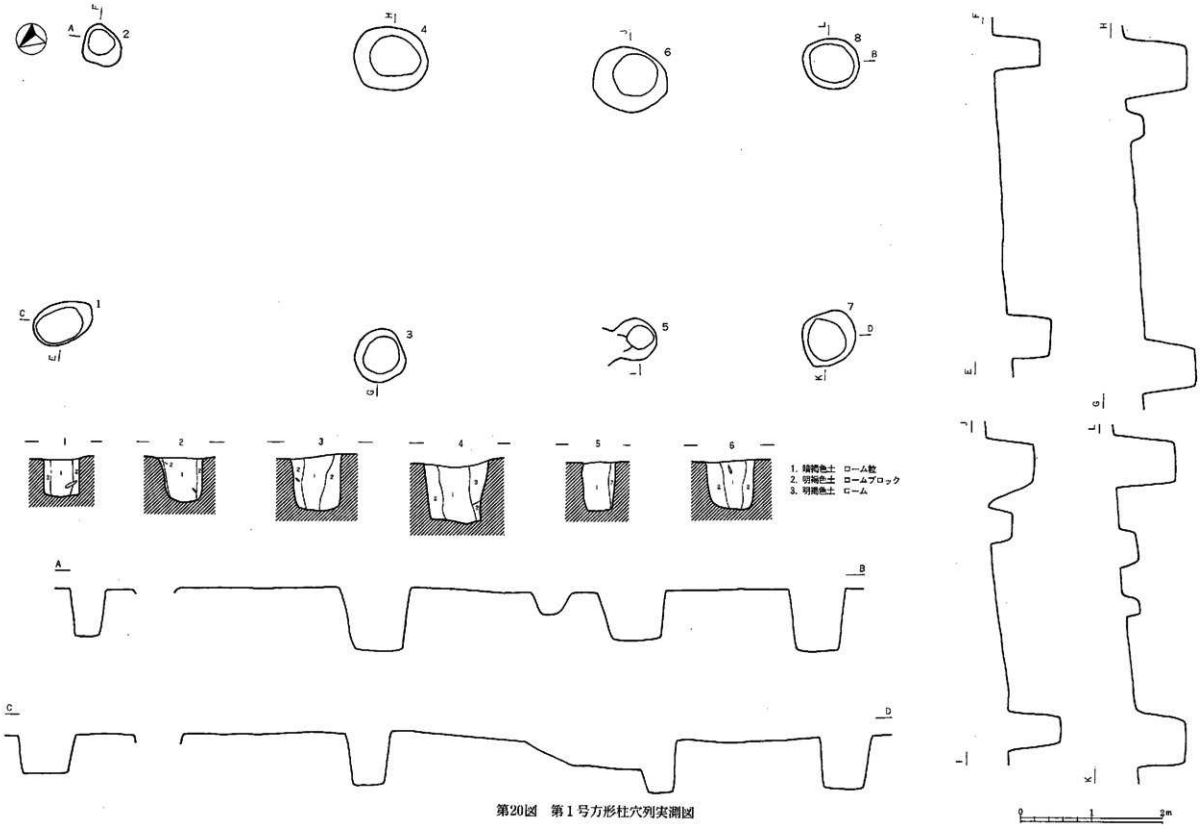
調査経過：平成４年度調査。第７号住居址と第９号住居址の間に位置する。周辺の土坑と同様にローム層上面で検出し、覆土の状況と柱穴の配置から方形柱穴列と確認した。**規模・型状**：２本×４本で構成され、4.5m×11.6mのほぼ長方形を呈する。ただし、調査区外にも柱穴が伸びている可能性がある。個々の柱穴は円形と楕円経を呈し、径60cm～１m、深さ50～90cmとばらつきがある。底面はいずれも平坦で硬くとともに非常に堅く敲き締められている。**覆土**：いずれの柱穴においても２層の覆土の堆積が認められた。壁際のものはローム塊を多量に含有することから、柱の根固めとした埋め土と考えられる。中央部の垂下層は柱痕と思われ、径30～50cmを測り、この覆土と接する底面には若干の凹みが認められた。**その他の施設**：柱穴列に囲まれた範囲からは焼土、床等の検出はなかった。**出土遺物**：覆土から中期中葉の土器片が出土した。また、周辺からは後期土器片の出土もあった。**時期**：確実に決定できる資料はなく、中期から後期と推定される。

5．土　坑（第21～31図）

ピット状の小形のものも含め、合計140基検出された。住居址周辺に分布するが、特に第２号住居址北側と方形柱穴列周辺に集中している。これらの土坑は径50cm、深さ30cm前後の小形の



第19図 第1・8号住居址実測図



第20図　第１号方形柱穴列実測図

ものが多い。これに対して、第18、21、24号土坑などは径1m以上で掘り込みも深く、底面・壁ともに堅緻な造りとなっている。以下、遺物の出土があった主要なものについて概観する。

第16号土坑覆土上面から土偶の腹部が出土している。第17号土坑を斬って構築されており、底面・壁ともに非常に堅緻である。

第37号土坑の覆土から横倒しの状態で土器が検出された。ほぼ完形の梨久保式土器で中期初頭の資料としては唯一のものである。本土坑の底面は非常に堅く敲き締められていた。

第55、56号土坑は方形柱穴列の長軸線上にあるため、構成する柱穴とも考えたが、覆土、深さが異なるため分離した。この両土坑は1mを越える掘り込みを持ち、完掘するのに手間取ることとなった。56号土坑では柱痕と根固めの埋め土が確認でき、両土坑の覆土からは後期・堀之内式土器が出土した。

個々については土坑一覧表を参考にされたい。表内の数値で他の遺構と重複している等により確定できないものについては推定規模により示した。

6．集石土坑

合計11基検出された。第6号住居址周辺に集中し、生居址群の西側に分布している。検出面は漸移層かローム層上面で、径1m前後の規模である。拳大の礫で構成され、礫の下には浅い掘り込みがある。礫は被熱が認められるが、赤化するほど顕著ではない。覆土からは微量の炭が検出された。礫に混じって中期土器片が出土しており、この時期の所産か。

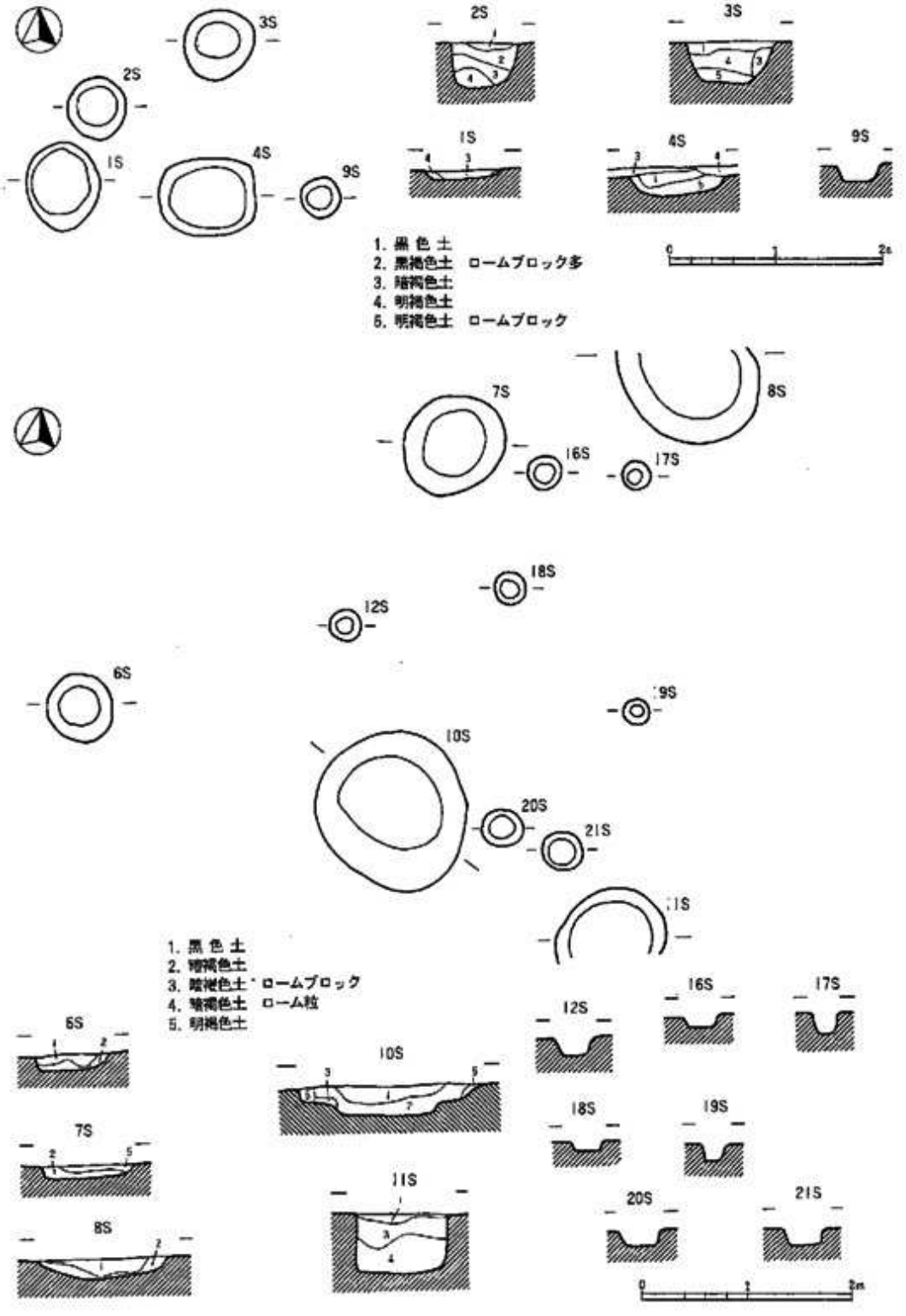
第2表　土坑一覧表

（平成3年調査）

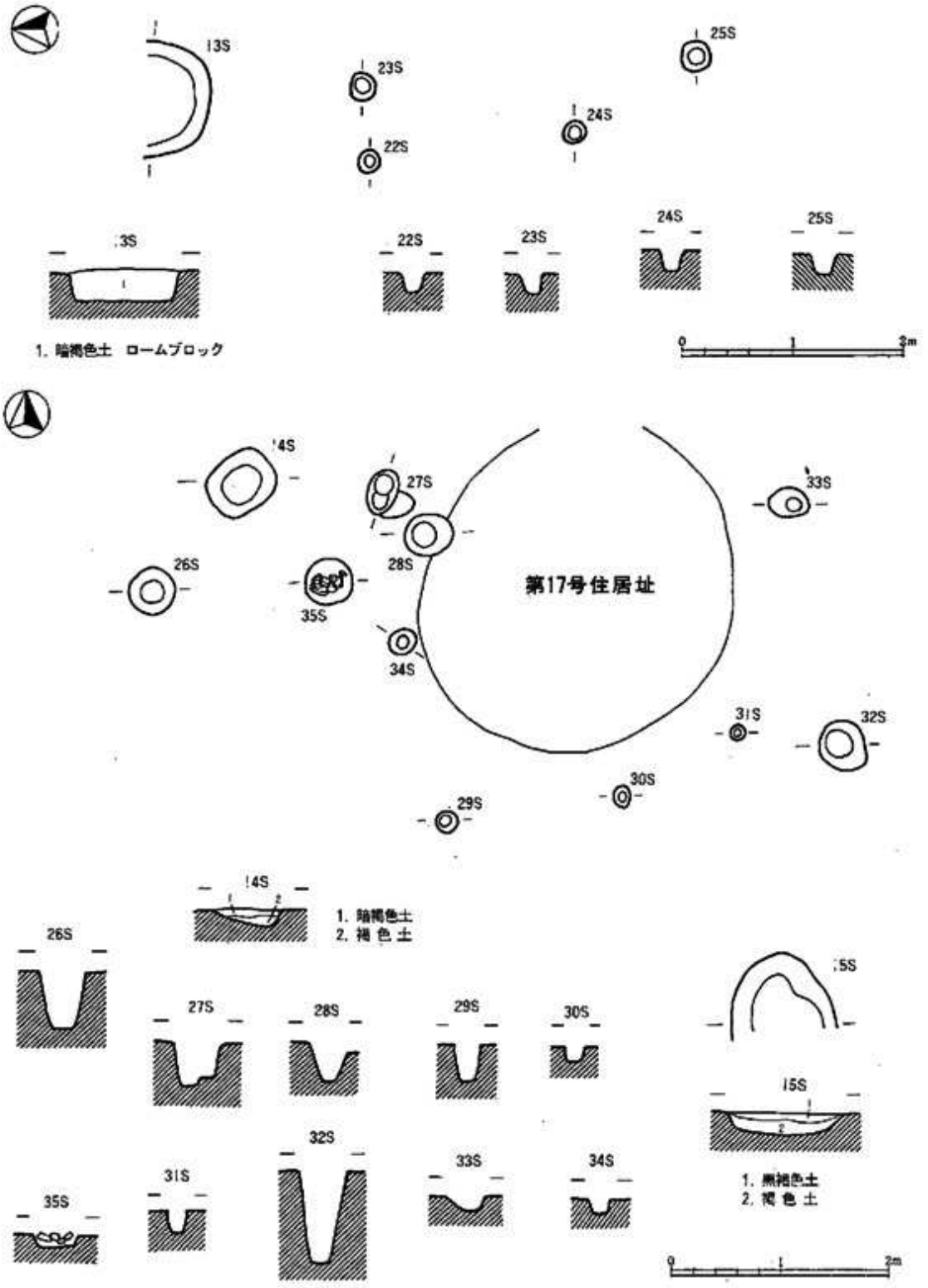
No.	長軸×短軸×深さ(cm)	平面形	備　考	No.	長軸×短軸×深さ(cm)	平面形	備　考
1	84×70×10	円　形		18	30×30×10	円　形	
2	60×54×42	〃		19	24×24×18	〃	
3	64×64×40	〃		20	40×34×14	〃	
4	90×75×28	楕円形		21	38×34×16	〃	
5	120×94×32	長方形	3号住カマド	22	22×22×18	〃	
6	64×60×14	円　形		23	24×20×19	〃	
7	100×90×12	〃		24	22×23×19	〃	
8	140×100×18	〃		25	28×26×19	〃	
9	40×38×14	〃		26	42×42×50	〃	
10	150×140×28	〃		27	40×30×40	〃	重複
11	110×80×56	〃		28	44×38×34	楕円形	17号住と重複
12	30×28×14	〃		29	20×20×32	円　形	
13	106×100×28	〃		30	20×16×12	〃	
14	62×50×14	楕円形		31	12×12×20	〃	
15	140×100×20	円　形		32	46×42×82	〃	
16	30×30×10	〃		33	37×28×14	楕円形	
17	28×28×20	〃		34	26×24×12	円　形	

（平成４年調査）

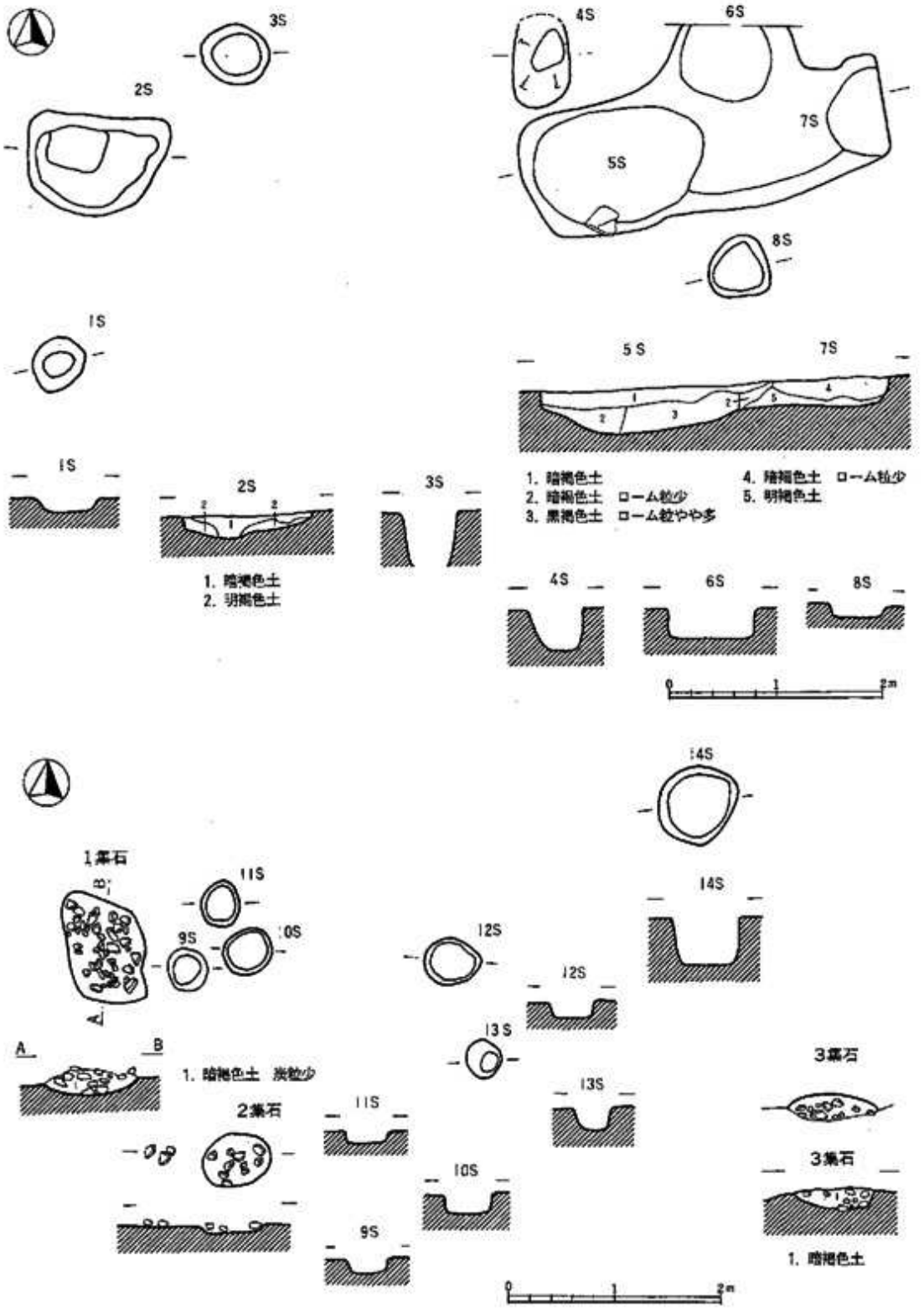
No.	長軸×短軸×深さ(cm)	平面形	備　考	No.	長軸×短軸×深さ(cm)	平面形	備　考
1	52×50×18.6	円　形		55	84×80×98	円　形	
2	122×96×30	不整円形		56	93×88×126	〃	60Sと重複
3	60×55×13	円　形		57	105×92×18	楕円形	
4	98×49×29	楕円形		58	68×45×31	円　形	重複
5	172×117×43	〃		59	55×48×28	〃	
6	80×80×3	円　形		60	40×40×38	〃	56Sと重複
7	80×80×20	半円形		61	54×45×28	〃	
8	55×55×12	円　形		62	45×40×23	〃	
9	37×36×15	〃		63	46×44×33	〃	
10	55×45×15	〃		64	55×39×21	楕円形	
11	43×37×12	〃		65	80×75×37	円　形	66Sと重複
12	54×42×13	〃		66	73×65×40	〃	65S、柱5と重複
13	45×43×21	〃		67	57×49×36	〃	
14	68×65×43	〃		68	52×48×29	〃	重複
15	36×3×15	〃		69	48×43×41	〃	
16	105×77×76	楕円形	17Sと重複	70	47×41×32	〃	
17	100×70×67	〃	16Sと重複	71	43×37×35	〃	
18	169×157×68	円　形		72	60×53×27	楕円形	
19	135×76×19	楕円形	重複	73	150×120×32	〃	74、75Sと重複
20	53×43×24	円　形		74	120×100×53	円　形	72、73Sと重複
21	180×120×95	〃	5号住と重複	75	160×120×25	楕円形	73Sと重複
22	150×138×68	〃	23Sと重複	76	40×33×44	〃	77Sと重複
23	77×65×81	楕円形	22Sと重複	77	55×49×16	〃	76Sと重複
24	105×95×70	円　形		78	56×40×21	〃	
25	135×120×	不整楕円形	27Sと重複	79	60×60×35	円　形	
26	173×157×49	楕円形		80	48×40×48	〃	
27	103×97×56	円　形	25Sと重複	81	117×75×99	楕円形	9号住と重複
28	73×68×36	〃		82	80×74×35	不整円形	
29	165×127×56	楕円形		83	37×32×16	円　形	
30	20×16×23	〃	50Sと重複	84	40×25×22	楕円形	
31	88×78×56	円　形		85	62×50×36	〃	8号住と重複
32	60×55×17	〃		86	95×86×39	円　形	底面2段
33	117×113×30	〃		87	45×40×20	〃	
34	60×45×29	楕円形		88	35×32×31	〃	
35	59×43×23	〃		89	53×46×14	〃	
36	65×60×28	円　形		90	110×87×55	楕円形	底面2段
37	85×80×50	〃		91	70×33×40	〃	
38	60×56×40	〃		92	64×45×23	〃	93Sと重複
39	53×53×28	〃		93	62×55×38	円　形	92Sと重複
40	68×65×23	〃		94	78×68×22	〃	
41	58×55×12	〃		95	63×50×40	〃	
42	85×57×29	楕円形		96	147×138×12	〃	8号住と重複、焼土あり
43	50×45×63	円　形		97	42×35×14	〃	
44	46×46×23	〃		98	45×33×21	楕円形	
45	138×115×25	楕円形		99	75×60×47	〃	
46	64×59×18	円　形		100	53×48×53	円　形	
47	57×48×22	〃		101	43×38×45	〃	
48	50×50×22	〃		102	92×100×25	〃	
49	63×57×30	〃	4号住と重複	103	100×98×54	〃	5号住と重複
50	228×163×57	〃	30Sと重複	104	86×73×70	〃	4号住と重複
51	120×120×12	〃		105	32×28×29	〃	
52	81×60×37	楕円形		106	60×48×	楕円形	5号住と重複
53	137×72×46	〃	重複	107	97×57×55	〃	重複
54	104×83×33	〃					


1. 黒 色 土
2. 黒褐色土　ロームブロック多
3. 暗褐色土
4. 明褐色土
5. 明褐色土　ロームブロック
1. 黒 色 土
2. 暗褐色土
3. 暗褐色土　ロームブロック
4. 暗褐色土　ローム粒
5. 明褐色土

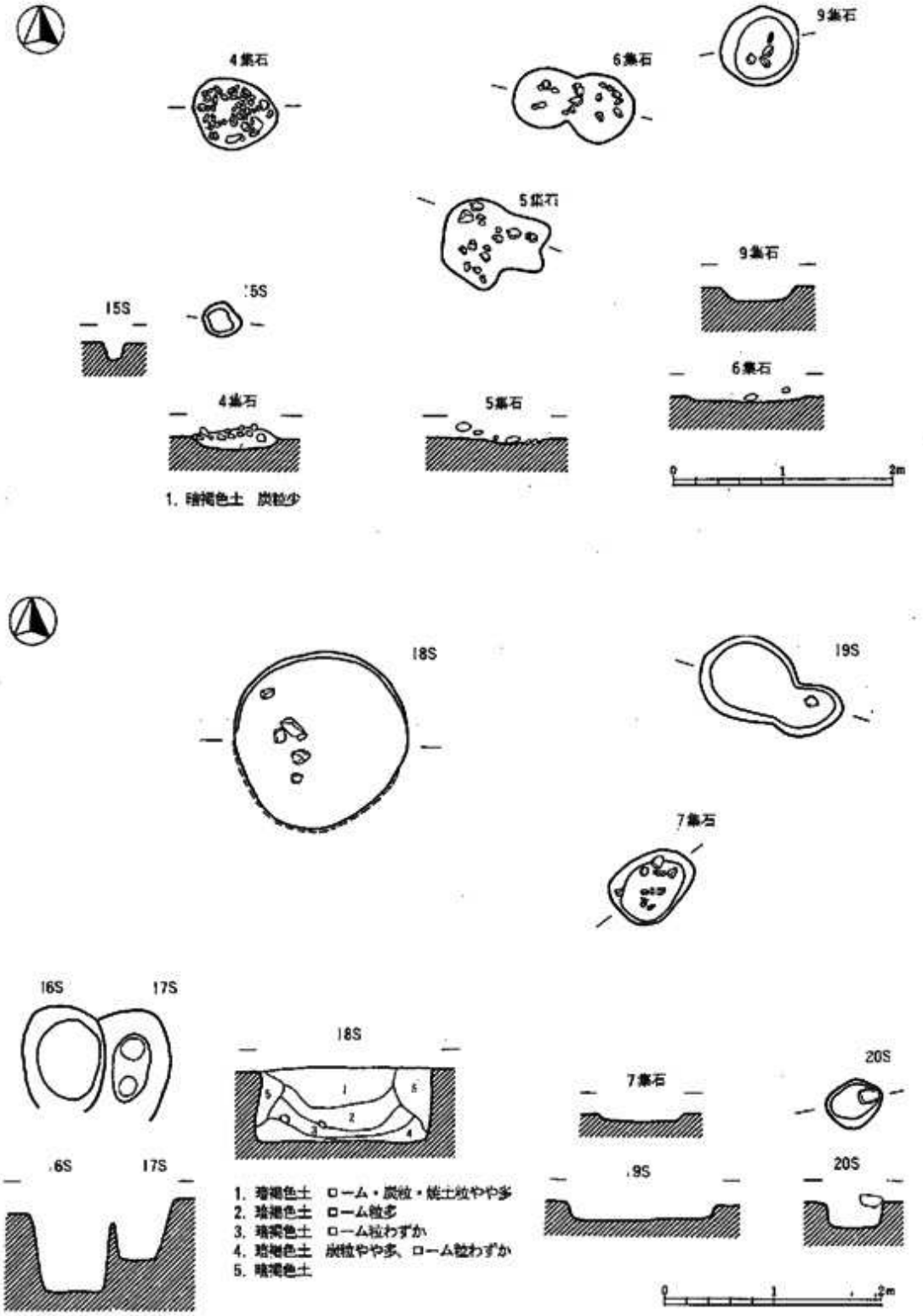
第21図　土 坑 実 測 図 (1)


13S
23S
22S
24S
25S
1. 暗褐色土 ロームブロック
14S
27S
33S
26S
28S
35S
34S
第17号住居址
31S
32S
30S
29S
1. 暗褐色土
2. 褐色土
26S
27S
28S
29S
30S
15S
1. 黒褐色土
2. 褐色土
35S
31S
32S
33S
34S

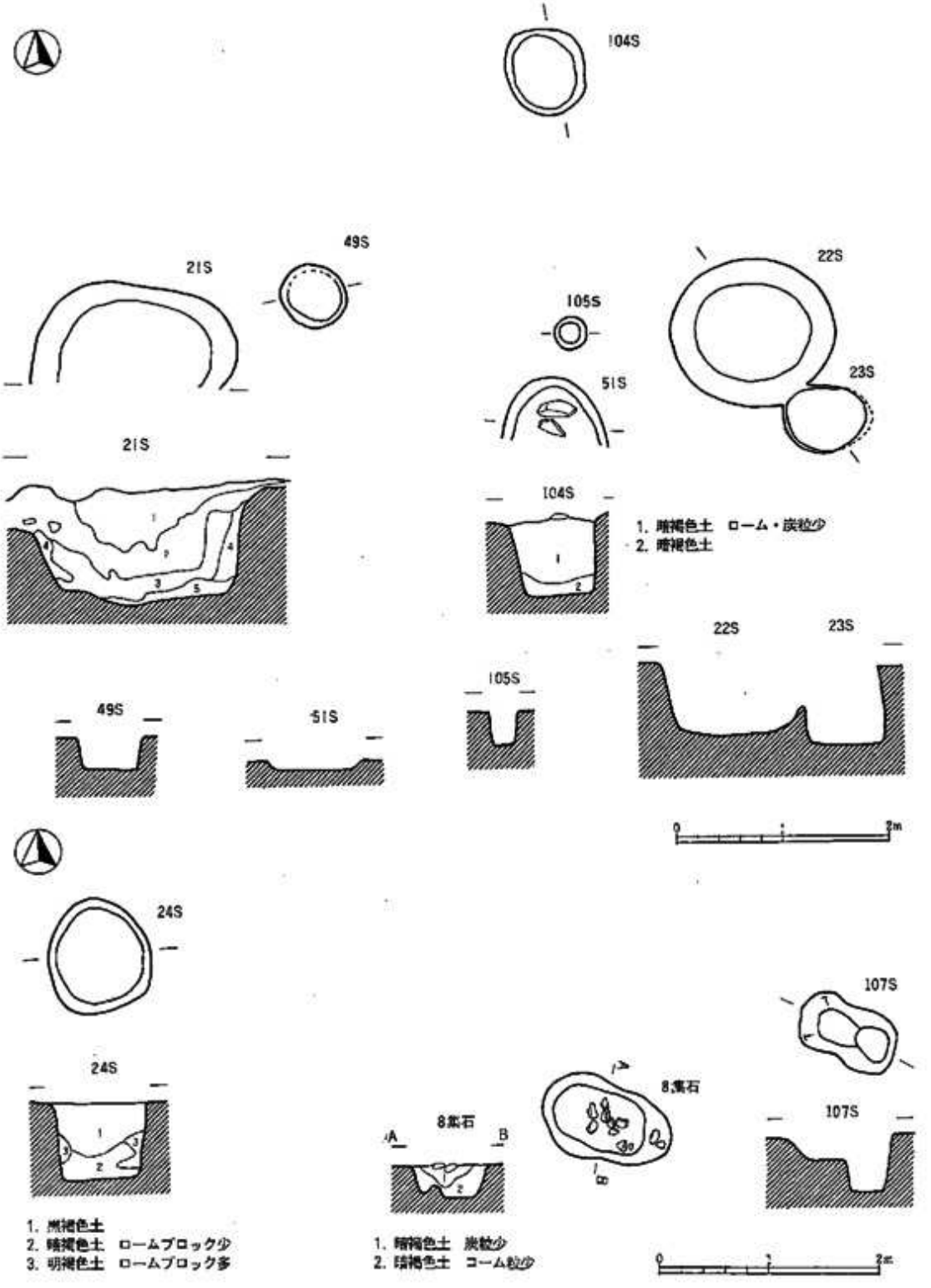
第22図 土坑実測図(2)


3S
2S
4S
6S
7S
5S
8S
1S
5 S
7S
1. 暗褐色土
2. 暗褐色土　ローム粒少
3. 黒褐色土　ローム粒やや多
4. 暗褐色土　ローム粒少
5. 明褐色土
1S
2S
3S
1. 暗褐色土
2. 明褐色土
4S
6S
8S
0
1
2m
14S
1集石
11S
9S
10S
12S
14S
12S
13S
A
B
1. 暗褐色土　炭粒少
2集石
11S
13S
3集石
10S
3集石
9S
1. 暗褐色土
0
1
2m

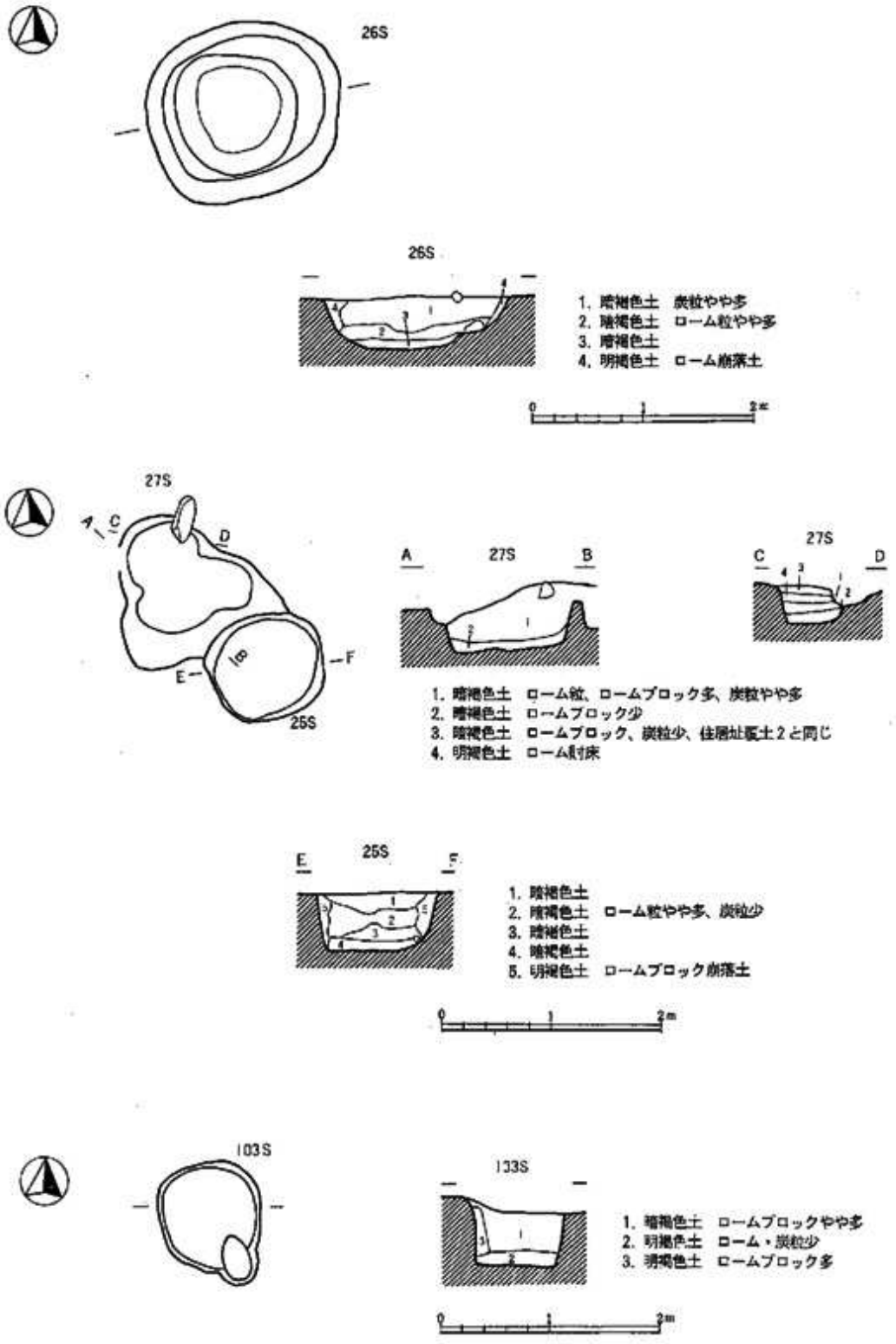
第23図　土坑実測図(3)


4集石
6集石
9集石
5集石
9集石
15S
15S
6集石
4集石
5集石
0
1
2m
1. 暗褐色土　炭粒少
18S
19S
7集石
16S
17S
18S
7集石
20S
16S
17S
19S
20S
1. 暗褐色土　ローム・炭粒・焼土粒やや多
2. 暗褐色土　ローム粒多
3. 暗褐色土　ローム粒わずか
4. 暗褐色土　炭粒やや多、ローム粒わずか
5. 暗褐色土
0
1
2m

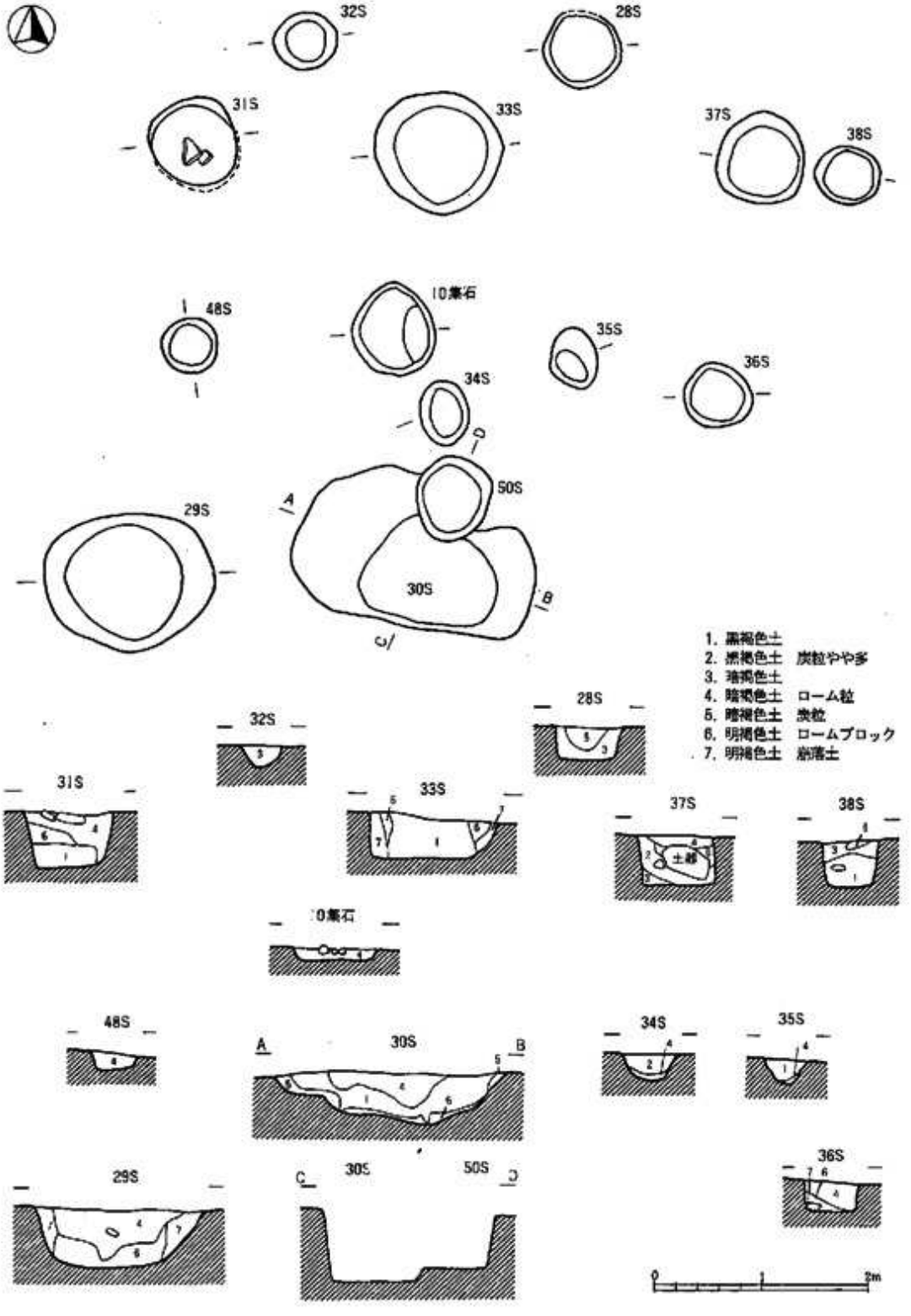
第24図　土坑実測図(4)


104S
21S
49S
22S
105S
23S
51S
21S
104S
1. 暗褐色土　ローム・炭粒少
2. 暗褐色土
22S
23S
105S
49S
51S
0
1
2m
24S
107S
24S
8集石
8集石
A
B
107S
1. 黒褐色土
2. 暗褐色土　ロームブロック少
3. 明褐色土　ロームブロック多
1. 暗褐色土　炭粒少
2. 暗褐色土　コーム粒少
0
1
2m

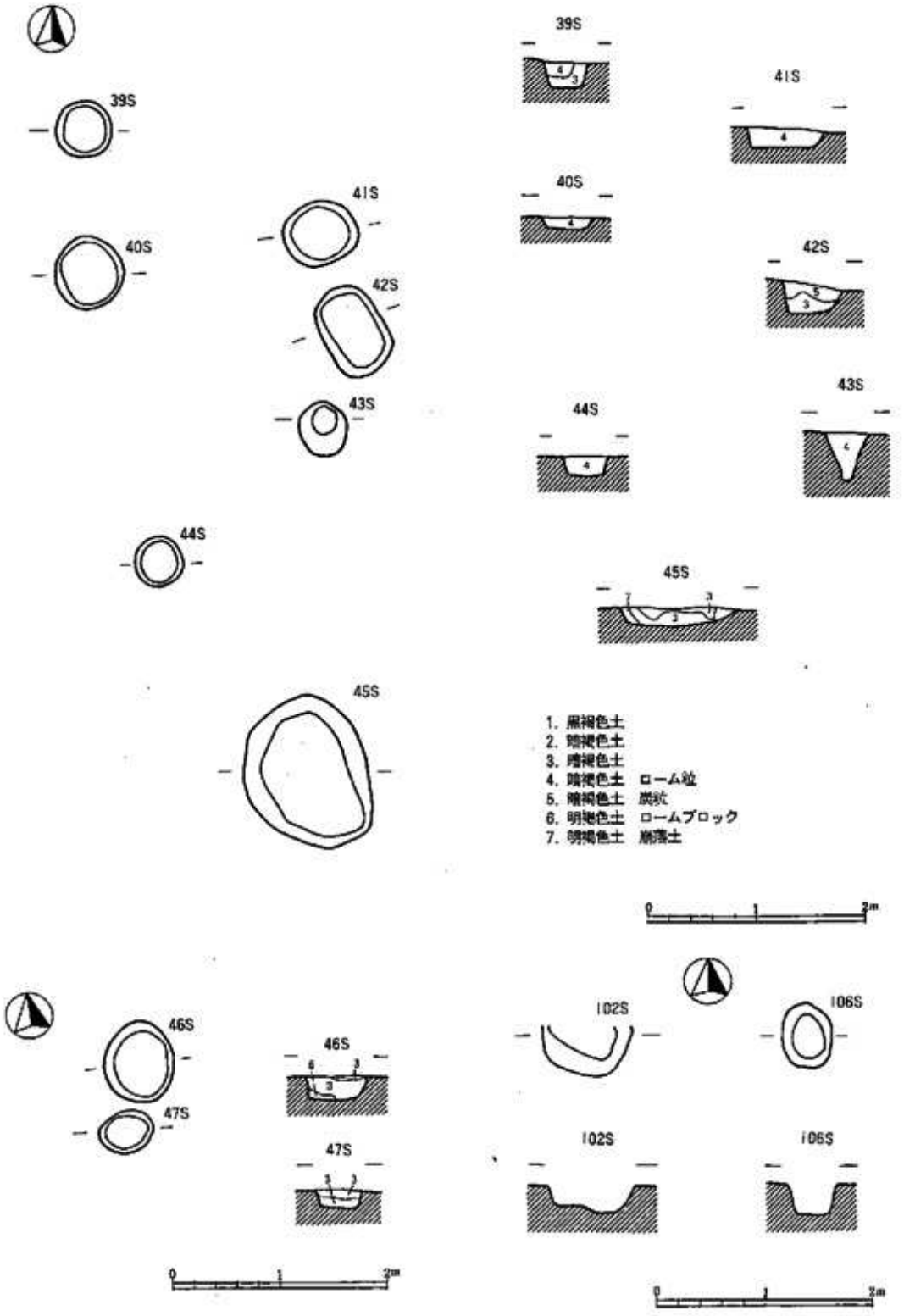
第25図　土坑実測図(5)


26S
26S
1. 暗褐色土　炭粒やや多
2. 暗褐色土　ローム粒やや多
3. 暗褐色土
4. 明褐色土　ローム崩落土
27S
A
B
C
D
E
F
25S
27S
1. 暗褐色土　ローム粒、ロームブロック多、炭粒やや多
2. 暗褐色土　ロームブロック少
3. 暗褐色土　ロームブロック、炭粒少、住居址覆土2と同じ
4. 明褐色土　ローム貼床
E
25S
F
1. 暗褐色土
2. 暗褐色土　ローム粒やや多、炭粒少
3. 暗褐色土
4. 暗褐色土
5. 明褐色土　ロームブロック崩落土
103S
133S
1. 暗褐色土　ロームブロックやや多
2. 明褐色土　ローム・炭粒少
3. 暗褐色土　ロームブロック多

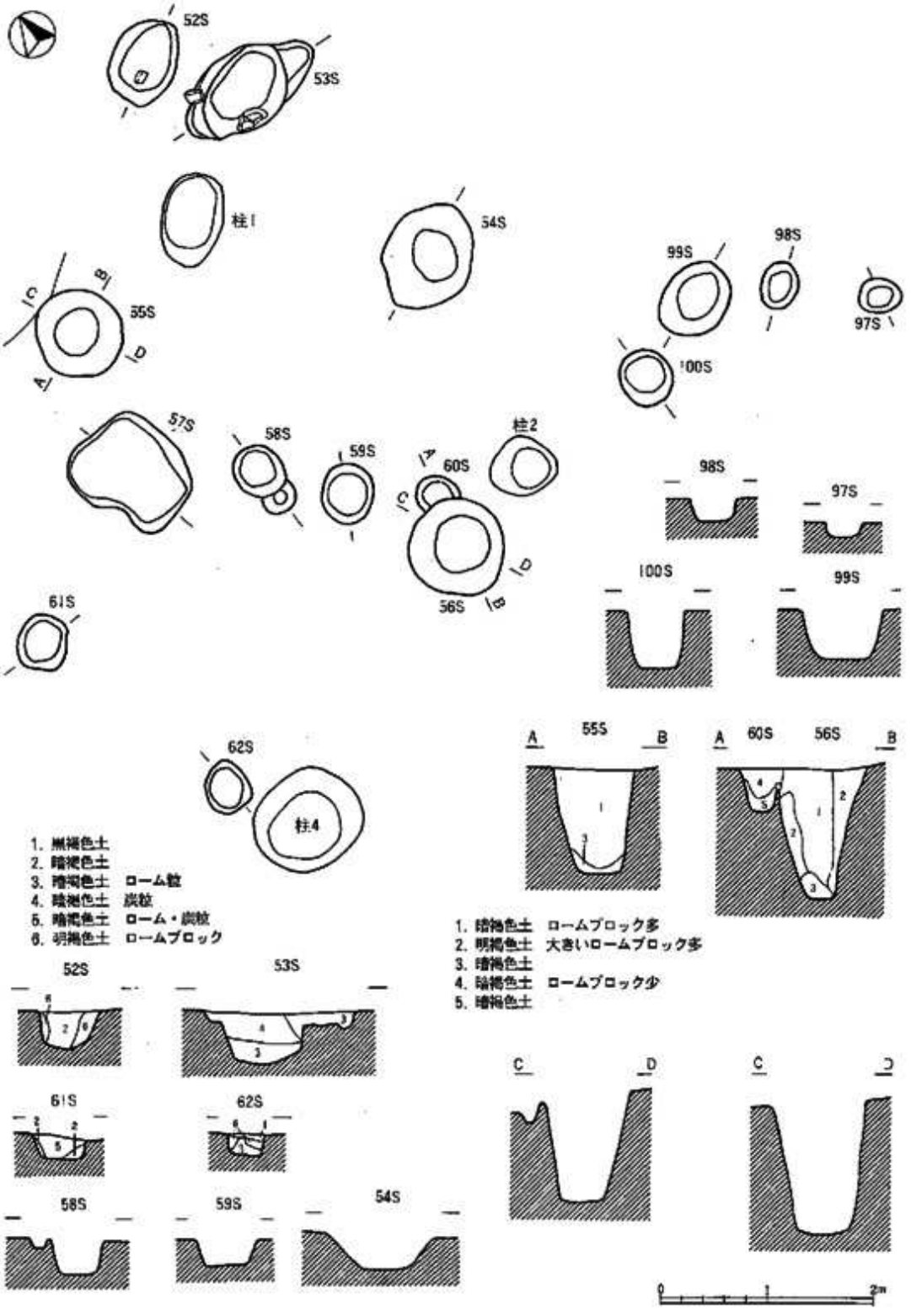
第26図　上坑実測図(6)


32S
28S
31S
33S
37S
38S
48S
10集石
35S
36S
34S
50S
29S
30S
A
B
C
D
1. 黒褐色土
2. 黒褐色土　炭粒やや多
3. 暗褐色土
4. 暗褐色土　ローム粒
5. 暗褐色土　炭粒
6. 明褐色土　ロームブロック
7. 明褐色土　崩落土
土器
0
1
2m

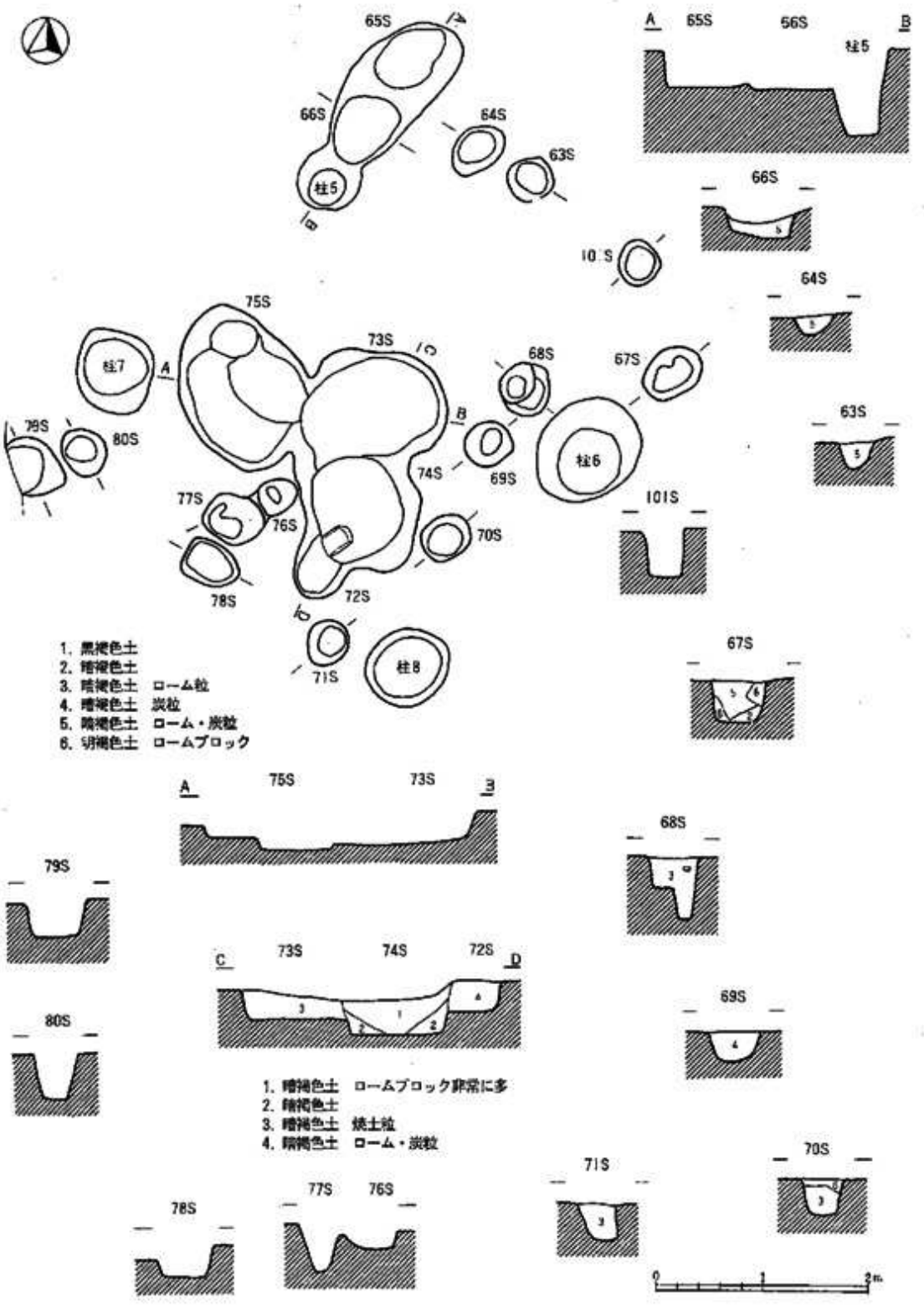
第27図　土坑実測図(7)


39S
40S
41S
42S
43S
44S
45S
46S
47S
102S
106S
1. 黒褐色土
2. 暗褐色土
3. 暗褐色土
4. 暗褐色土 ローム粒
5. 暗褐色土 炭粒
6. 明褐色土 ロームブロック
7. 明褐色土 崩落土
0 1 2m

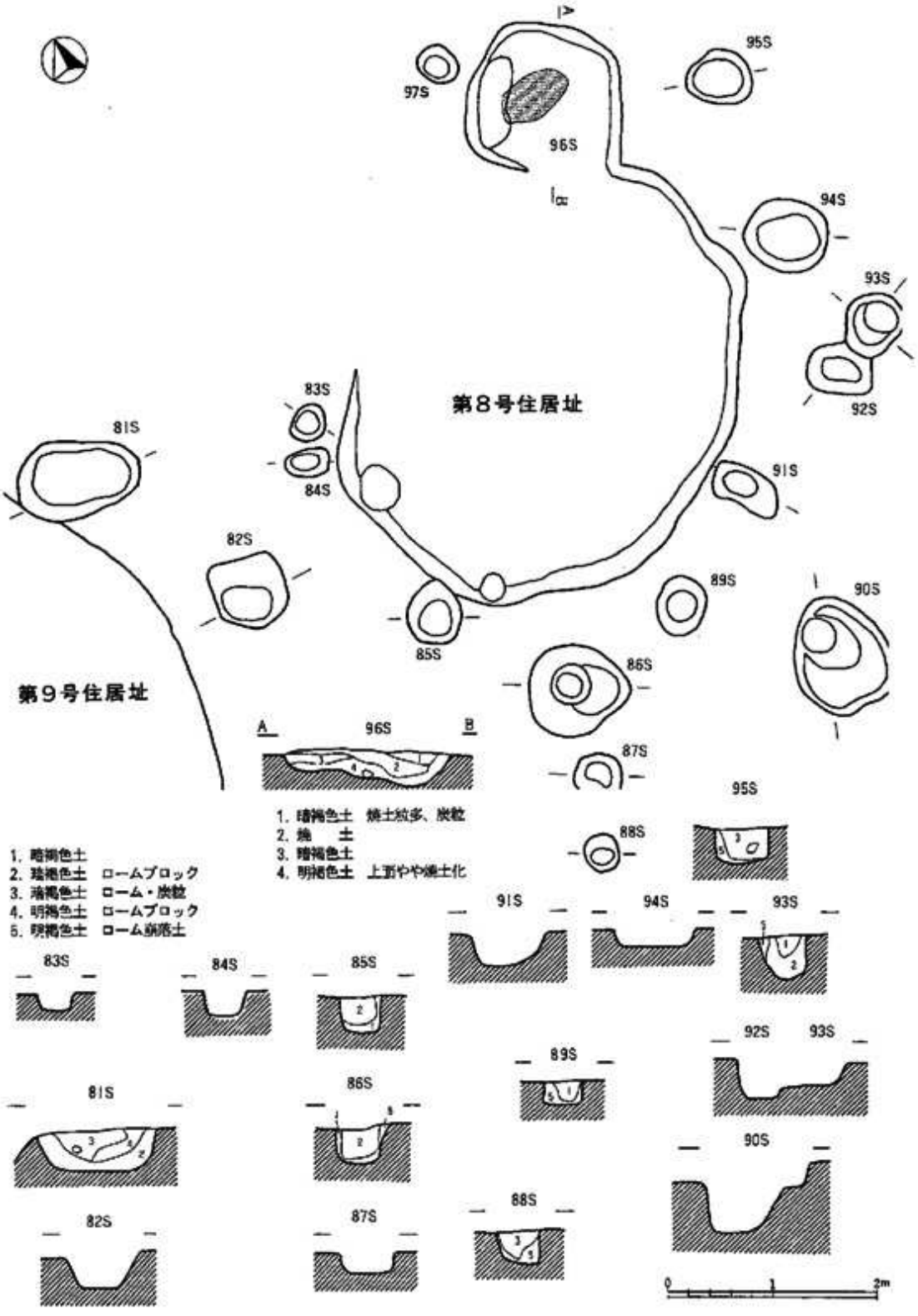
第28図 土坑実測図(8)


52S
53S
柱1
54S
55S
99S
98S
97S
100S
57S
58S
59S
60S
柱2
56S
61S
62S
柱4
1. 黒褐色土
2. 暗褐色土
3. 暗褐色土 ローム粒
4. 暗褐色土 炭粒
5. 暗褐色土 ローム・炭粒
6. 明褐色土 ロームブロック
1. 暗褐色土 ロームブロック多
2. 明褐色土 大きいロームブロック多
3. 暗褐色土
4. 暗褐色土 ロームブロック少
5. 暗褐色土
0
1
2m

第29図 土坑実測図(9)



第30図 土坑実測図(10)



第31図　上坑実測図(11)

第3節　遺　物

1．縄文時代の遺物

(1) 土器（第32図～第56図）

今回の調査では住居址を中心として多数の遺物が出土した。ほとんどが中期に属しており復元された土器は百ちかくにもなるが、その6割が第2号住居址から出土している。時期区分は中期初頭、中期中葉、中期後葉として、それぞれ段階ごとに細分した。土器の年代観については、長野県史の編年（長野県史刊行会1988『長野県史』考古資料編全1巻（四）遺構・遺物）によって時期区分を行った。

1）中期初頭の土器（第32図1）

第37号土坑に埋設されていたほぼ完形の深鉢が唯一である。頸部がくびれ胴部が緩やかにふくらむ器形を呈する。口縁部と頸部には三角印刻文や爪形文が連続的に施され、胴部には縦位の結節縄文に挟まれた縄文が無文部と交互に施されている。こうした文様要素から中期初頭Ⅰ期に属すると考えられる。

2）中期中葉の土器（第32図2～第51図）

中期Ⅳ期（藤内Ⅱ式期）以降の土器が出土しており、それ以前は破片がわずかにある程度である。第2、9、12号住居址の土器が該当するが、2、12号住の中には中期後葉1期に含まれるものもある。しかし、後葉1期の土器群（所謂梨久保B式土器）は、中葉の影響を多分に残しており厳密に区分できないものもあった。以下、段階ごとに概観していく。

中期中葉Ⅳ期〈藤内Ⅰ・Ⅱ式期〉

第9号住居址覆土から多量に出土している。2～5は横帯する多段の文様構成を持つ深鉢で、3は器高60cmを越える大形品である。6、7は蒸器と考えられているキャリパー形の土器である。胴下半部に櫛形文を付けるのが一般的だが、中期Ⅳ期には6のように省略しているものがしばしば認められる。6の口縁部には押引き沈線文が丁寧に施されており、下伊那型とされている土器である。

中期中葉Ⅴ期

第2号住居址覆土出土と第12号住居址炉体土器が該当する。10は前面にＲＬ縄文が施され、その上に連鎖状の隆帯が貼付されている。11は口唇部が内側に折れ、胴部が屈曲する特徴的な器形である。地文にＲＬ縄文を施し、磨消部が認められる。

12～17、70は楕円や三角形の区画文内に縦位の沈線文を施した深鉢である。口縁部文様帯は無文化しており、前段階と比べるとかなり省略化されている。

本段階を特徴づけるものに、胴下半部に櫛形文をもち、キャリパー状の器形を呈する、いわゆる櫛形文土器がある。前段階にわずかに認められ、本段階で盛行した後、中期後葉Ⅰ期まで続く

器形である。第2号住居址からも多くの櫛形文土器が出土しているが、中葉V期から後葉I期までのものを含んでいる。口縁部や櫛形文の隆帯上に爪形文が施されるもの（30～36）が古く、施されないもの（37～54）が新しいという傾向は捉えられるが、46のように後葉I期まで隆帯上の爪形文が残るものもある。33は推定高50cmの大形品で胴部の無文帯に線刻が認められる。線刻は細く浅いが、鋭利な道具でていねいに付けられている。45の櫛形文の隆帯には3本指が認められ、57の人体文とともに興味深い。

中期中葉VI期〈井戸尻III式期〉

第2号住居址の18～29、55、56、第12号住居址の71、72などが該当すると考えられる。18～29は円筒形で胴部の文様は縦位の沈線文が主体となり、より簡素化されている。55、56は把手が付けられた類例の少ないものである。

以上の他に、本時期と考えられるものに69の焼町土器がある。4単位の把手を付け、曲隆線で器面を埋めている。白色の胎土や稚拙な文様の施し方からやや異質な感じを受ける。

3）中期後葉の土器（第48図～第56図）

第2～7、10～13号住居址から出土しているが、総数は少ない。中期後葉I期に含まれるものが多く、後葉II期以降の唐草文系土器は少ない。以下、段階ごとに概観していく。

中期後葉I期

第2号住居址の57～62は胴下半部に櫛形文が付けられていないが、キャリパー形を呈し器形は同じである。縦位の隆帯や刺突文が施された単純な文様構成となっている。第4、6、12、13号住居址出土の73～82は隆帯を貼付した後に、その間を沈線で埋める梨久保B式土器である。75、76、82の口縁部や頸部には、隆線を交差させて貼付する籠目文や弧状文を連続させる重弧文などの本時期に特徴的な文様が認められる。

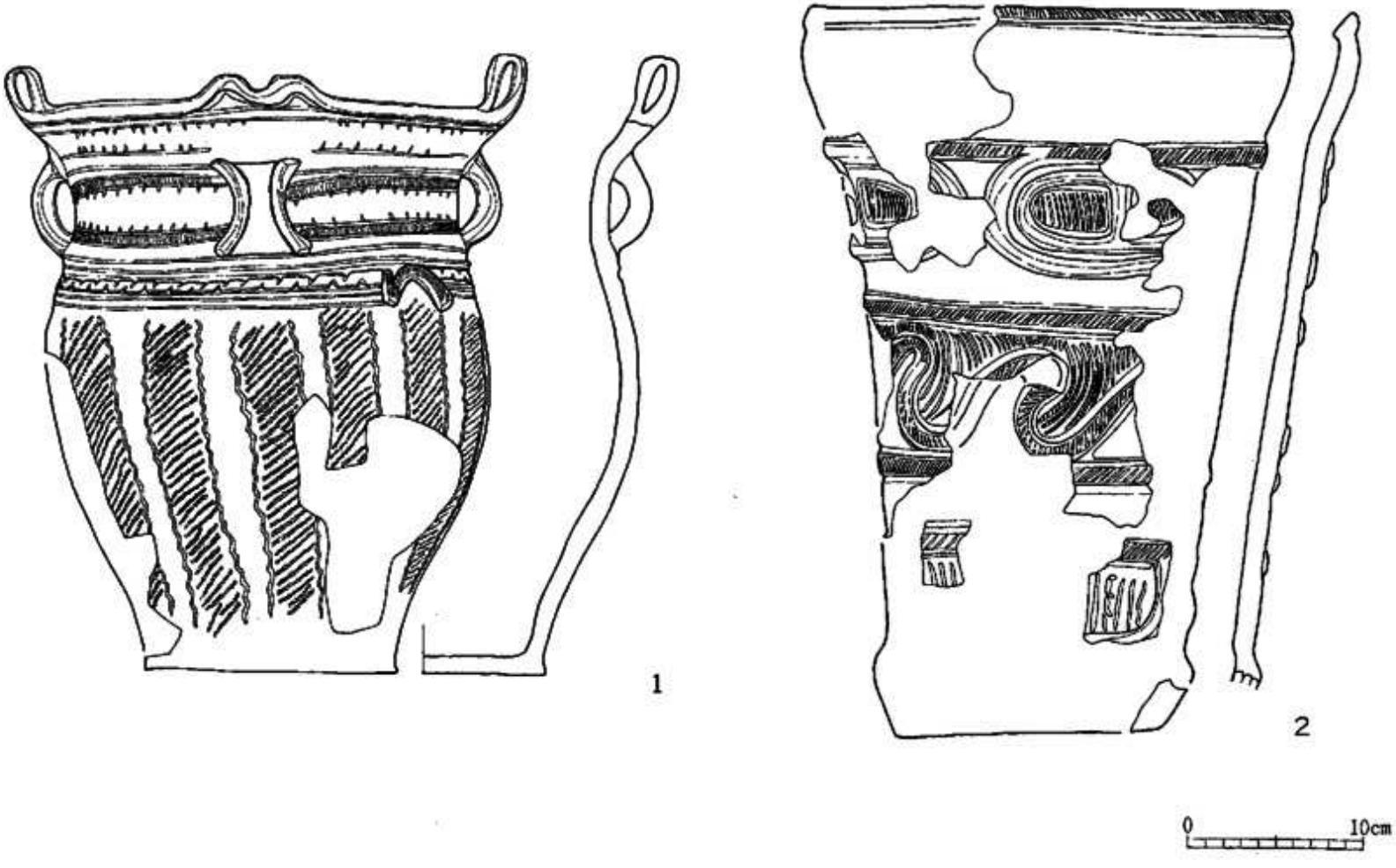
第5号住居址の土器は後葉I期終末に位置付けられる。85は埋甕であるが口縁部に沈線の重弧文が残存し、胴部の隆帯の間には角押文が施されこの時期の特徴を示している。そして、唐草文の萌芽は見られるものの未だ完成したものとなっていないところに後葉II期との時間差が考えられる。83、86も角押文や籠目文が施されており、梨久保B式土器として捉えられる。

中期後葉II期

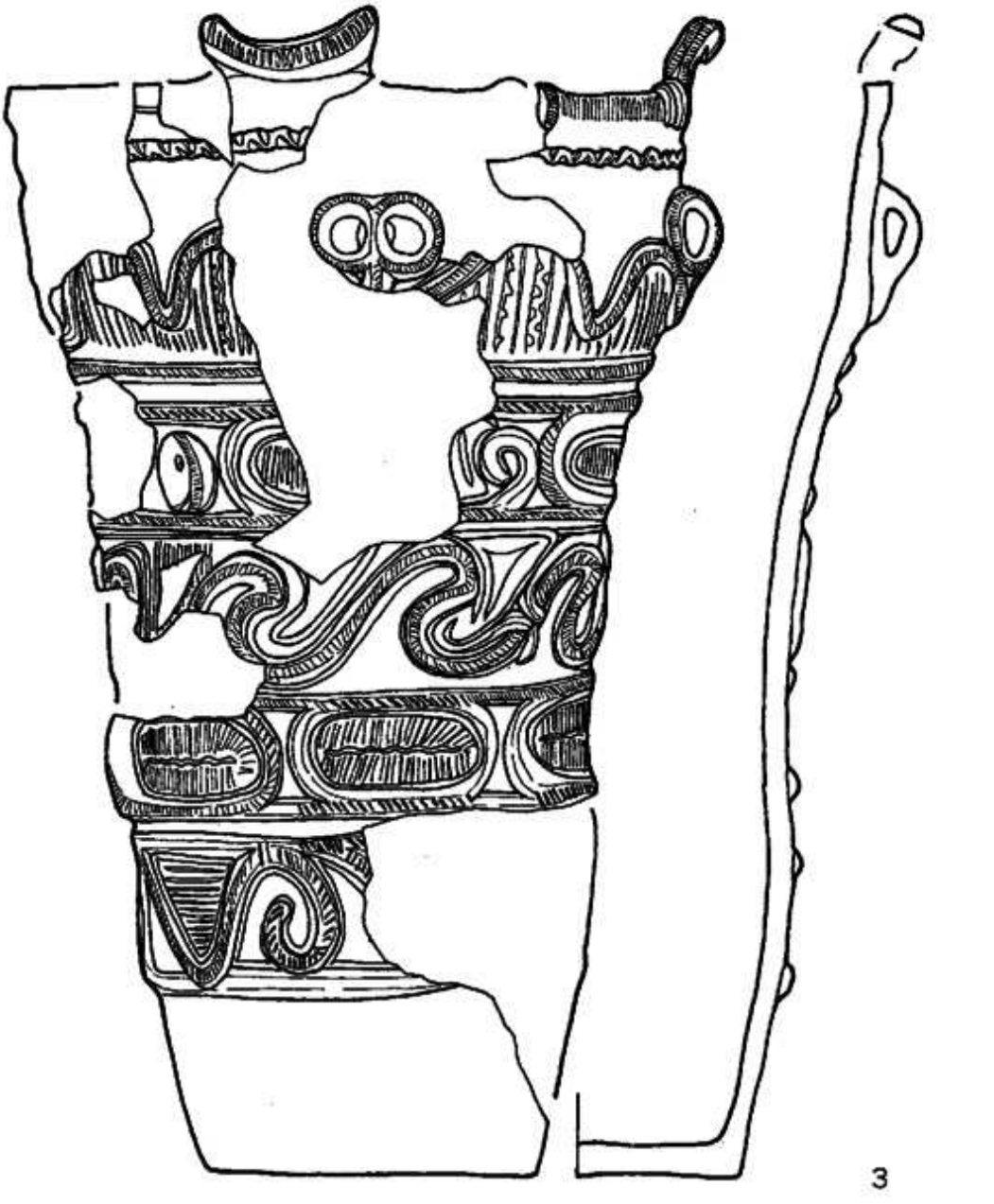
第7号住居址の埋甕が本期にあたる。87は地文に条線を施し沈線を垂下させている。88は隆帯を貼付したあとに沈線の綾杉文で隙間を埋めている。89は小形の壺で隆帯による渦巻文が施される。7号住の土器は後葉II期の新しい方に属すると考えられる。

中期後葉III期

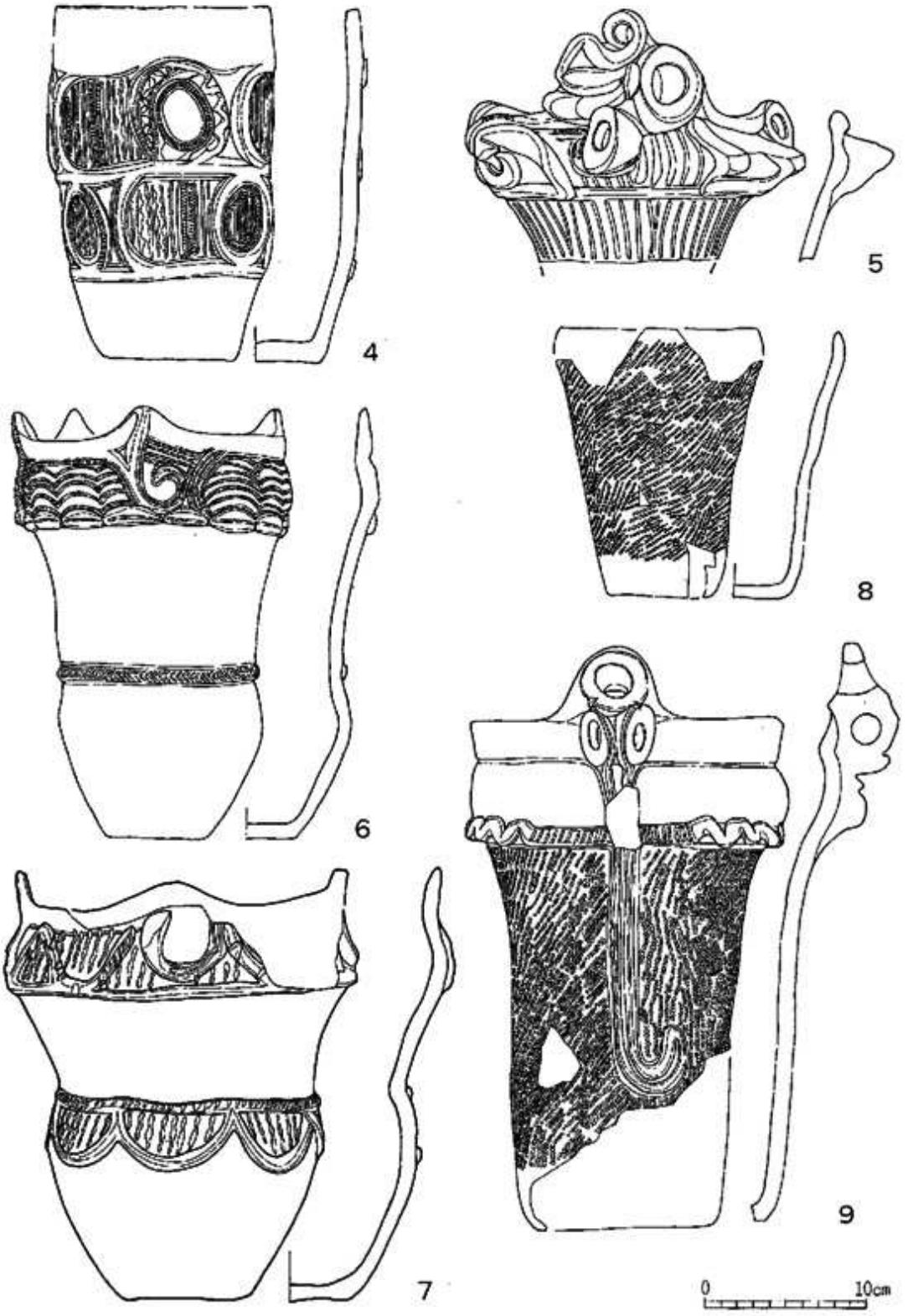
第10号住居址出土土器が本期にあたる。90の埋甕は地文に縄文を施し浅い沈線で文様を描いている。91は隆帯を貼付したあとに沈線で器面を埋めている。



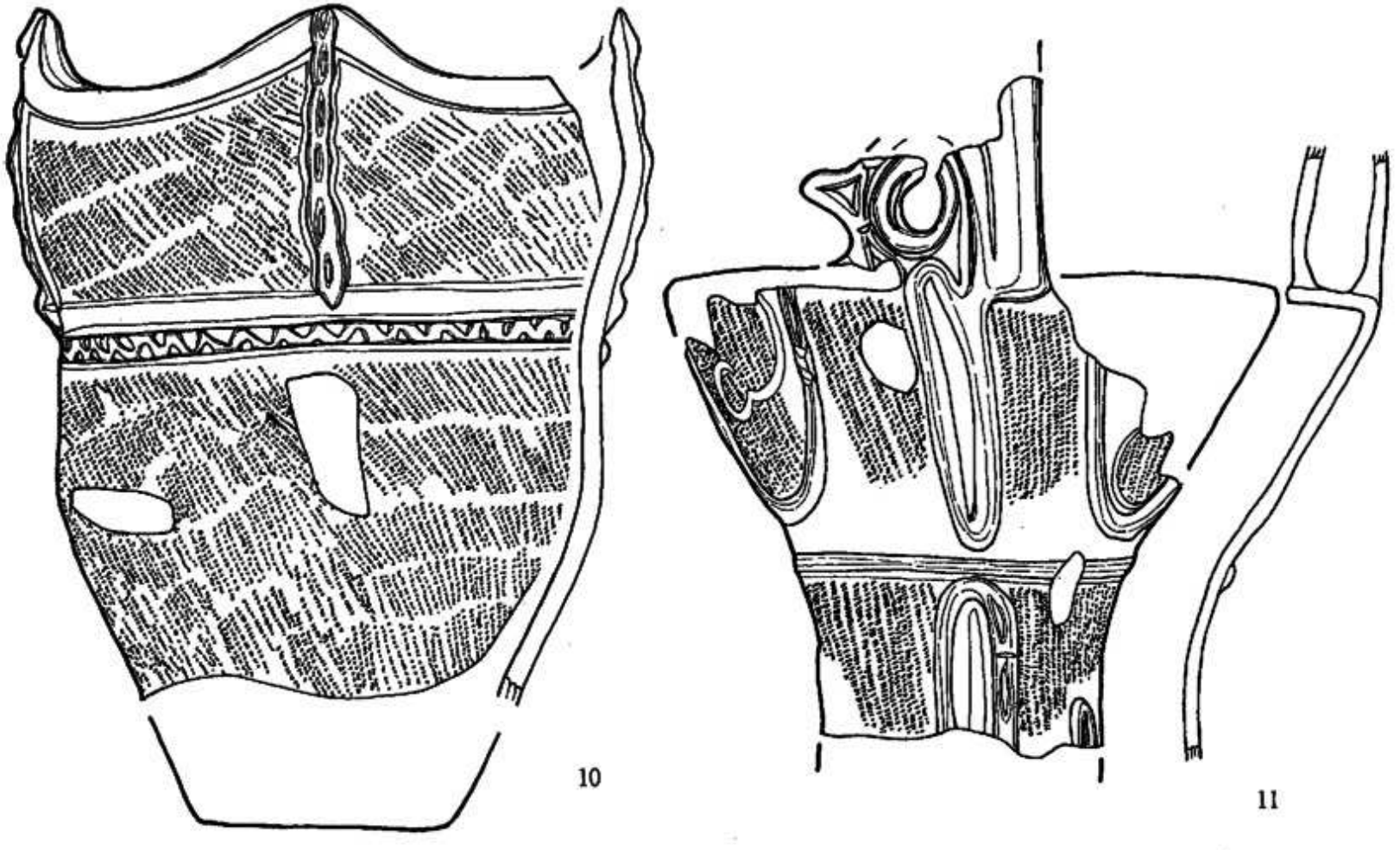
第32図　第37号土坑・第9号住居址出土土器(1)



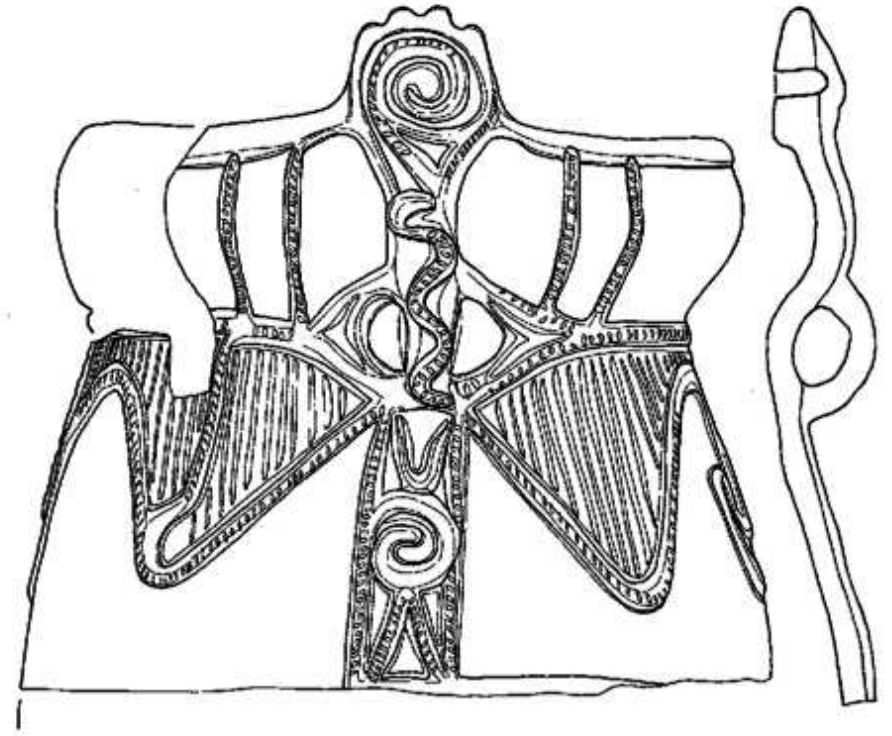
第33図　第9号住居址出土土器(2)



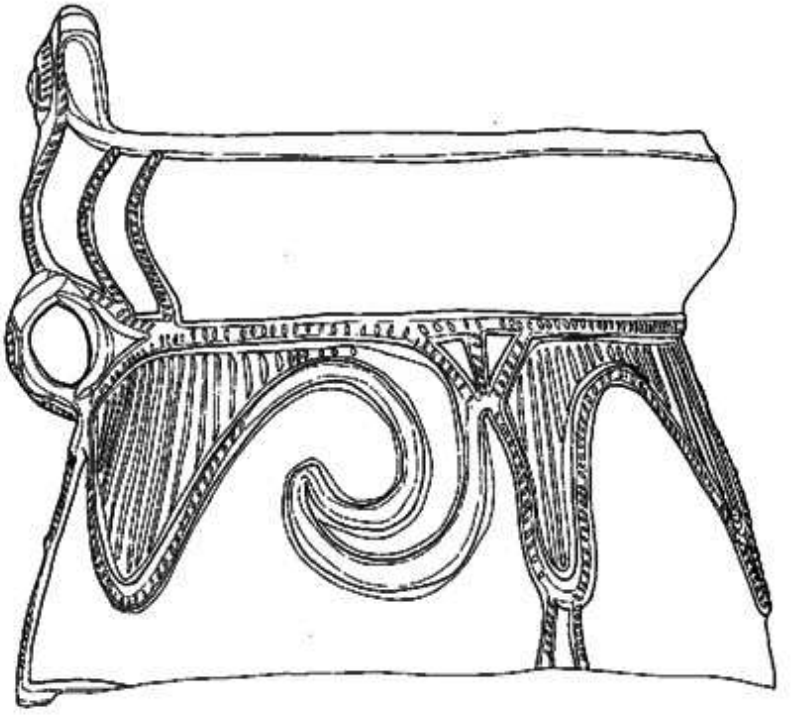
第34図　第9号住居址出土土器(3)



第35図　第２号住居址出土土器(1)

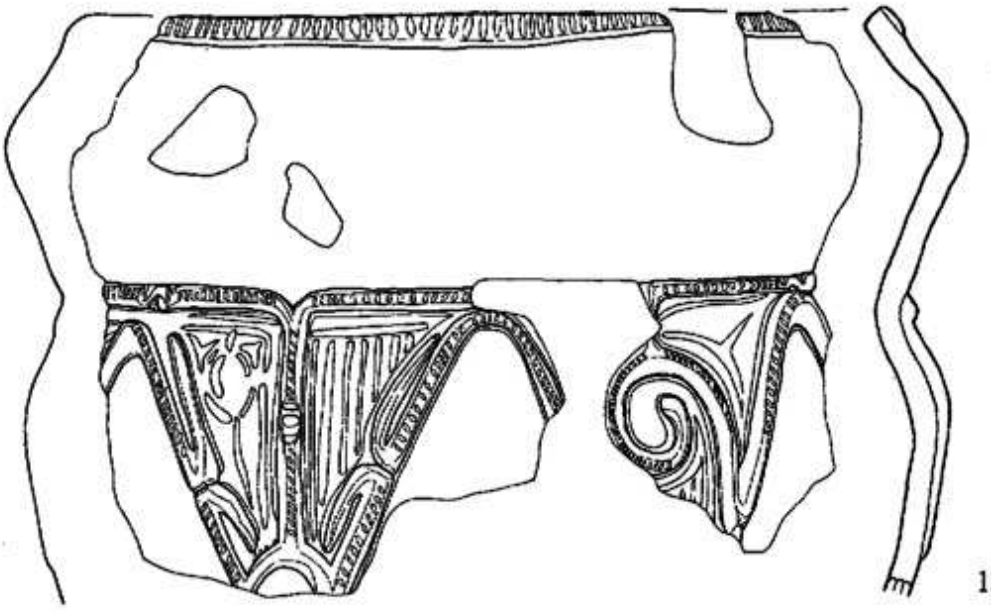


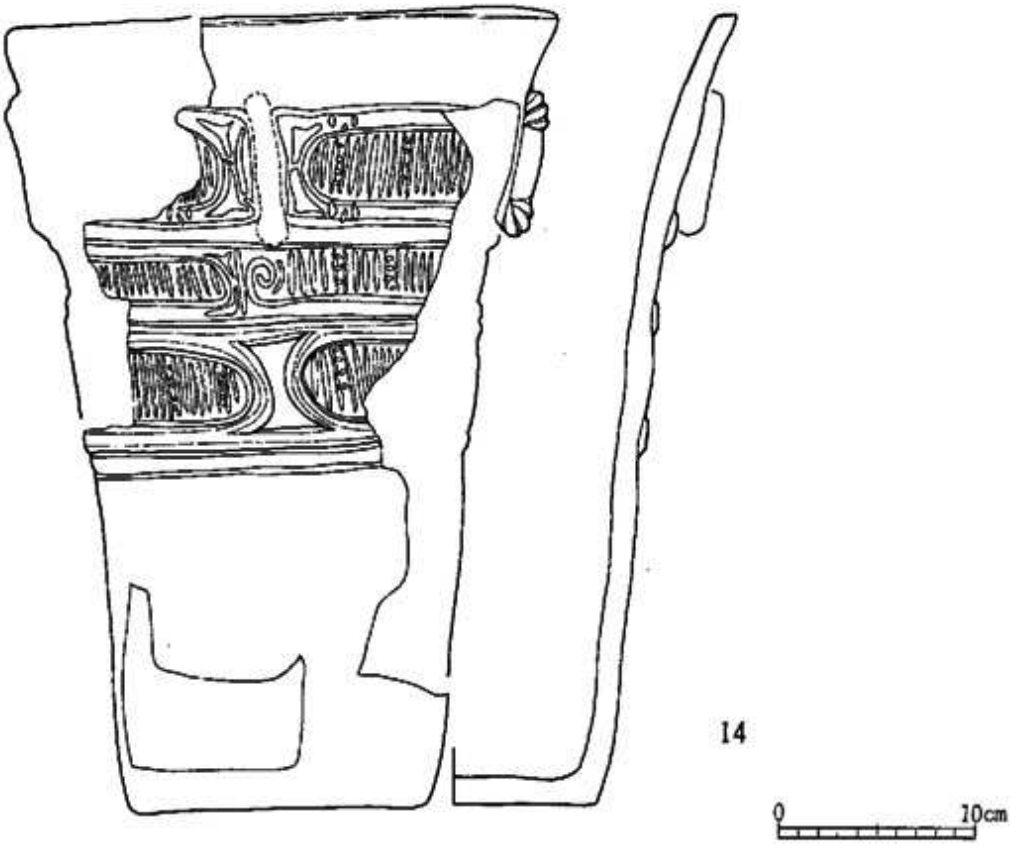
12



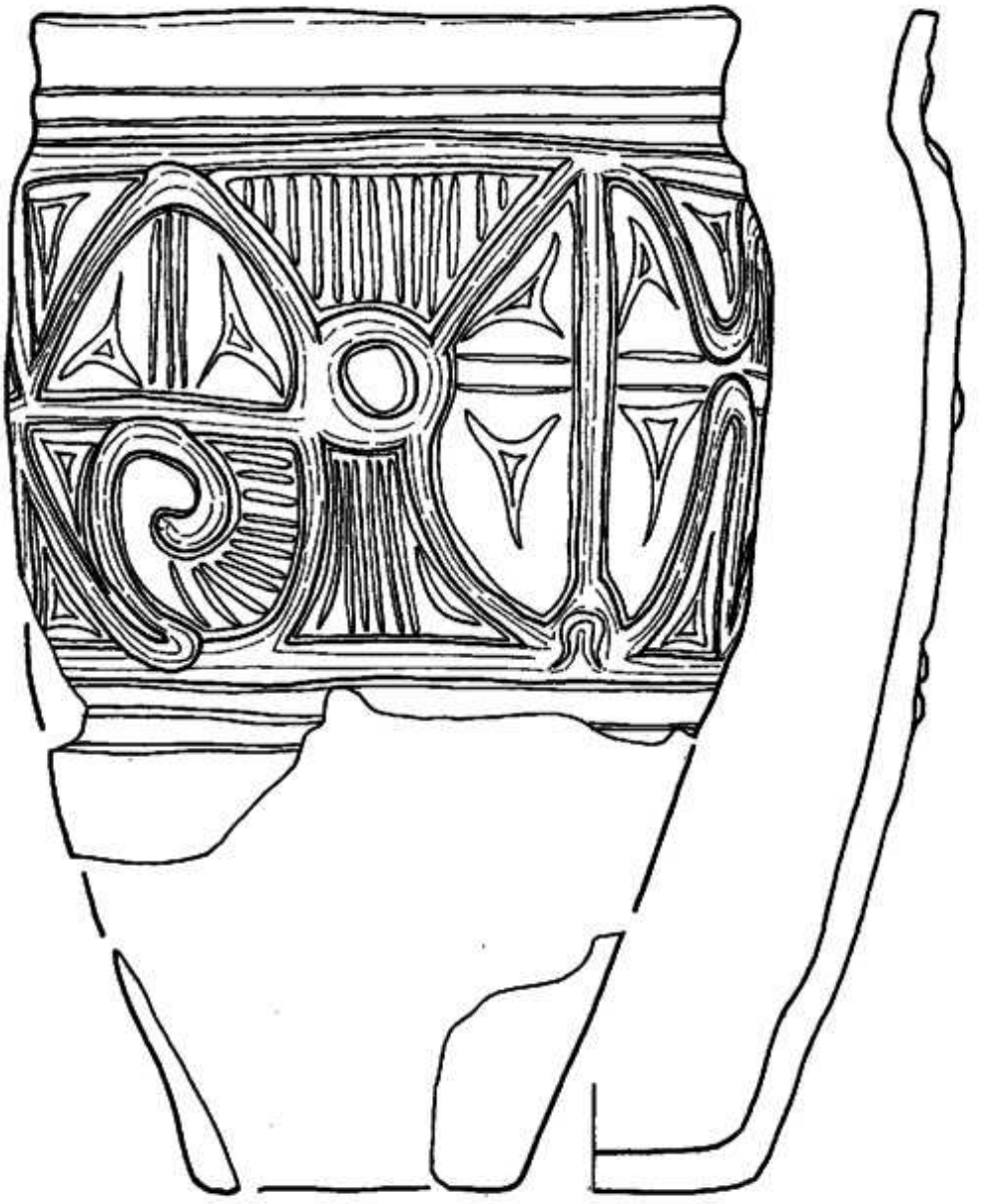
0 10cm

第36図　第２号住居址出土土器(2)





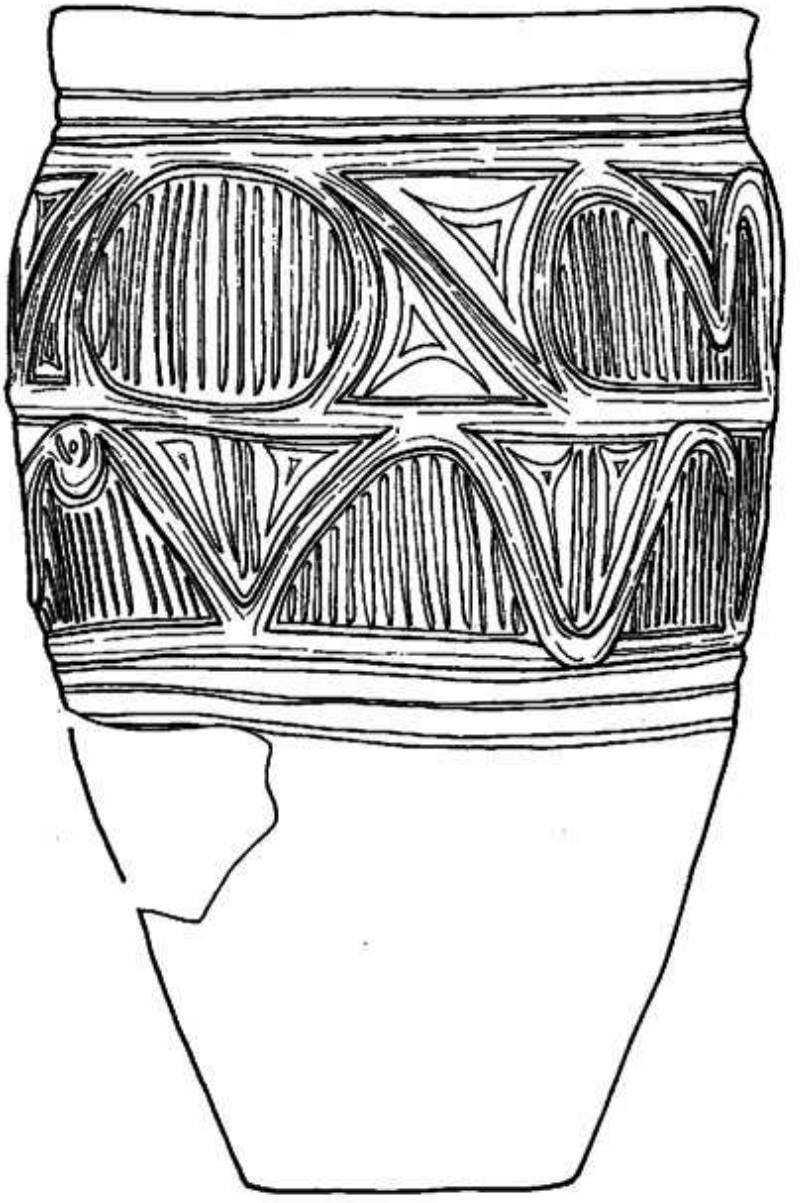
第37図　第２号住居址出土土器(3)



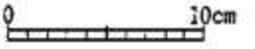
15

0 10cm

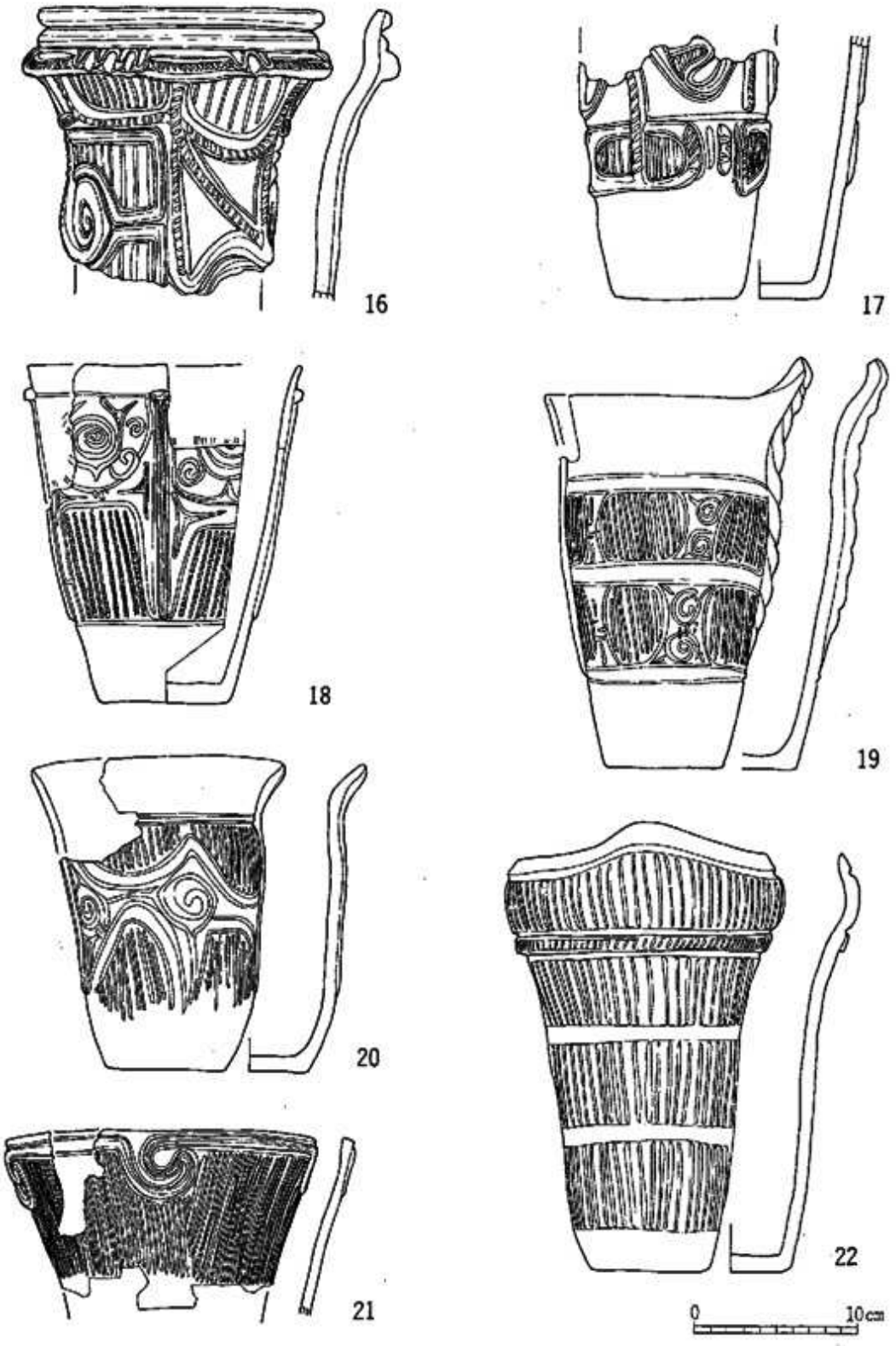
第38図　第2号住居址出土土器(4)



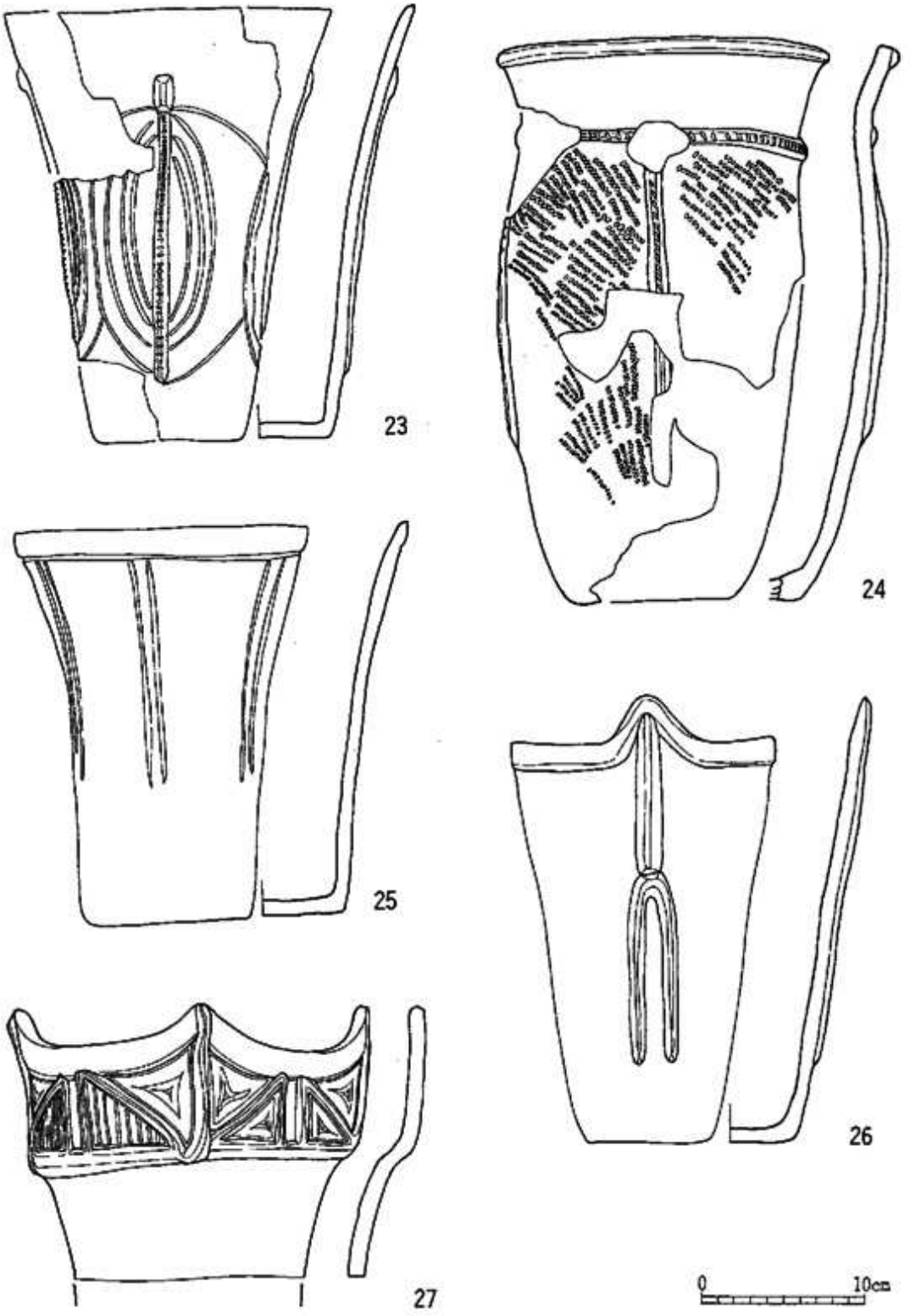
15



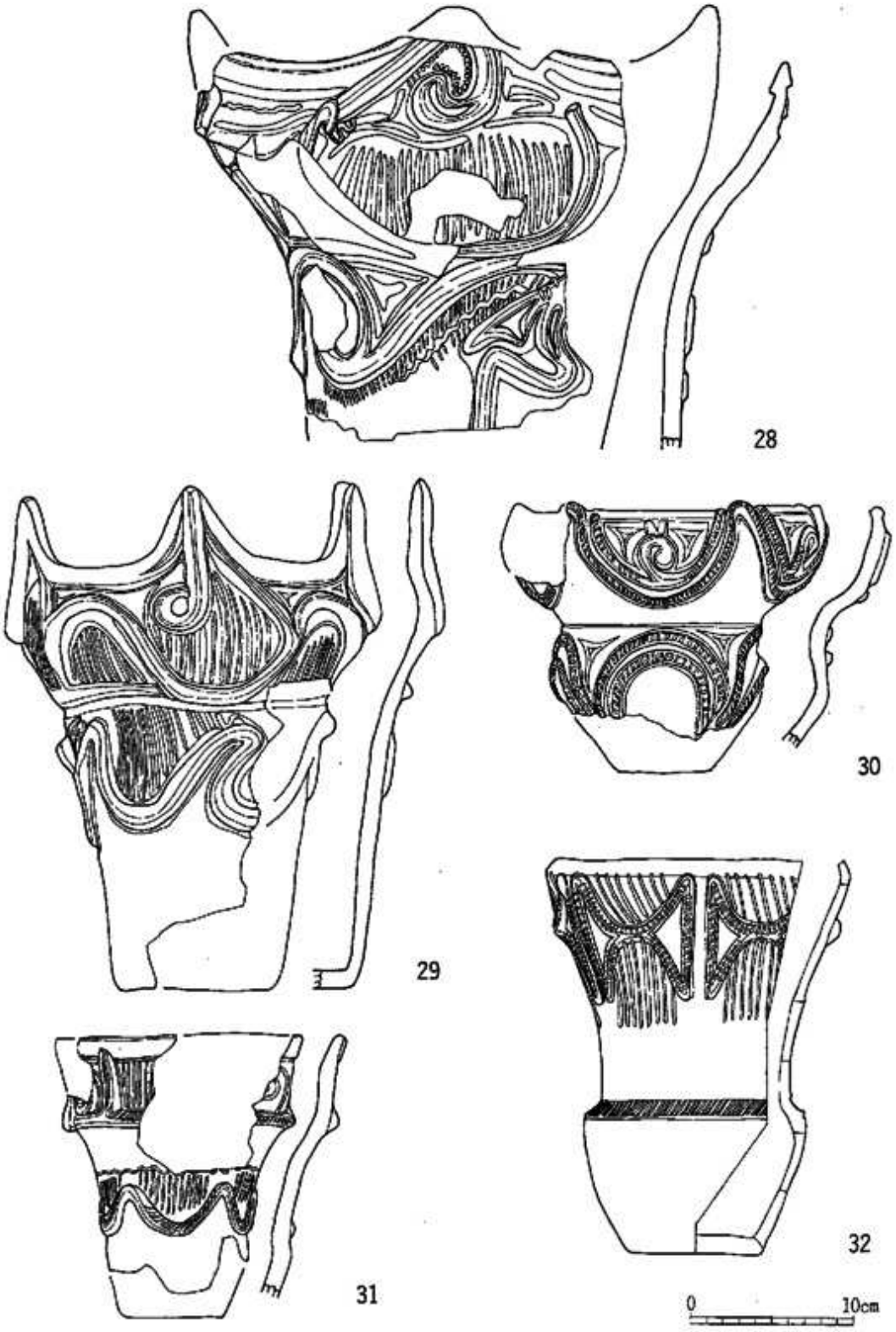
第39図　第2号住居址出土土器(4)



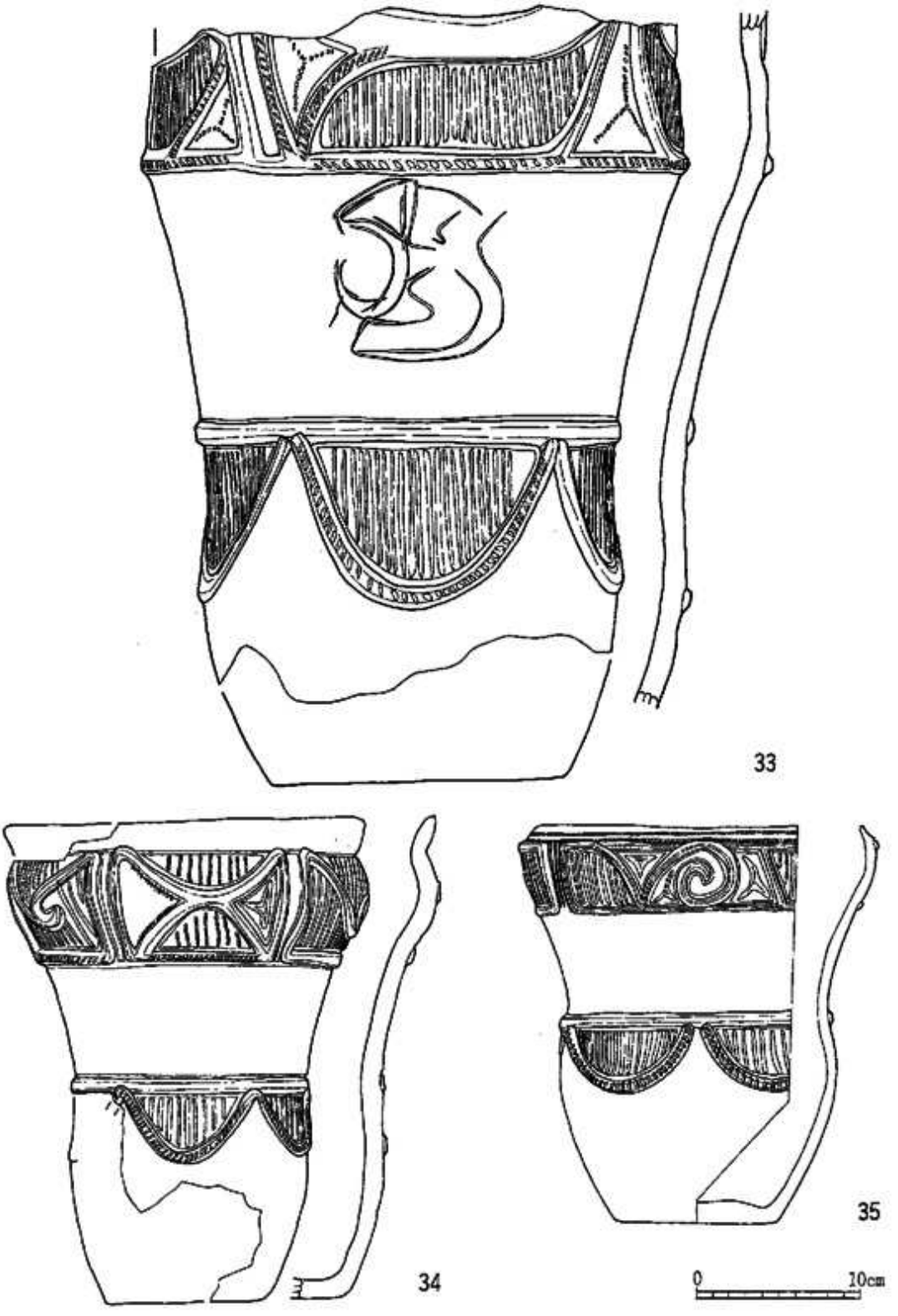
第40図　第2号住居址出土土器(5)



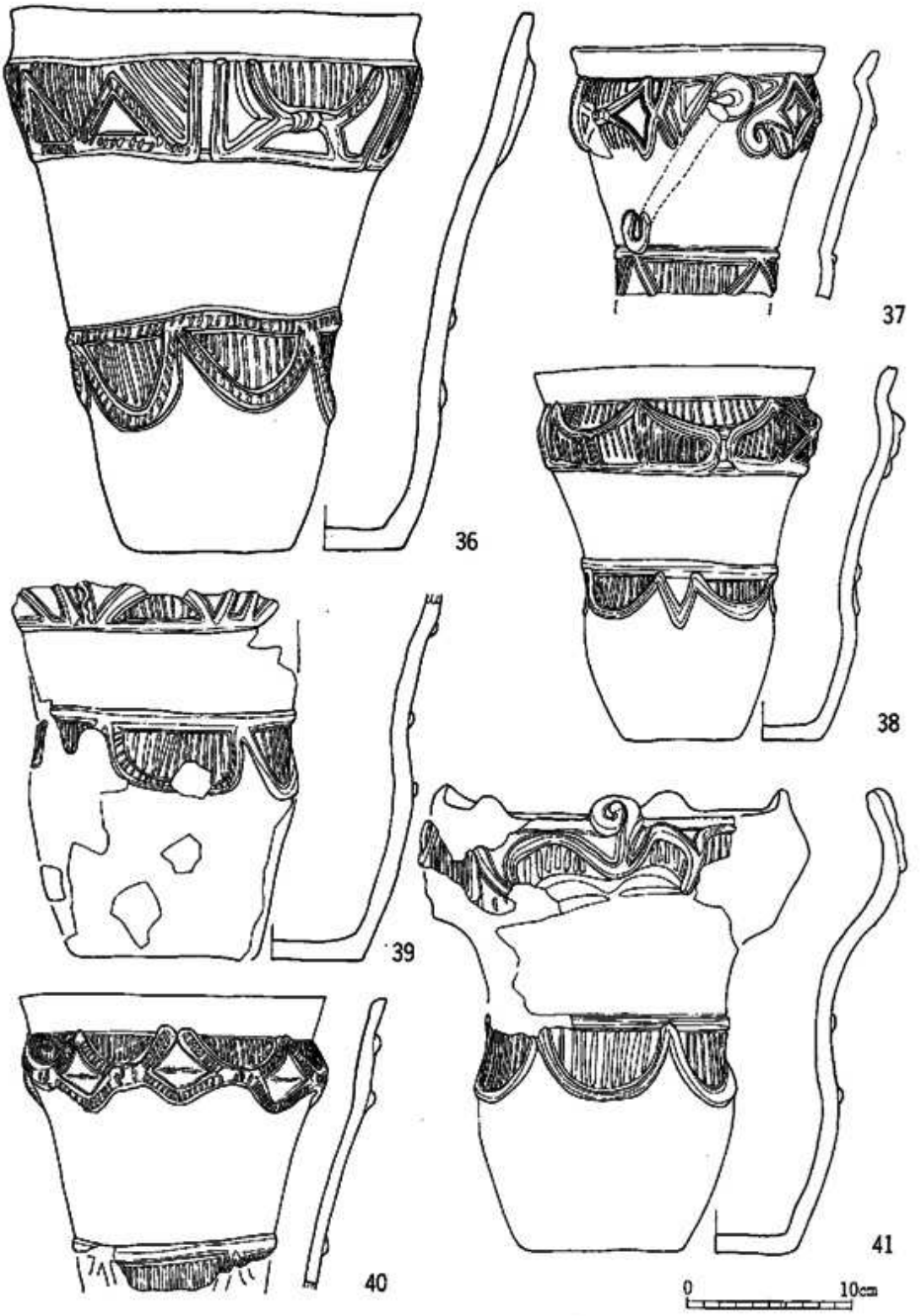
第41図　第2号住居址出土土器(6)



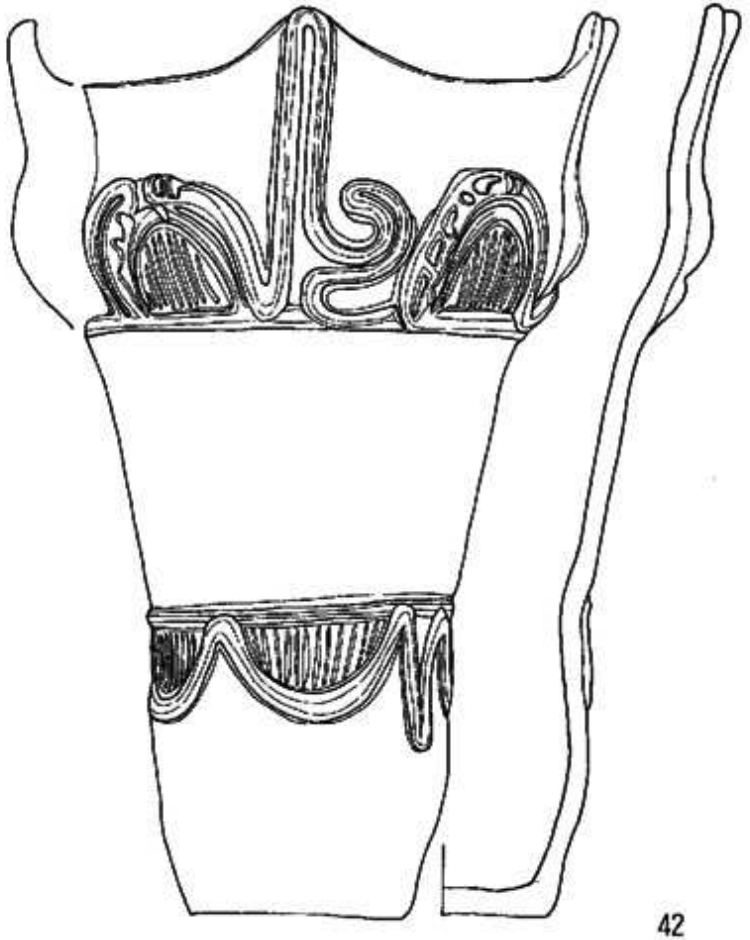
第42図　第2号住居址出土土器(7)



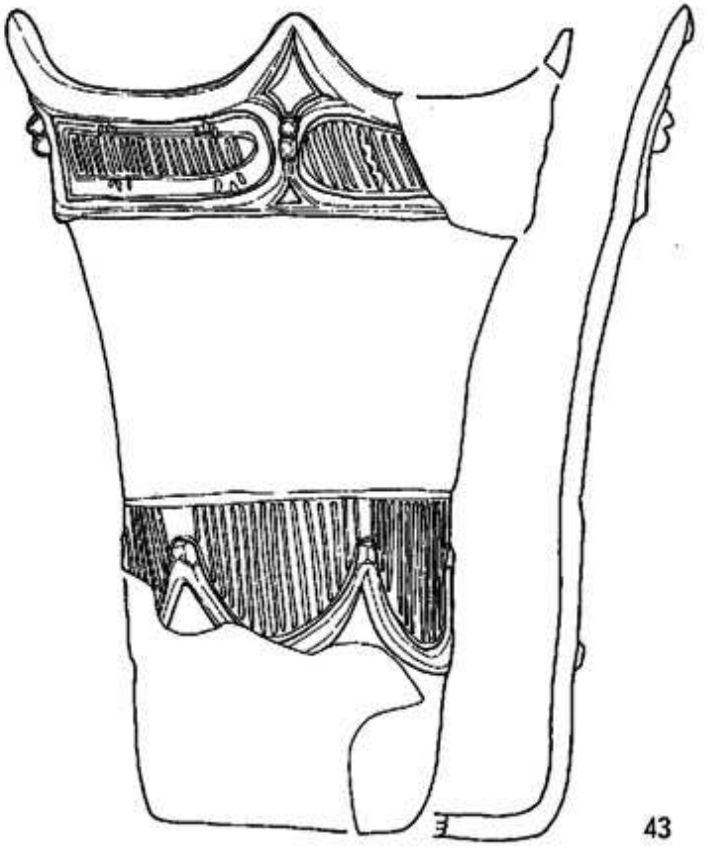
第43図　第2号住居址出土土器(8)



第44図　第2号住居址出土土器(9)

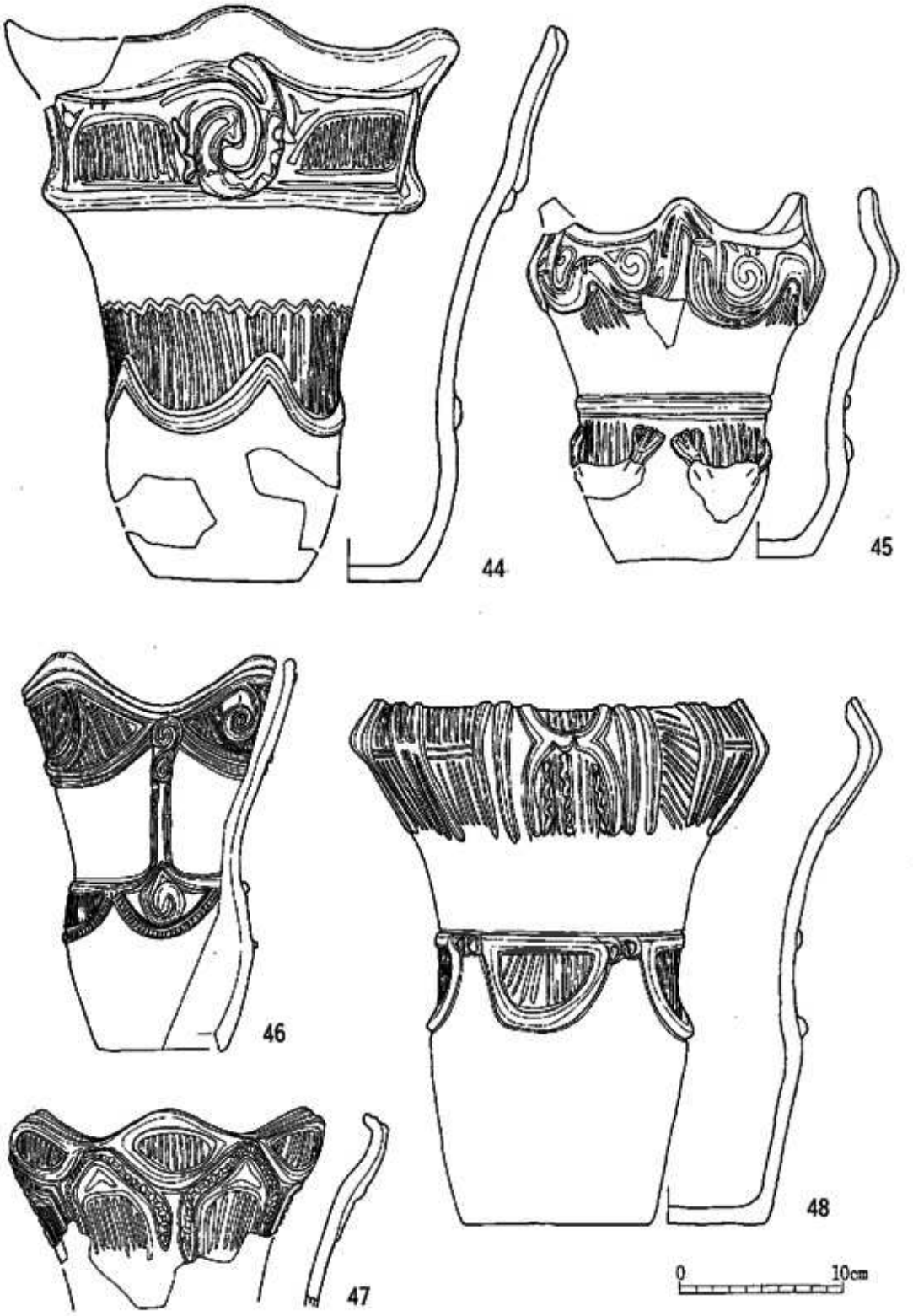


42

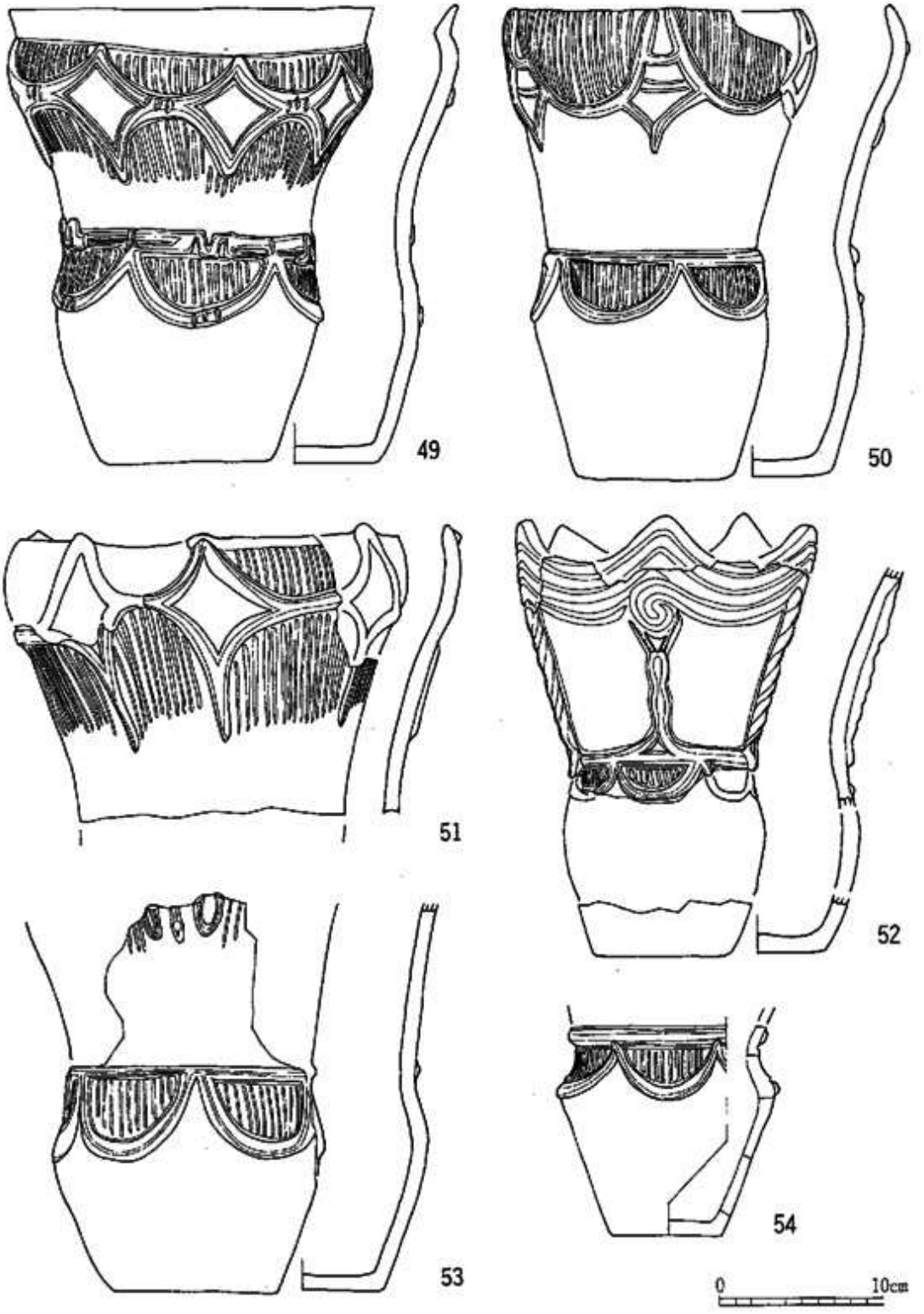


43

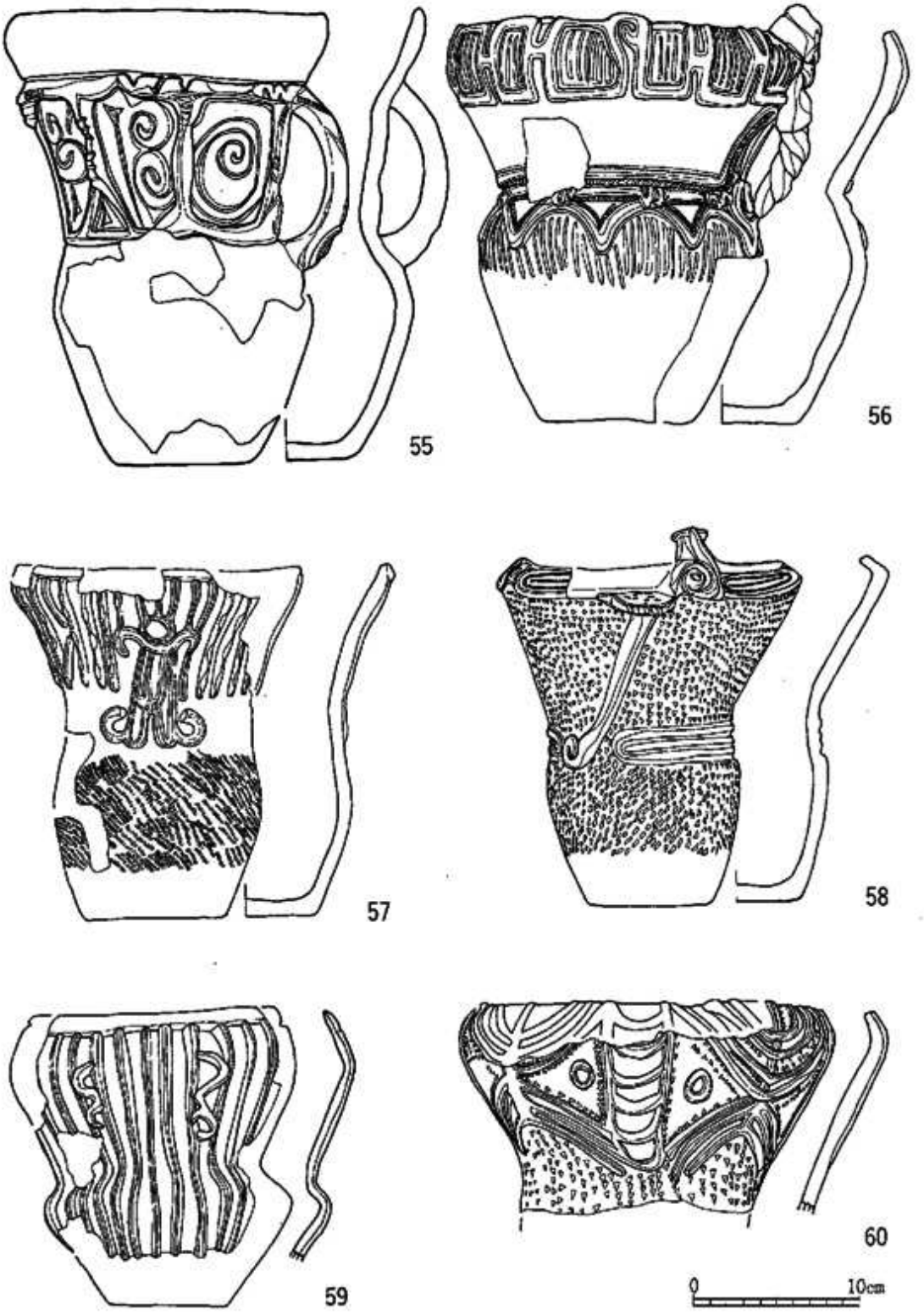
第45図　第２号住居址出土土器⑩



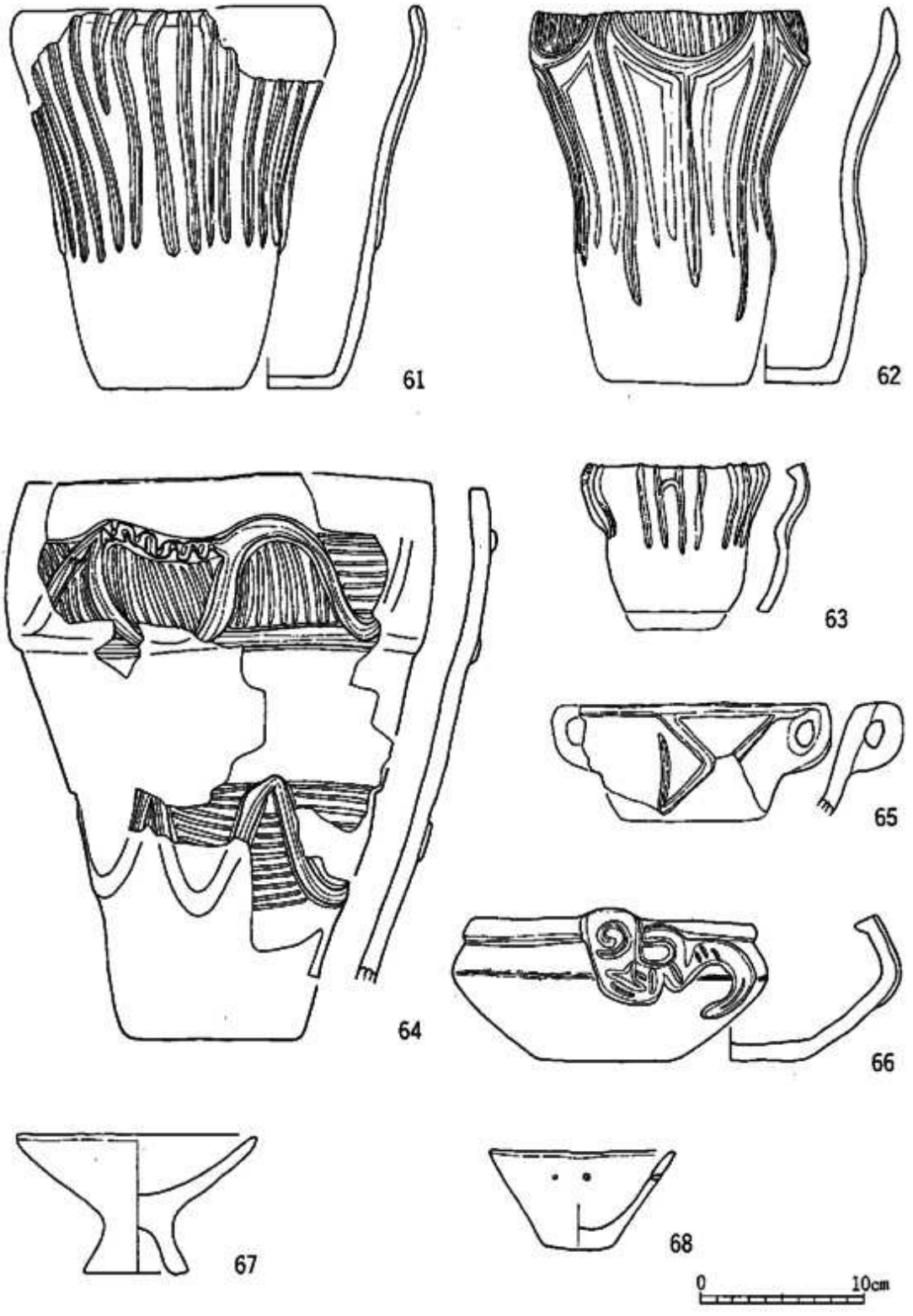
第46図　第2号住居址出土土器(1)



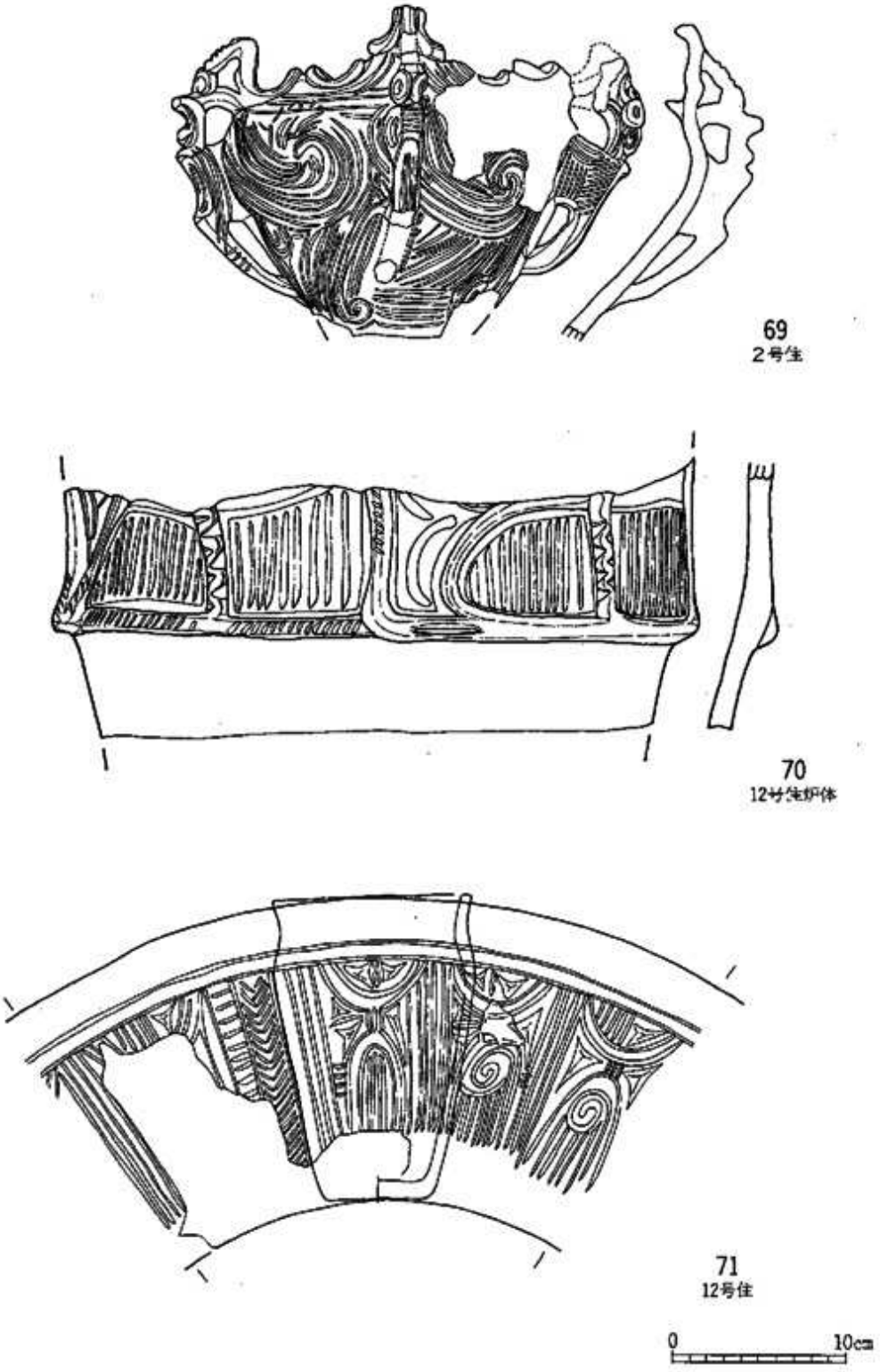
第47図　第2号住居址出土土器(12)



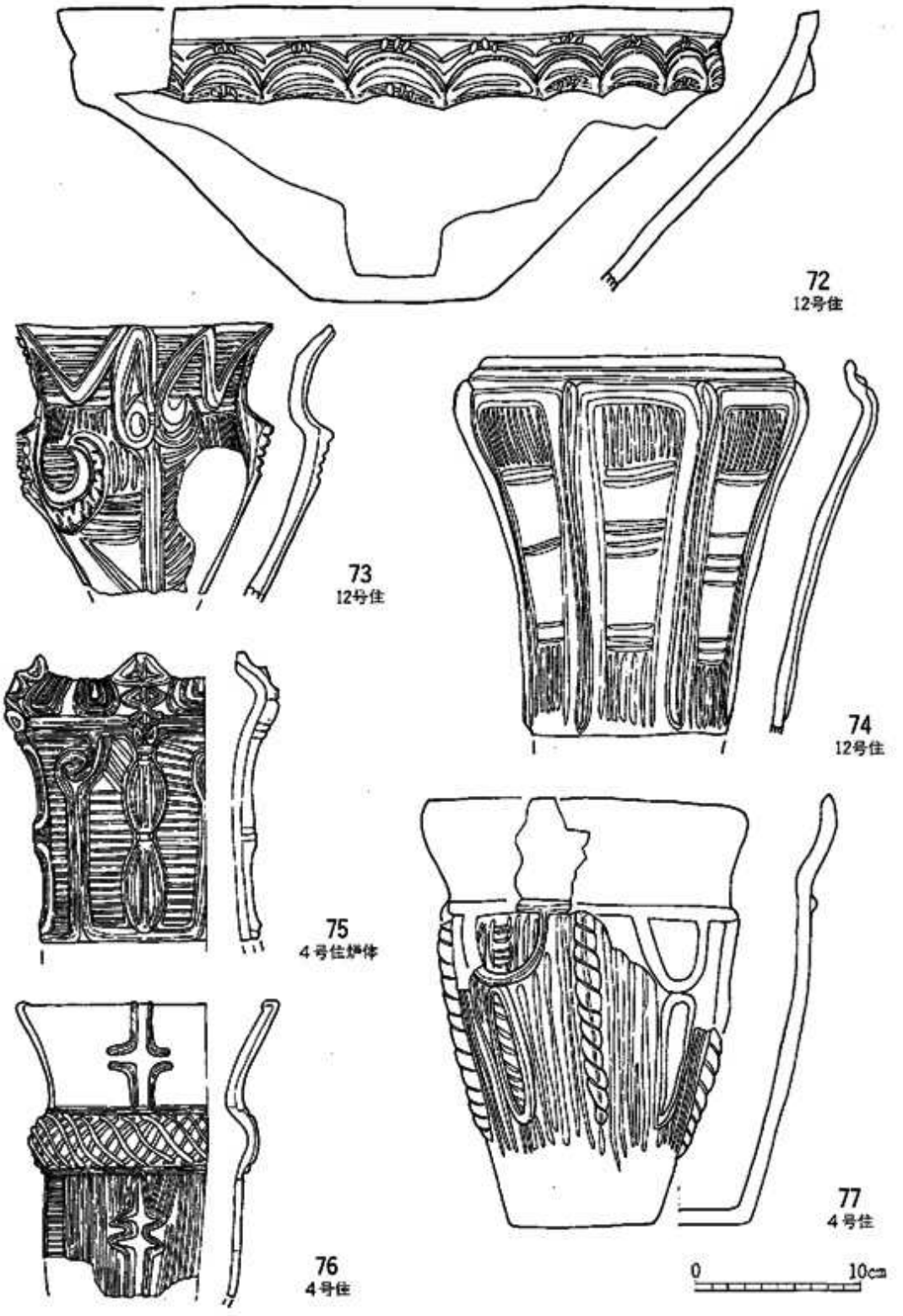
第48図　第2号住居址出土土器(13)



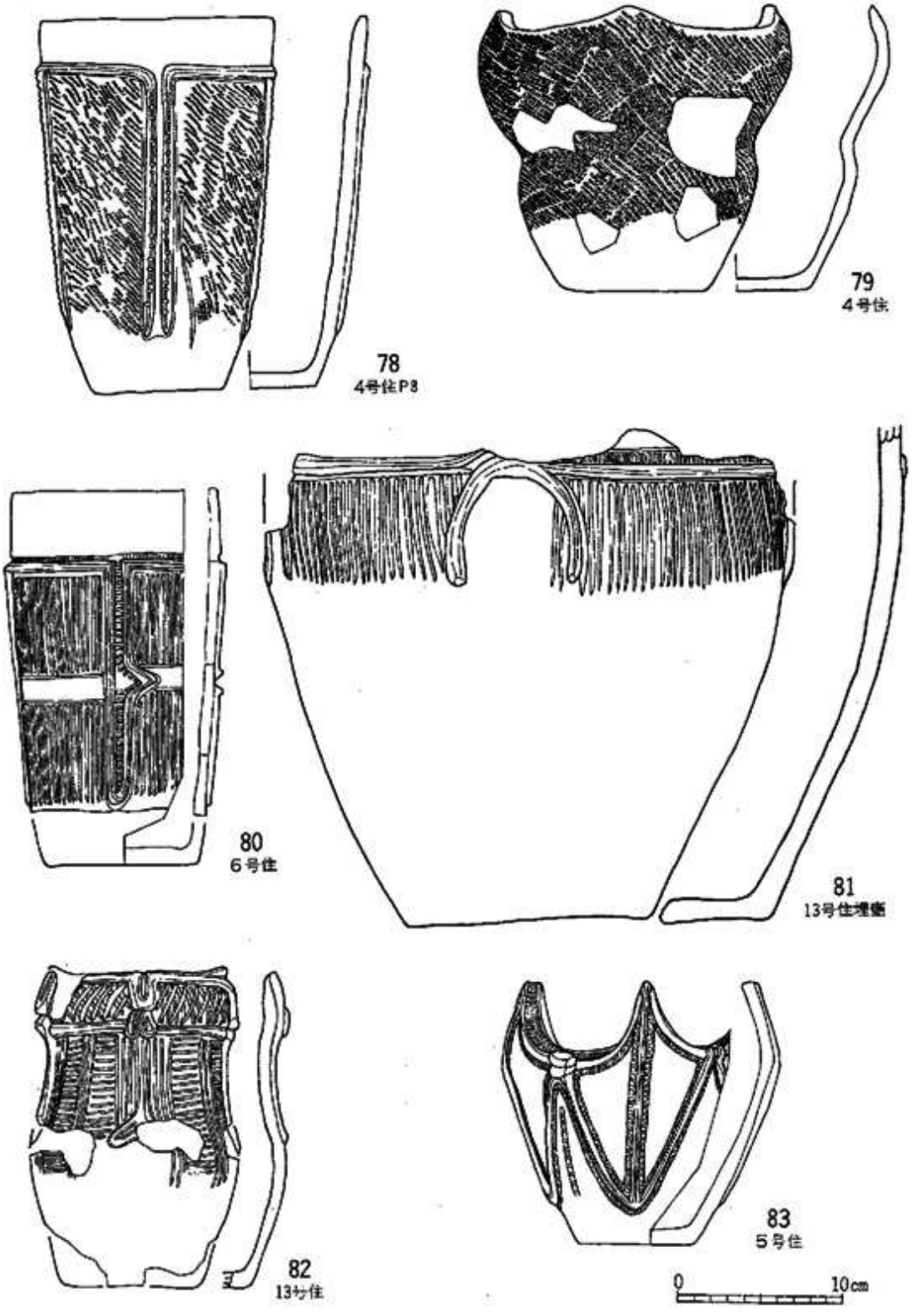
第49図　第2号住居址出土土器(14)



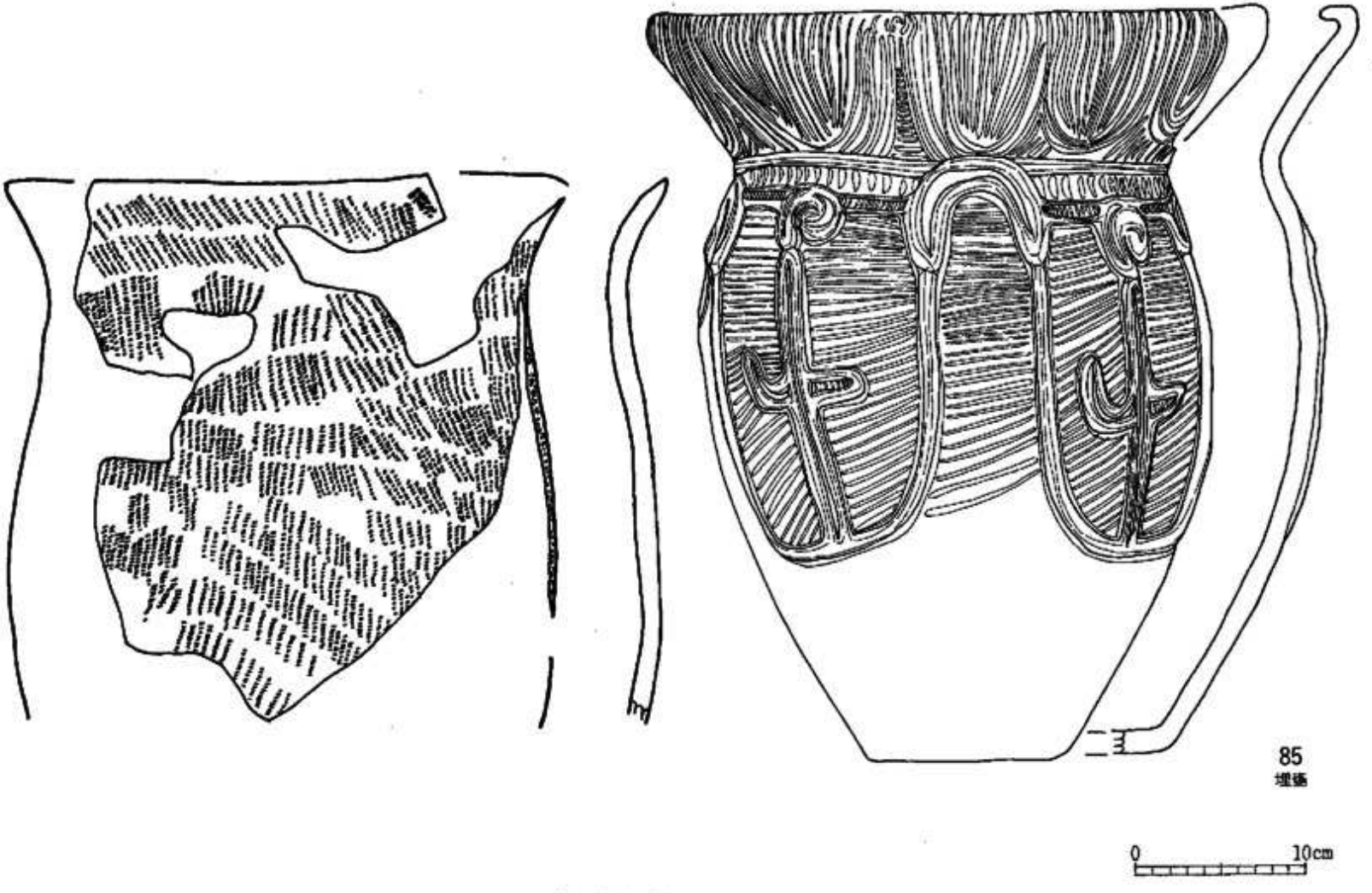
第50図　第2・12号住居址出土土器



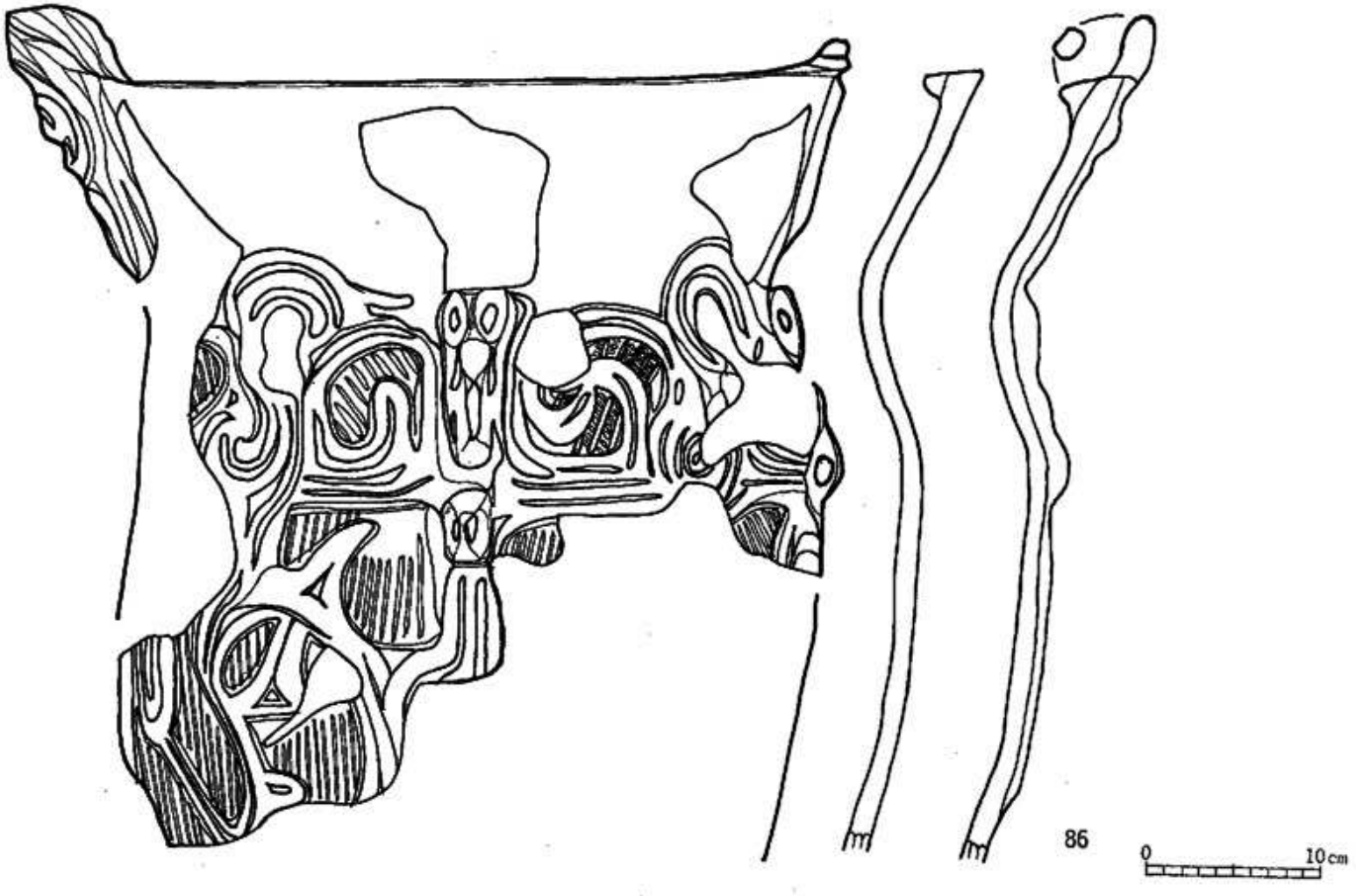
第51図　第4・12号住居址出土土器



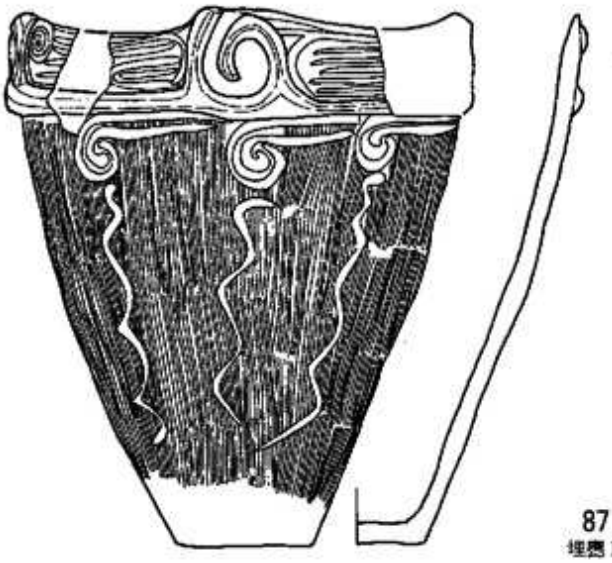
第52図　第4・5・6・13号住居址出土土器



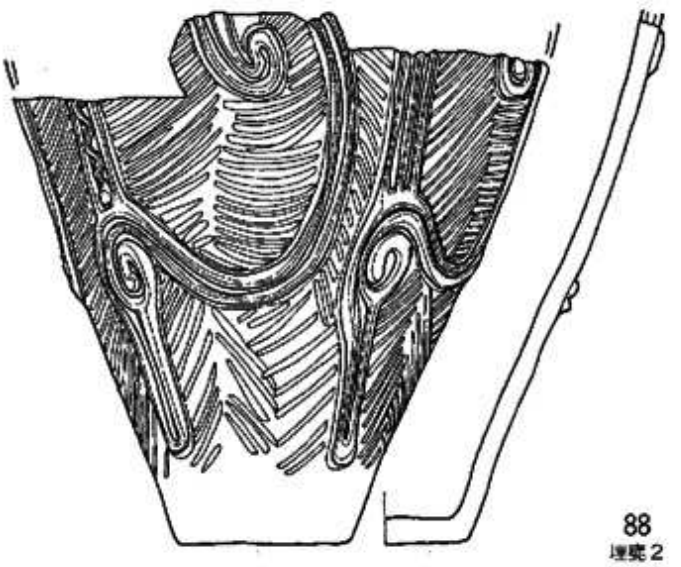
第53図　第５号住居址出土土器



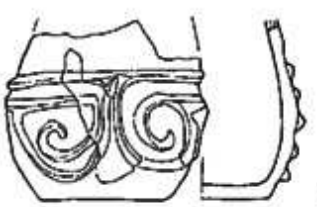
第54図　第5号住居址出土土器



87
埋甕1



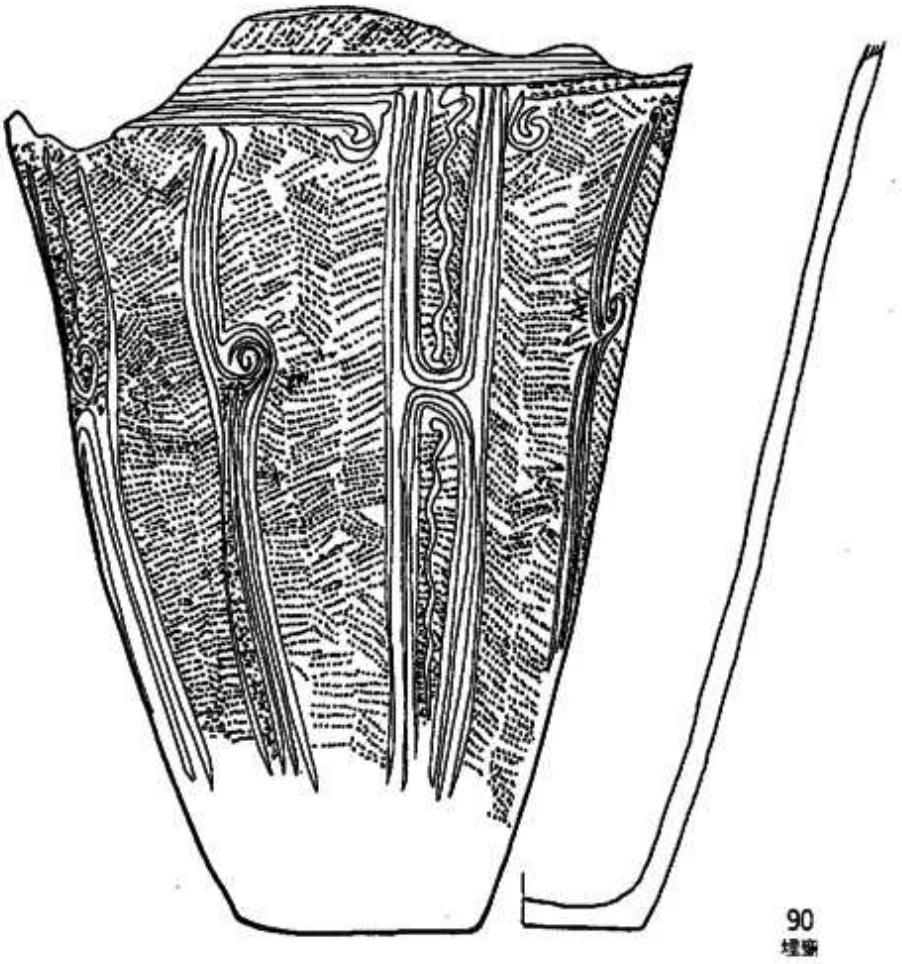
88
埋甕2



89

0　10cm

第55図　第7号住居址出土土器



第56図　第10号住居址出土土器

(2) 石器（第57～68図、第3表）

今回の調査で出土した石器は総数397点で、器種ごとの点数は以下のとおりである。

① 石鏃	39点	② 石錐	6点
③ 石匙	1点	④ ピエス・エスキーユ	79点
⑤ 小剥離痕のある剥片	104点	⑥ 打製石斧	76点
⑦ 大形石匙	15点	⑧ 横刃形石器	39点
⑨ 磨製石斧	9点	⑩ 磨・凹・敲石	18点
⑪ 石皿	3点	⑫ 砥石	3点

この他に黒曜石や頁岩の剥片、砕片が多量に出土している。定形的な石器についてはすべて一覧表に登載し、完形またはそれに近いものをできる限り実測、図化した。以下、器種ごとに概要を記す。

① **石鏃**（1～30）　調査区内の表面採集資料も含め39点ある。石質は黒曜石35点、チャート3点、珪質粘板岩1点である。いずれも無茎鏃で、基部の形態では平基1点の他は凹基である。出土地点は第2、4、9号住居址に集中しており、その多くが土器と同様に覆土からの出土である。

② **石錐**（32～36）　6点出土している。いずれも黒曜石製で、つまみ部のある2点（35、36）は石鏃欠損後の転用である。

③ **石匙**（37）　小形の石匙は1点のみである。チャート製で、裏面からの調整によって刃部が形成され、刃部断面は片刃状を呈している。

④ **ピエス・エスキーユ**（38～43）　79点出土している。器体の上下端に剥離とつぶれがあるものを本石器とした。石質はすべて黒曜石である。形状はバラエティーに富むが、長さ2㎝前後のものが主体をなしている。

⑤ **小剥離痕のある剥片**（44～48）　104点出土している。小剥離痕が2次加工によるものと使用の際の刃こぼれによるものとの2者が考えられるが一括して扱った。黒曜石が大部分で、出土地点は土器と同様第2、9号住居址の覆土中が多い。

⑥ **打製石斧**（49～97）　76点出土している。形状のわかる49点をすべて図化し、短冊形19点、撥形29点、分銅形1点であった。石質は頁岩が71点と圧倒的に多く、東山山麓の諸遺跡と共通している。破損状況は完形が32点あり、3割以上を占めている。側縁のつぶしは18点、磨耗痕は7点、着柄痕は1点にみられた。

出土地点は第2、9号住居址が多く、土器とともに覆土に廃棄されている。

⑦ **大形石匙**　15点出土している。すべて頁岩製で横形と縦形の2形態がある。縦形で打製石斧との区別がつかないものもあったが、器体が薄く抉りのあるものは石匙とした。刃部の形成は両面からの調整9点、片面からの調整6点である。完形品がほとんどを占める点に特徴がある。

⑧ **横刃形石器**　39点出土している。剥片の縁部にわずかな調整を施し形状を整えている。刃部は剥片の縁辺をそのまま利用したもの7点、両面から調整したもの10点、片面から調整したもの8点である。石質は打製石斧や大形石匙同様、頁岩が主体をなしている。

⑨ **磨製石斧**（148～156）　9点出土している。定角式6点、乳棒状式2点、刃部のみ磨製1点である。乳棒状の2点は欠損後、それぞれ凹石と敲石に転用されている。石質はチャートが半数を占めている。

⑩ **磨・凹・敲石**（157～173）　磨石、凹石、敲石は3機能を併存させる個体が多いこともあり包括して扱った。単独の機能を持つものは磨石1点、凹石5点、敲石2点である。複数の機能を持つものの組み合わせは、磨面＋凹部4点、磨面＋敲打痕2点、凹部＋敲打痕1点、磨面＋凹部＋敲打痕1点である。石質は凝灰岩、砂岩が多い。

⑪ **石皿**（175～177）　3点出土している。安山岩製2点、粗粒凝灰岩製1点である。175は盤状の素材の上面と側面を敲打して整形し、皿部を設けている。底面は平坦な自然面である。176は皿部が深くよく磨耗している。177は皿部が浅いがよく磨耗しており、底面も整形、磨耗が認められる。

⑫ **砥石**（174、178、179）　3点出土しているが形態はそれぞれ異なる。174は器体全面が砥面となり一部に敲打痕もある。さらに先端はドリル状になり磨耗痕が認められる。178は三角錐状を呈し4面が砥面となっており、よく研がれている。また、一部に敲打痕もある。179は表、右、左の3面が砥面で非常によく研がれている。いずれも細粒砂岩製である。

⑬ **その他の石器**（143～147）　143～145は側縁中央部に抉りとつぶしが施された薄手の石器である。143の表面には細かい敲打痕が認められ、裏面には滑らかな磨耗痕がある。

(3) 土製品（第69図）

土偶（1、2）　3点出土している。1は接合資料でいずれも第2号住居址の覆土から出土した。左手から胸部と胴部との間で破損しており、分割した粘土塊の接合面にあたる。胴部右半分も接合面で欠損しており平坦な面がきれいに残存している。左腕接合面には径、深さ5㎜ほどの凹部がありソケット状に差し込んで接合されたと考えられる。破損面を観察する限り芯棒の痕跡は見られなかった。2は第16号土坑から出土した。胴上半部と脚部が欠損しているが、焼成が良いこともあって破損面は非常に明瞭である。1、2とも長石、小石を多く含むが丁寧な作りで固く焼き締められている。

ミニチュア土器（3～5）　いずれも第2号住居址覆土から出土した。3は輪積みによって製作されやや雑な作りとなっている。4、5は内外面ともにナデが施されている。

第3表　石器一覧表

① 石　鏃

No.	図No.	出土地点	石　質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	破損状況	備　考
1	1	2住	黒　曜　石	2.7	1.6	0.4	1.1	完　形	
2	2	〃 床直	〃	2.4	1.4	0.4	0.6	片　脚　欠	
3	3	〃	〃	2.1	1.4	0.4	0.8	完　形	
4	4	〃	〃	2.5	1.7	0.4	1.6	片　脚　欠	
5	5	〃	〃	1.8	1.5	0.4	0.8	両　脚　欠	
6	6	〃	珪質粘板岩	2.2	1.5	0.3	0.9	完　形	
7	7	〃	黒　曜　石	2.3	(1.5)	0.3	(0.6)	片　脚　欠	
8	8	〃	〃	(2.1)	(1.5)	0.5	(1.0)	両　脚　欠	
9	9	〃	〃	(1.5)	(1.0)	0.3	(0.3)	〃	
10		〃	チャート	2.7		0.6	—	左　半　欠	
11		〃	黒　曜　石	—	—	0.4	—	脚部のみ	
12		〃	〃		—	0.4	—	〃	
13		〃	〃	—	1.8	0.3	—	上　半　欠	
14		〃	〃	—	1.7	0.6	—	〃	
15	10	4住	〃	2.0	1.5	0.4	0.6	完　形	
16	11	〃	〃	1.6	1.1	0.3	0.3	〃	
17	12	〃	〃	1.2	1.1	0.2	0.2	〃	
18		〃	〃	—	2.1	0.5	-	脚部のみ	
19	13	9住	〃	2.4	1.4	0.3	0.8	完　形	
20	14	〃	〃	2.6	(1.4)	0.3	(0.8)	片　脚　欠	
21	15	〃	〃	(2.1)	(1.4)	0.4	(0.6)	両　脚　欠	
22	16	〃	〃	(2.2)	(1.7)	0.5	(1.2)	先端・片脚欠	
23	17	〃	〃	(2.6)	(1.2)	0.4	(0.8)	下　半　欠	
24		10住	〃	—	—	0.3	—	〃	
25	18	13住	〃	1.9	1.4	0.5	1.0	完　形	
26	19	1S	〃	(1.7)	1.1	0.3	(0.3)	両　脚　欠	
27	20	28S	〃	2.2	1.4	0.3	0.5	完　形	
28	21	表採	〃	2.3	1.3	0.3	0.5	先　端　欠	
29	22	〃	〃	2.0	1.6	0.3	0.4	完　形	
30	23	〃	〃	1.3	1.2	0.3	0.3	〃	
31	24	〃	チャート	2.1	1.4	0.3	0.8	〃	
32	25	〃	黒　曜　石	2.0	(1.0)	0.3	(0.3)	片　脚　欠	
33	26	〃	〃	2.3	(1.2)	0.3	(0.7)	〃	
34	27	〃	〃	(2.0)	(1.3)	0.3	(0.6)	先端・両脚欠	
35	28	〃	チャート	(2.3)	1.6	0.3	(1.3)	先　端　欠	
36		〃	黒　曜　石	—	—		—	片脚のみ	
37	29	52S	〃	2.4	1.7	0.5	1.8	完　形	未製品
38	30	2住	〃	2.9	2.3	0.8	4.4	〃	〃
39	31	9住	〃	3.1	2.6	1.2	6.9	一　部　欠	〃　?

② 石　錐

No.	図No.	出土地点	石　質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	破損状況	備　考
1	32	2住	黒　曜　石	3.1	0.8	0.5	0.8	完　形	
2	33	〃	〃	2.2	0.7	0.3	0.4	〃	
3	34	9住	〃	(3.4)	0.8	0.6	(1.5)	先　端　欠	
4	35	〃	〃	(2.9)	1.8	0.6	(2.6)	〃	石鏃から転用
5	36	〃	〃	2.6	0.8	0.5	0.8	完　形	〃
6		〃	〃	(2.0)	0.9	0.7		基・先端欠	

③ 石　匙

No.	図No.	出土地点	石　質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	破損状況	備　考
1	37	2住	チャート	3.9	4.9	0.7	8.8	完　形	

④ ピエス・エスキーユ

No.	図No.	出土地点	石質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	破損状況	備考
1	38	2住	黒曜石	2.5	2.7	0.8	5.4		
2	39	〃	〃	3.0	2.8	1.1	9.8		
3	40	〃	〃	3.2	2.8	0.7	7.3		
4	41	〃	〃	1.9	2.0	0.8	3.4		
5	42	〃	〃	1.7	1.5	0.8	1.8		
6	43	〃	〃	2.5	1.6	0.5	2.0		
7		〃 174下	〃	2.2	2.1	1.0	4.2		
8		〃 17	〃	2.3	1.9	1.1	4.5		
9		〃 覆土	〃	2.2	1.6	0.7	1.7		
10		〃 覆土上層	〃	2.5	2.2	1.0	6.9		
11		〃 覆土	〃	5.7	2.5	2.5	29.9		原石使用
12		〃 68	〃	2.1	2.3	0.7	3.0		
13		〃 縄土上層	〃	1.9	1.6	0.7	2.0		
14		〃 縄土	〃	2.4	2.0	0.9	3.9		
15		〃 109	〃	1.7	1.6	0.6	1.6		
16		〃 覆土	〃	2.9	1.9	1.4	5.6		
17		〃 覆土層	〃	2.2	2.0	0.9	4.0		
18		〃 覆土	〃	3.0	1.5	0.8	3.5		側縁にもつぶれ
19		〃 覆土層2	〃	2.2	1.7	0.9	3.7		
20		〃 覆土層3	〃	1.6	1.8	0.5	1.6		側縁にもつぶれ
21		〃	〃	2.9	1.7	1.0	3.7		
22		〃 覆土	〃	1.8	1.7	1.1	3.0		
23		〃 覆土	〃	2.1	1.9	0.8	2.4		
24		〃 98	〃	2.0	1.6	0.5	1.5		
25		〃 6 縄土上層	〃	1.6	1.6	0.9	1.6		
26		〃 縄土	〃	1.8	1.7	0.5	0.9		
27		〃 132	〃	1.8	1.1	0.6	1.0		
28		〃 覆土	〃	1.5	1.3	0.4	0.6		
29		〃 覆土上層2	〃	1.5	1.7	0.4	0.7		
30		〃 132	〃	1.6	1.3	0.3	0.6		
31		〃 25	〃	2.3	0.7	0.6	0.9		
32		3住縄土	〃	2.8	1.1	0.5	2.4		
33		4住4・5H縄土	〃	1.5	1.3	0.6	0.9		
34		〃 4区覆土	〃	1.6	1.0	0.5	0.6		
35		5住3	〃	3.3	1.6	1.3	5.5		
36		7住覆土	〃	2.7	1.8	1.2	5.4		
37		〃 〃	〃	2.4	1.0	0.7	1.5		
38		〃 〃	〃	1.6	1.5	0.6	1.3		
39		8住覆土	〃	2.5	1.7	1.1	5.2		
40		〃	〃	2.4	2.3	0.3	3.3		
41		9住覆土	〃	3.1	2.7	0.8	8.1		
42		〃 〃	〃	3.0	3.4	1.4	10.6		
43		〃 〃	〃	3.3	2.9	1.2	8.1		
44		〃 〃	〃	2.6	2.9	0.9	4.3		
45		〃	〃	2.8	2.3	0.9	4.1		
46		〃	〃	2.3	2.7	0.6	4.1		
47		〃	〃	2.8	1.9	1.4	6.5		
48		〃 5	〃	2.7	2.2	1.3	6.1		
49		〃 覆土	〃	2.5	2.2	1.7	6.2		
50		9住	黒曜石	2.6	1.6	0.9	3.1		
51		〃	〃	2.0	1.8	1.0	2.7		
52		〃	〃	1.8	1.9	0.6	2.0		
53		〃	〃	2.0	2.3	0.7	2.7		
54		〃	〃	2.2	2.0	0.8	2.8		
55		〃 18	〃	2.4	1.8	0.7	2.5		

No.	図No.	出土地点	石　質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	破損状況	備　考
56		〃 P2	〃	2.0	1.5	0.6	1.9		
57		〃	〃	2.0	1.8	1.0	2.4		
58		〃	〃	2.3	1.4	0.6	1.6		
59		〃	〃	2.1	1.9	0.7	1.9		
60		〃	〃	1.9	1.6	0.7	1.9		
61		〃	〃	1.5	1.2	0.7	1.3		
62		〃	〃	2.1	1.4	0.8	1.7		
63		〃	〃	1.3	1.6	0.7	1.2		
64		〃	〃	1.5	1.3	0.6	0.7		
65		〃	〃	2.0	1.1	0.4	0.6		
66		10住覆土	〃	3.3	3.3	1.3	13.2		
67		12住 〃	〃	1.8	1.5	0.6	1.7		
68		13住2区	〃	2.8	2.8	1.6	8.6		
69		〃 6区	〃	2.2	1.8	1.0	3.5		
70		〃	〃	5.1	2.8	1.6	23.0		
71		〃	〃	3.0	1.6	0.6	2.9		側縁に微細な剥離
72		〃	〃	2.0	2.3	1.0	3.5		
73		〃	〃	2.0	1.1	0.7	1.7		
74		〃	〃	1.9	1.5	0.7	1.7		片側縁につぶれ
75		1 S	〃	2.1	1.8	0.7	2.3		
76		〃	〃	2.0	0.9	0.9	1.4		
77		14 S	〃	2.2	1.8	1.1	2.7		
78		29 S	〃	2.5	1.7	1.3	5.4		
79		表採	〃	1.7	1.7	0.4	1.4		

⑤ 打製石斧

No.	図No.	出土地点	石　質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	破損状況	備　考
1	49	2住	頁　岩	11.4	4.5	1.8	109.0	完　形	磨耗痕
2	50	〃	〃	11.2	4.4	2.3	119.0		磨耗痕・つぶし
3	51	〃	〃	11.1	3.8	2.0	90.0		側縁つぶし
4	52	〃	〃	8.9	5.0	1.1	63.0		付着物
5	53	〃	〃	(8.0)	4.2	2.2	(94.0)	先端欠	
6	54	〃	〃	(10.2)	5.2	1.4	(79.0)	上半欠	
7	55	〃	〃	(9.0)	(5.5)	2.2	(130.0)	上半・側縁欠	
8	56	〃	〃	12.9	4.4	2.0	120.0	完　形	磨耗痕
9	57	〃	〃	(9.0)	4.0	(1.0)	(39.0)	上半欠	
10	58	〃	〃	(7.7)	4.5	1.5	(57.0)	先端・基部欠	
11	59	〃	〃	9.7	5.3	1.6	(80.0)	先端欠	
12	60	〃	〃	(5.0)	2.9	9.0	(16.0)	下半欠	
13		〃	〃	(7.0)	(4.6)	1.7	(74.0)	〃	
14		〃	〃	(9.2)	6.8	1.2	(83.0)	先端・基部欠	
15		〃	〃	(9.3)	6.2	2.6	(200.0)	上半欠	
16		〃	〃	(7.4)	5.6	1.8	(83.0)	〃	
17		〃	〃	(6.4)	4.4	1.4	(49.0)	〃	
18		〃	〃	(7.3)	4.2	1.4	(60.0)	下半欠	
19		〃	〃	(6.9)	5.7	1.2	(79.0)	〃	
20		〃	〃	(4.8)	3.5	0.8	(14.0)	〃	
21		〃	〃	(7.0)	(5.5)	2.2	(133.0)	基部のみ	
22		2住	頁　岩	(5.2)	(5.9)	1.2	(46.0)	基部のみ	
23		〃	〃	(6.4)	(5.0)	1.3	(58.0)	〃	
24		〃	〃	(2.8)	(4.3)	1.6	(21.0)	〃	
25		〃	〃	(4.2)	(4.9)	1.8	(48.0)	〃	
26	61	3住	〃	10.0	6.1	1.2	100.0	完　形	
27	26	〃	〃	(8.3)	4.7	2.4	(120.0)	上半欠	側縁つぶし

No.	図No.	出土地点	石質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	破損状況	備考
28		〃	〃	(8.4)	(7.0)	0.8	(55.0)	基部のみ	
29	63	4住	〃	(8.2)	(5.0)	1.3	(78.0)	先端・基部欠	
30	64	〃	〃	9.7	4.6	1.7	107.0	完形	側縁つぶし
31	65	〃	細粒砂岩	(9.9)	4.8	2.1	(110.0)	基部欠	〃・磨耗痕
32		〃	頁岩	(6.8)	6.0	1.1	(71.0)	中央部のみ	
33		〃	〃	(7.0)	4.0	0.8	(37.0)	上半欠	
34		4住or5住	〃	(6.0)	5.0	0.9	(36.0)	中央部のみ	
35		〃	〃	(7.4)	5.0	1.4	(72.0)	上半欠	
36		5住	〃	(7.6)	6.2	1.9	(135.0)	中央部のみ	
37	66	6住	〃	(7.0)	3.6	1.1	(27.0)	先端・基部欠	
38		〃 P4	〃	(6.4)	7.2	1.4	(92.0)	上半欠	
39	67	9住	〃	8.1	4.0	1.2	43.0	完形	
40	68	〃	〃	11.5	5.5	2.5	200.0	〃	側縁つぶし
41	69	〃	〃	(7.8)	(5.0)	0.6	(30.0)	先端欠	
42	70	〃	〃	13.3	6.5	3.2	279.0	完形	側縁つぶし
43	71	〃	〃	12.5	5.2	1.6	(150.0)	基部欠	
44	72	〃	〃	(8.3)	4.7	1.7	(82.0)	〃	磨耗痕
45	73	〃	〃	10.7	4.7	1.5	77.0	完形	
46	74	〃	〃	(10.2)	5.0	0.8	(63.0)	先端欠	
47		〃	〃	(8.0)	(5.7)	1.6	(60.0)	一部のみ	
48		〃	〃	(7.6)	4.0	1.2	(45.0)	先端・基部欠	
49		〃	チャート	(8.6)	4.5	1.8	(100.0)	〃	
50	75	11住	頁岩	(10.7)	6.2	1.7	(140.0)	〃	
51	76	10住	〃	15.4	5.5	2.3	(199.0)	先端欠	側縁つぶし
52	77	12住	〃	9.3	6.6	1.2	100.0	完形	〃
53		〃	細粒砂岩	(6.2)	(6.2)	2.7	(150.0)	基部のみ	
54	78	13住	頁岩	10.8	3.3	1.3	60.0	完形	
55	79	14住	〃	11.6	4.2	1.8	(83.0)	基部欠	
56	80	13住P5	中粒砂岩	13.3	5.5	1.4	170.0	完形	側縁つぶし
57		14住	頁岩	(6.7)	(4.2)	1.4	(66.0)	一部のみ	
58		16S	〃	(5.8)	(3.8)	1.0	(31.0)	基部のみ	
59	81	37S	〃	10.6	4.5	1.6	86.0	完形	
60	82	J-4	〃	10.0	5.6	2.0	150.0	〃	側縁つぶし
61	83	4住北	〃	9.9	5.3	2.3	160.0	〃	〃
62	84	2住北	〃	(11.6)	7.0	2.7	(280.0)	基部欠	
63	85	2住	〃	12.1	7.6	1.6	149.0	完形	磨耗痕
64	86	〃	〃	9.9	4.4	1.6	73.0	〃	側縁つぶし
65	87	〃	〃	(8.7)	4.3	1.6	(72.0)	基部欠	磨耗痕
66	88	〃	〃	9.1	5.2	1.6	83.0	完形	側縁つぶし
67	89	〃	〃	10.4	4.8	1.6	100.0	〃	
68	90	〃	〃	(10.0)	5.2	1.8	(100.0)	刃部欠	
69	91	〃	〃	8.0	5.7	1.5	72.0	完形	側縁つぶし
70	92	〃	〃	(6.6)	5.6	1.2	(52.0)	基部欠	
71	93	〃	〃	(9.1)	7.9	1.1	(110.0)	〃	側縁つぶし
72	94	〃	〃	(9.9)	6.4	1.2	(89.0)	〃	
73	95	4住	〃	9.4	4.7	1.1	62.0	完形	側縁つぶし
74	96	9住	安山岩	13.0	6.5	3.3	130.0	〃	〃
75	97	J-2	頁岩	8.5	4.5	1.3	58.0	〃	〃・磨耗痕
76		J-3	〃	(8.4)	5.0	1.2	(68.0)	刃部欠	

⑦ 大型石匙

No.	図No.	出土地点	石質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	破損状況	備考
1	98	2住	頁岩	3.8	7.2	1.0	21.0	完形	扶部つぶし
2	99	〃	〃	5.6	5.9	1.3	49.0	〃	〃
3	100	〃	〃	7.9	7.8	1.2	81.0	〃	〃

No.	図No.	出土地点	石質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	破損状況	備考
4	101	9住	〃	7.0	6.0	1.3	58.0	〃	〃
5	102	13住P9	〃	6.8	9.2	1.2	74.0	〃	〃
6	103	〃	〃	5.0	6.0	1.1	31.0	〃	
7	104	〃	〃	5.7	10.4	0.8	59.0	〃	扶部つぶし
8	105	2住	〃	8.7	3.4	0.5	20.0	〃	〃
9	106	2住or4住	〃	10.7	4.0	0.7	49.0	〃	〃
10	107	4住	〃	(7.7)	3.5	0.7	(17.0)	先端欠	〃
11	108	4住or5住	〃	7.5	3.4	0.7	20.0	完形	〃
12	109	12住	〃	9.8	3.7	1.0	45.0	〃	〃
13	110	2住	〃	10.0	3.7	1.2	45.0	〃	〃
14	111	13住	〃	10.3	3.2	1.2	44.0	〃	
15	112	4住北	〃	10.7	4.2	1.0	48.0	〃	

⑧ 横刃形石器

No.	図No.	出土地点	石質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	破損状況	備考
1	113	2住	頁岩	5.7	11.7	3.2	185.0	完形	
2	114	〃	〃	3.6	11.7	0.6	33.0	〃	
3	115	〃	〃	5.6	6.6	0.9	39.0	〃	
4	116	〃	〃	(4.1)	9.3	0.7	(36.0)	上部・刃部欠	
5	117	〃	〃	4.2	7.7	1.1	30.0	完形	
6	118	〃	〃	4.1	7.6	0.6	19.0	〃	
7	119	〃 P10	〃	5.0	5.6	0.8	32.0	〃	
8	120	〃	〃	3.3	6.9	0.6	17.0	〃	
9	121	〃	〃	6.0	8.2	1.5	59.0	〃	
10	122	〃	〃	3.7	7.4	0.5	19.0	〃	
11	123	〃	〃	6.7	9.8	1.6	110.0	〃	
12	124	〃	〃	4.0	4.7	1.2	29.0	〃	磨耗痕
13	125	〃	チャート	3.8	8.2	0.9	29.0	〃	〃
14	126	〃	頁岩	2.8	10.1	0.7	19.0	〃	
15		〃	〃	(5.8)	(7.2)	1.5	(79.0)	欠	
16		〃	〃	5.8	(4.6)	1.1	(41.0)	片側欠	
17		〃	〃	4.3	(4.8)	0.5	(13.0)	〃	
18		〃	〃	5.8	(8.8)	2.1	(111.0)	〃	
19		〃	〃	5.5	(9.2)	1.3	(73.0)	〃	
20		4住	〃	10.0	4.6	0.1	64.0	完形	
21	127	9住	〃	3.7	9.2	1.1	39.0	〃	
22	128	〃	〃	4.9	5.5	0.8	30.0	〃	
23	129	〃	中粒砂岩	6.4	9.7	1.2	(82.0)	片側欠	
24	130	〃	頁岩	6.2	5.4	0.8	39.0	完形	
25	131	〃	〃	4.7	8.5	1.3	58.0	〃	
26	132	〃	〃	4.0	6.5	1.0	26.0	〃	
27	133	10住	〃	9.9	8.7	1.5	100.0	〃	刃こぼれ
28	134	13住	〃	5.1	11.5	0.8	26.0	〃	
29		〃	〃	7.9	(5.3)	0.8	(48.0)	両側欠	
30		〃	〃	12.8	(5.2)	1.4	(120.0)	上端欠	
31	135	14住	〃	5.8	8.8	1.3	75.0	完形	
32	136	J-2	〃	4.5	7.1	1.2	43.0	〃	上端つぶし
33	137	4住	中粒砂岩	8.8	11.1	3.3	310.0	〃	
34	138	29S	頁岩	5.7	8.5	2.5	100.0	〃	
35	139	J-5	〃	10.2	4.1	1.7	72.0	〃	
36	140	2住	頁岩	(7.1)	4.2	1.5	(49.0)	片側欠	打斧か
37	141	9住	〃	9.0	3.7	0.8	27.0	完形	
38	142	13住	〃	10.7	3.7	0.5	84.0	〃	
39		表採	〃	7.0	(5.5)	0.9	(84.0)	半欠	

⑨ 磨製石斧

No.	図No.	出土地点	石質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	破損状況	備考
1	148	4号集石西	チャート	4.1	1.8	0.7	8.8	完形	刃こぼれ
2	149	2住	〃	9.6	5.1	2.1	171.0	〃	
3	150	4住	〃	10.5	5.7	2.6	260.0	〃	刃こぼれ
4	151	9住	〃	12.3	5.8	2.3	219.0	〃	〃
5	152	14S南	〃	(3.0)	(2.3)	(1.0)	(9.5)	基部のみ	
6	153	表採	細粒砂岩	(7.0)	5.3	2.8	120.0	上半欠	刃こぼれ
7	154	6住P4	安山岩	(11.5)	5.7	3.7	(401.0)	先端欠	凹石に転用
8	155	16S	〃	(8.0)	(2.5)	(2.5)	(77.0)	側縁のみ	敲石に転用
9	156	6住P4	頁岩	9.0	5.7	2.0	(115.0)	完形	刃部のみ研磨

⑩ 磨石・凹石・敲石

No.	図No.	出土地点	石質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	破損状況	備考
1	157	2住	細粒凝灰岩	11.5	8.2	3.7	485.0	完形	磨面+敲打
2	158	〃	粗粒凝灰岩	9.1	7.6	5.7	430.0	〃	磨面
3	159	5住	レキ岩	9.8	9.0	6.2	675.0	〃	〃
4	160	12住	中粒砂岩	(7.2)	7.4	5.1	(380.0)	半欠	磨面+敲打
5	161	2住	細粒凝灰岩	11.7	(5.5)	4.2	(335.0)	〃	磨面
6	162	〃	細粒砂岩	9.8	8.3	6.7	670.0	完形	凹部+磨面
7	163	26S	粗粒凝灰岩	(7.5)	7.9	4.8	(430.0)	半欠	〃
8	164	4住北	〃	6.6	5.5	2.5	120.0	完形	凹部
9	165	5住	細粒凝灰岩	11.0	7.8	6.0	660.0	〃	凹部+磨面
10	166	8住	頁岩	(11.5)	4.2	2.7	(170.0)	一部欠	凹部
11	167	13住	中粒砂岩	12.5	8.5	6.3	929.0	完形	〃
12	168	9住	粗粒凝灰岩	(9.0)	7.4	4.7	(350.0)	半欠	〃
13	169	18S西	細粒砂岩	7.9	8.0	4.5	350.0	完形	凹+磨+敲
14	170	5住	安山岩	11.7	5.5	3.9	509.0	〃	凹部
15	171	3住	細粒砂岩	(7.5)	5.6	4.3	(310.0)	半欠	凹部+敲打
16	172	9住	細粗凝灰岩	(10.0)	(9.2)	5.7	(680.0)	欠	凹部+磨面
17		2住	頁岩	8.8	4.6	3.2	181.0	完形	敲打
18	173	表採	中粒砂岩	14.5	4.2	3.5	308.0	〃	〃

⑪ 石皿

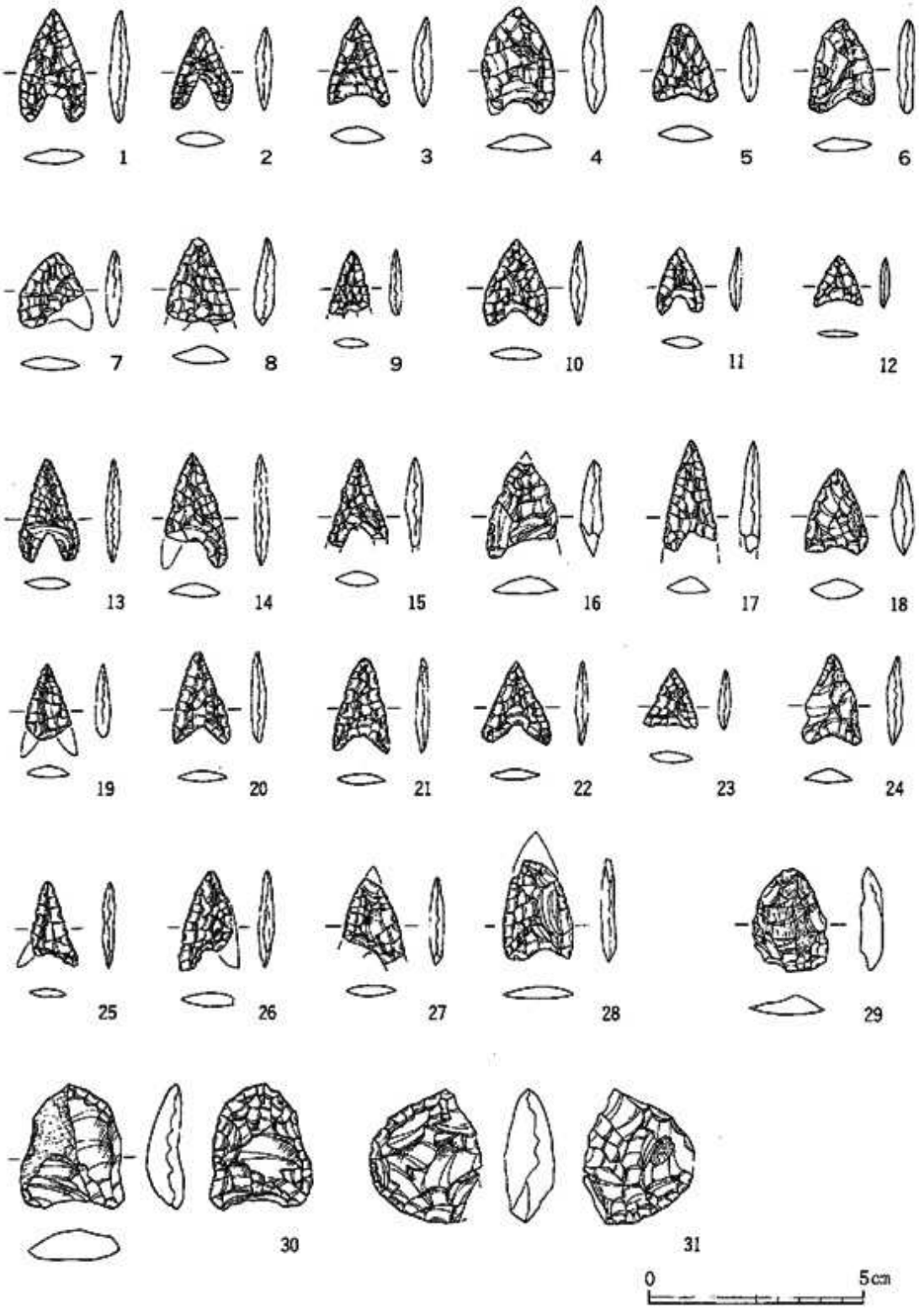
No.	図No.	出土地点	石質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	破損状況	備考
1	175	2住P11	粗粒凝灰岩	(30.2)	25.4	9.3	(6220)	前側部欠	
2	176	6住炉石	安山岩	(29.7)	(25.0)	11.4	(8160)	後部欠	
3	177	52S	〃	(20.2)	(10.5)	7.9	(2350)	片側部のみ	底面磨耗

⑫ 砥石

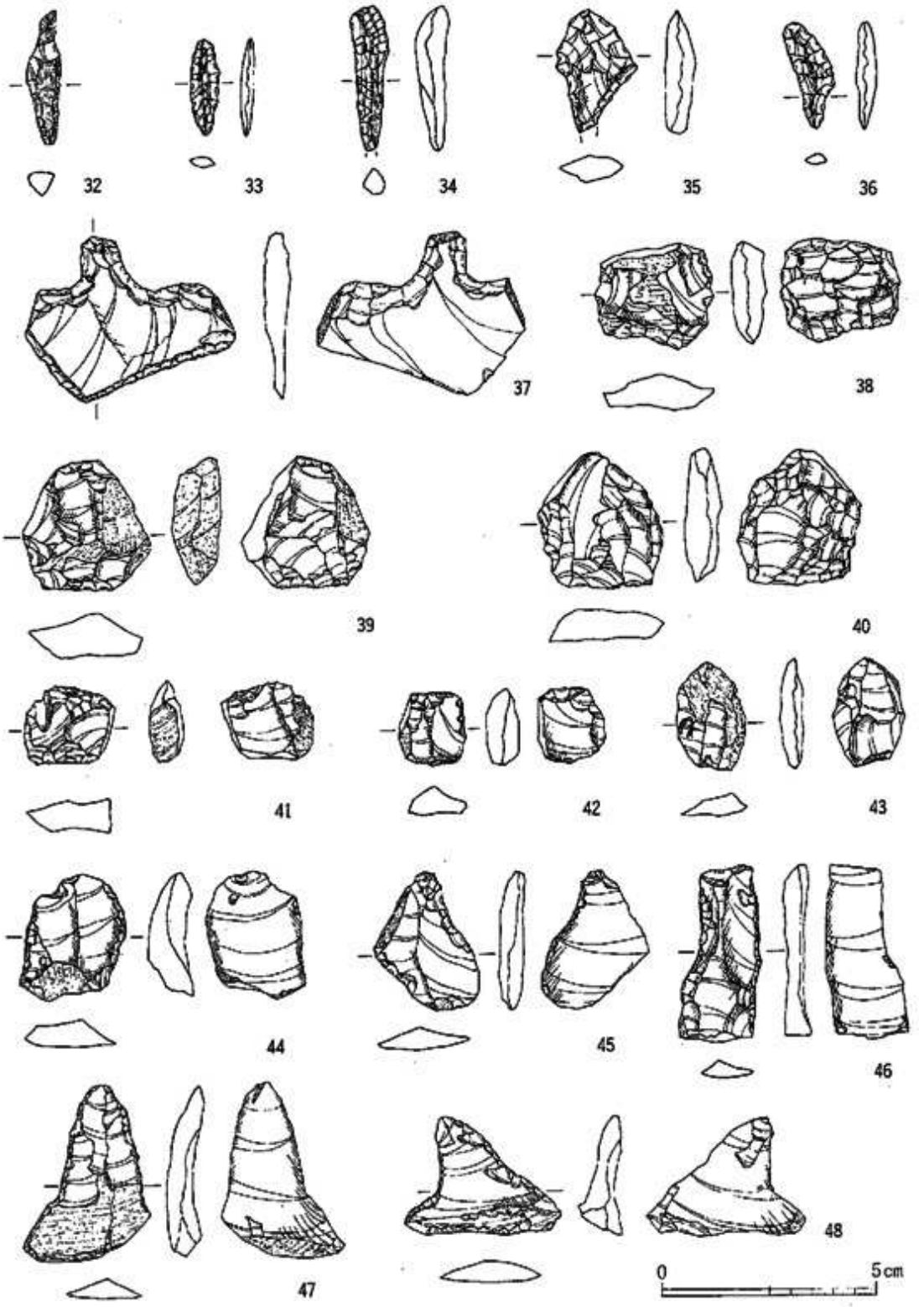
No.	図No.	出土地点	石質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	破損状況	備考
1	174	調査区西端	細粒砂岩	14.3	7.5	2.7	385.0	完形	先端ドリル状
2	178	排土	〃	18.5	14.7	10.3	1770	〃	敲打
3	179	13住	〃	12.3	10.0	9.3	1790	〃	

⑬ その他の石器

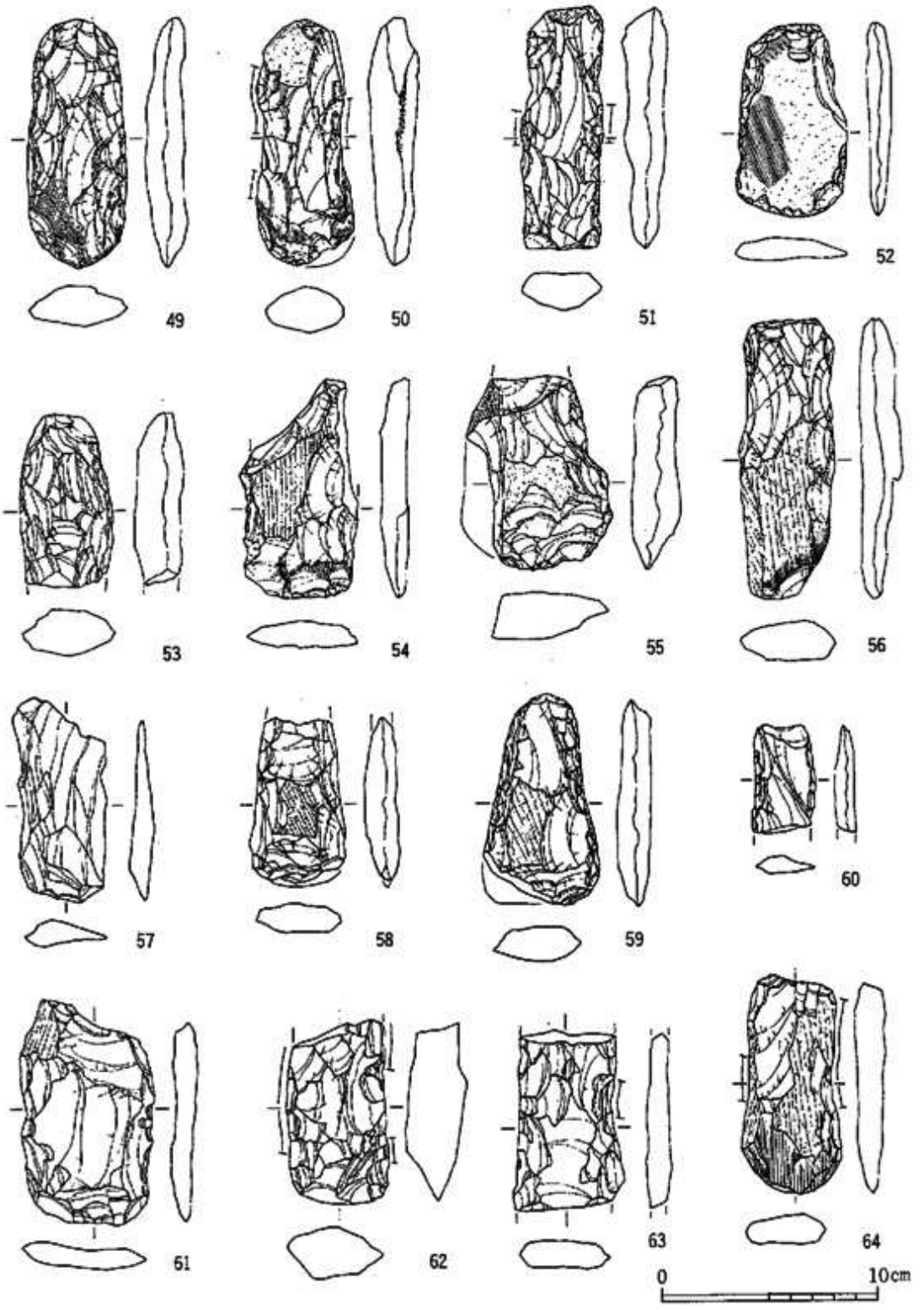
No.	図No.	出土地点	石質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	破損状況	備考
1	143	2住	細粒砂岩	8.8	3.0	1.8	35.0	完形	つぶし・磨耗痕
2	144	〃	頁岩	5.5	3.5	1.3	21.0	〃	〃
3	145	9住	〃	12.2	3.2	1.0	42.0	〃	〃
4	146	2住	チャート	8.7	4.4	2.0	64.0	〃	
5	147	〃	頁岩	(7.0)	7.7	1.6	110.0	一部欠	



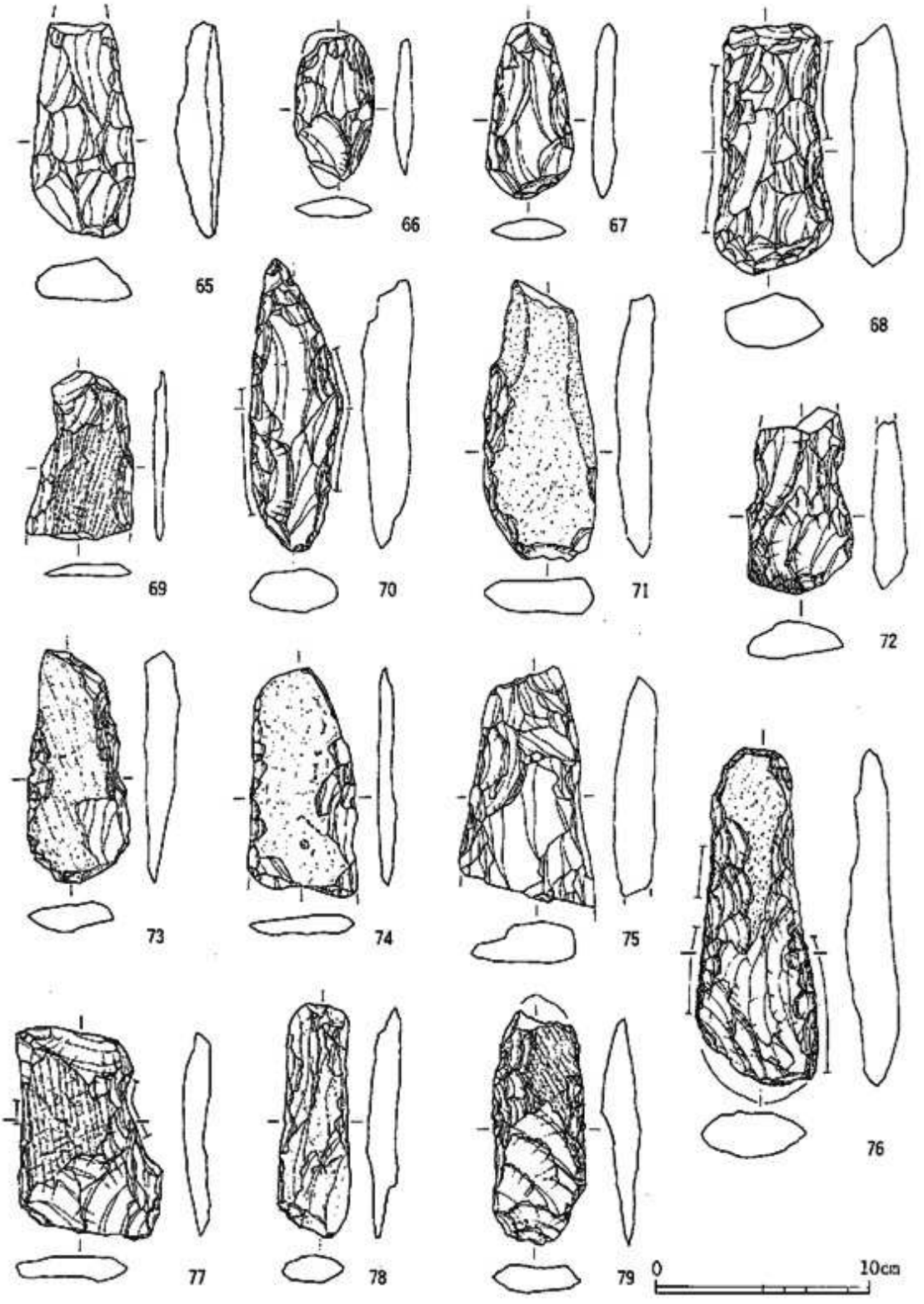
第57図　縄文時代の石器(1)



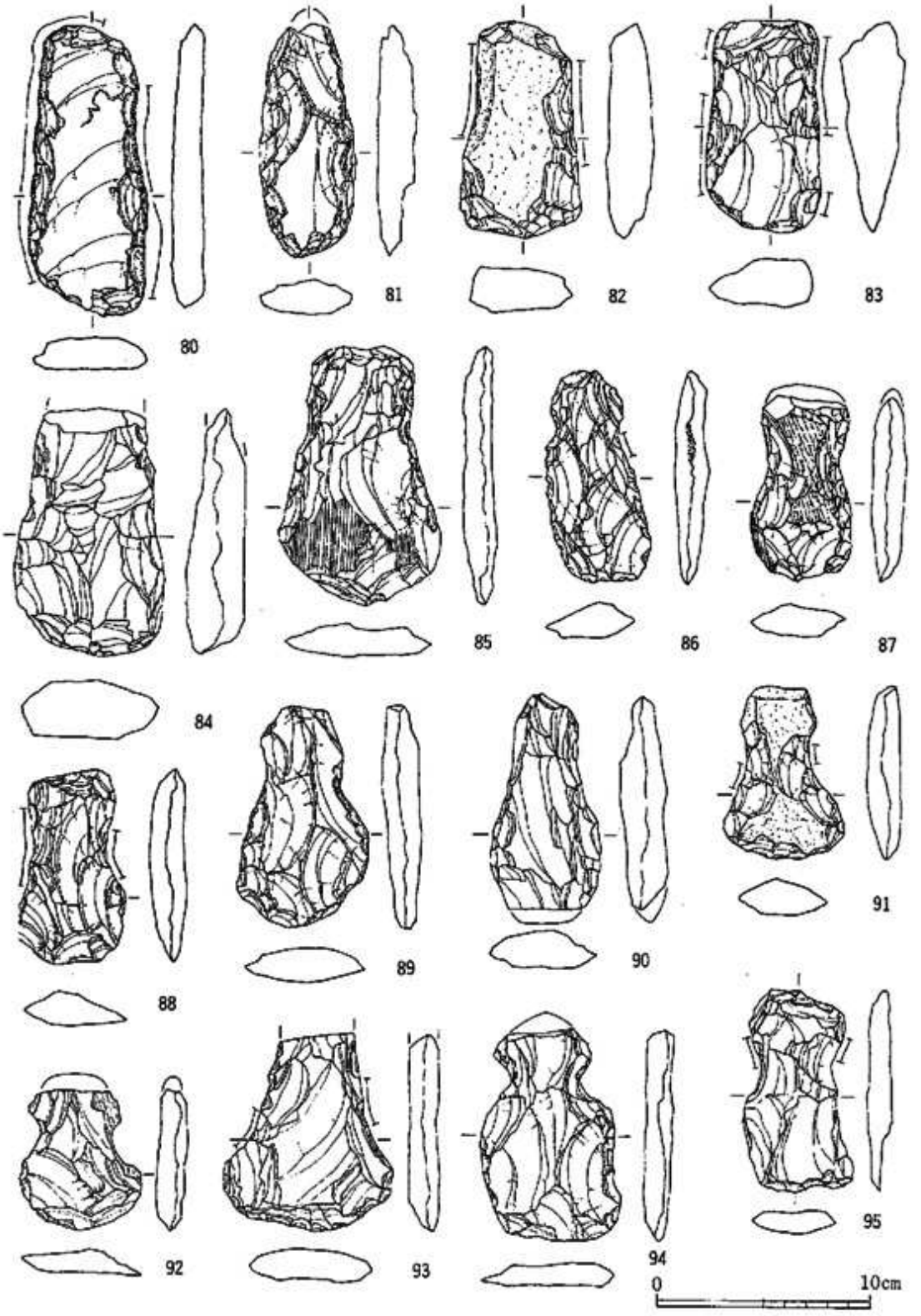
第58図　縄文時代の石器(2)



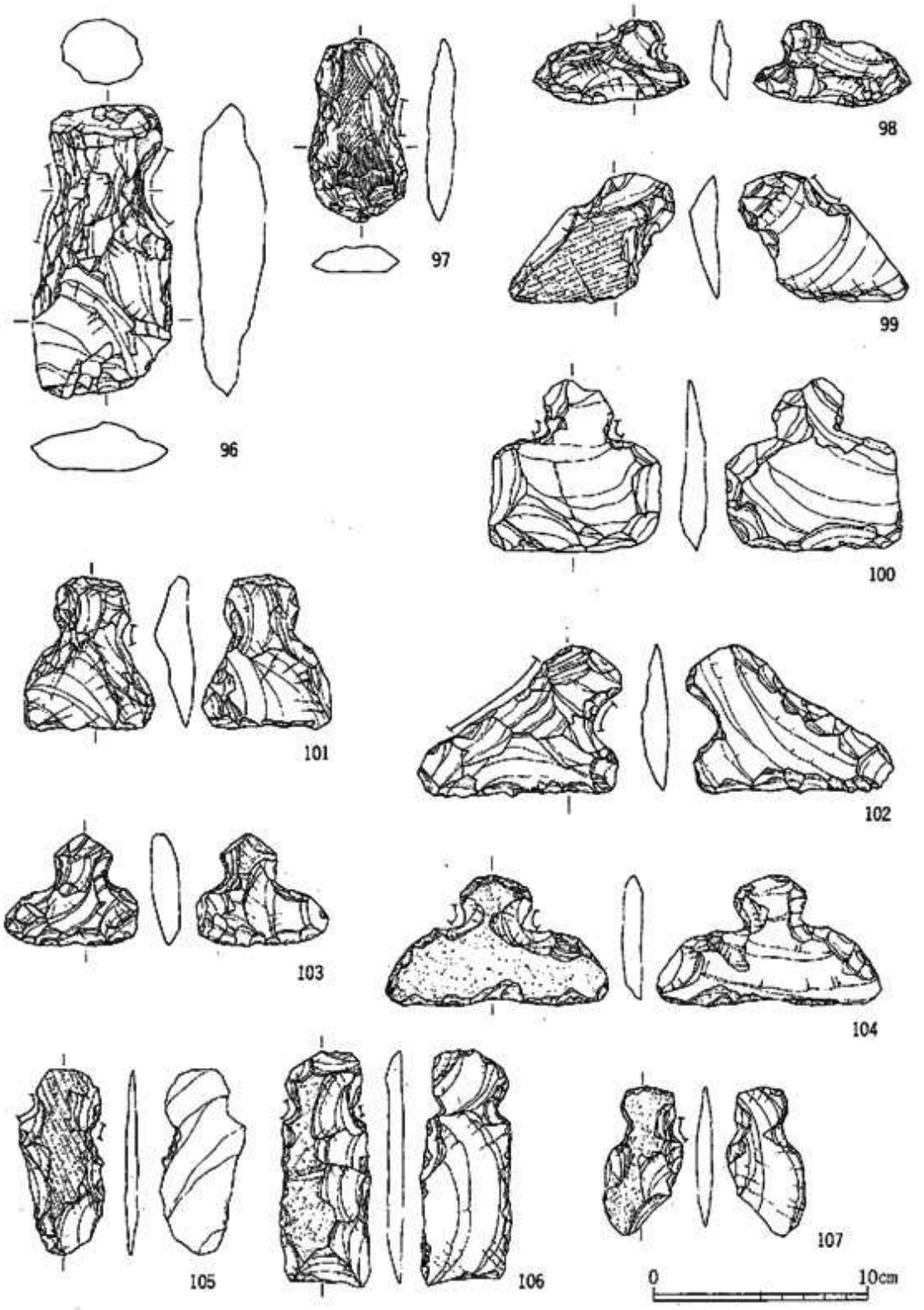
第59図　縄文時代の石器(3)



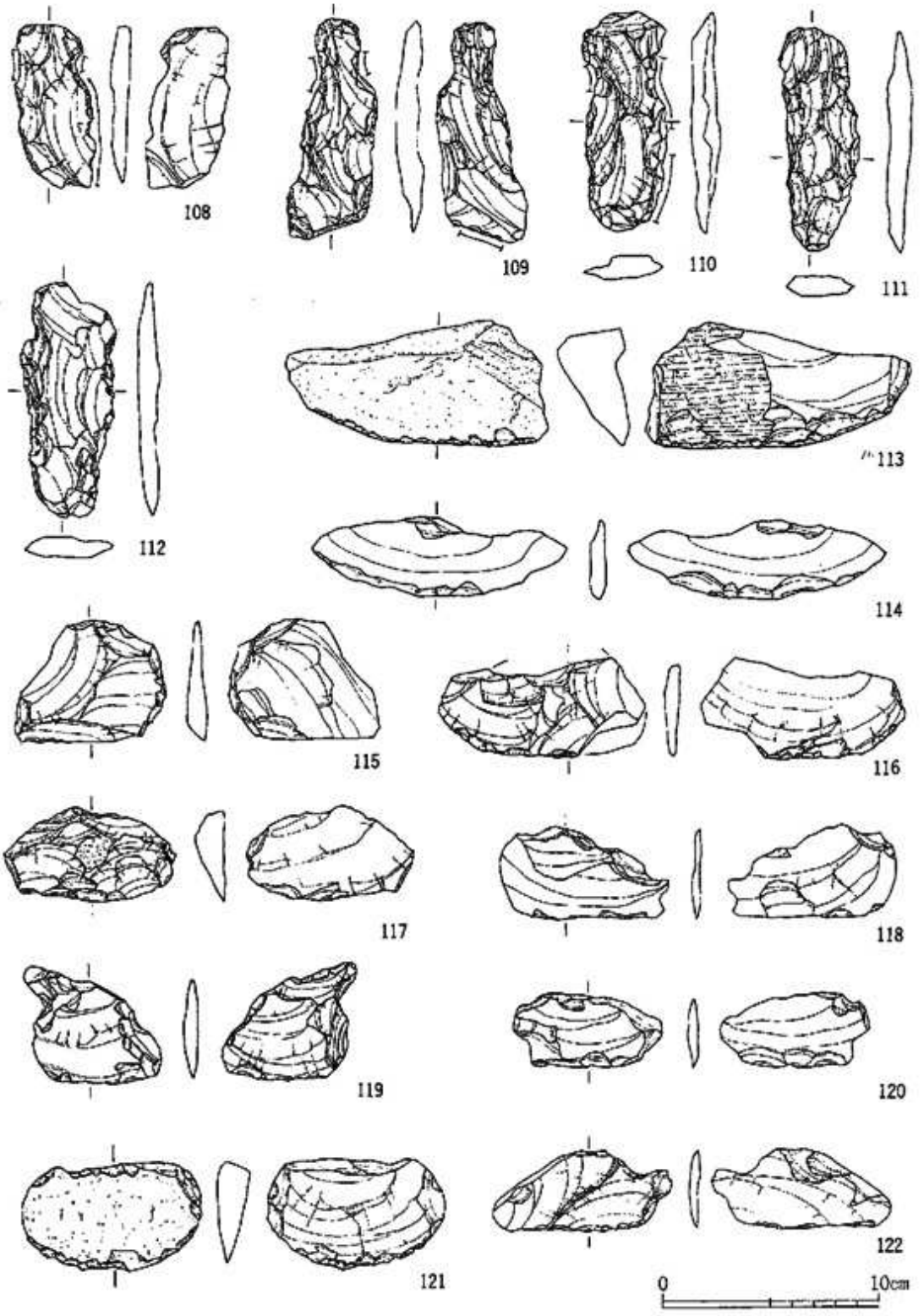
第60図　縄文時代の石器(4)



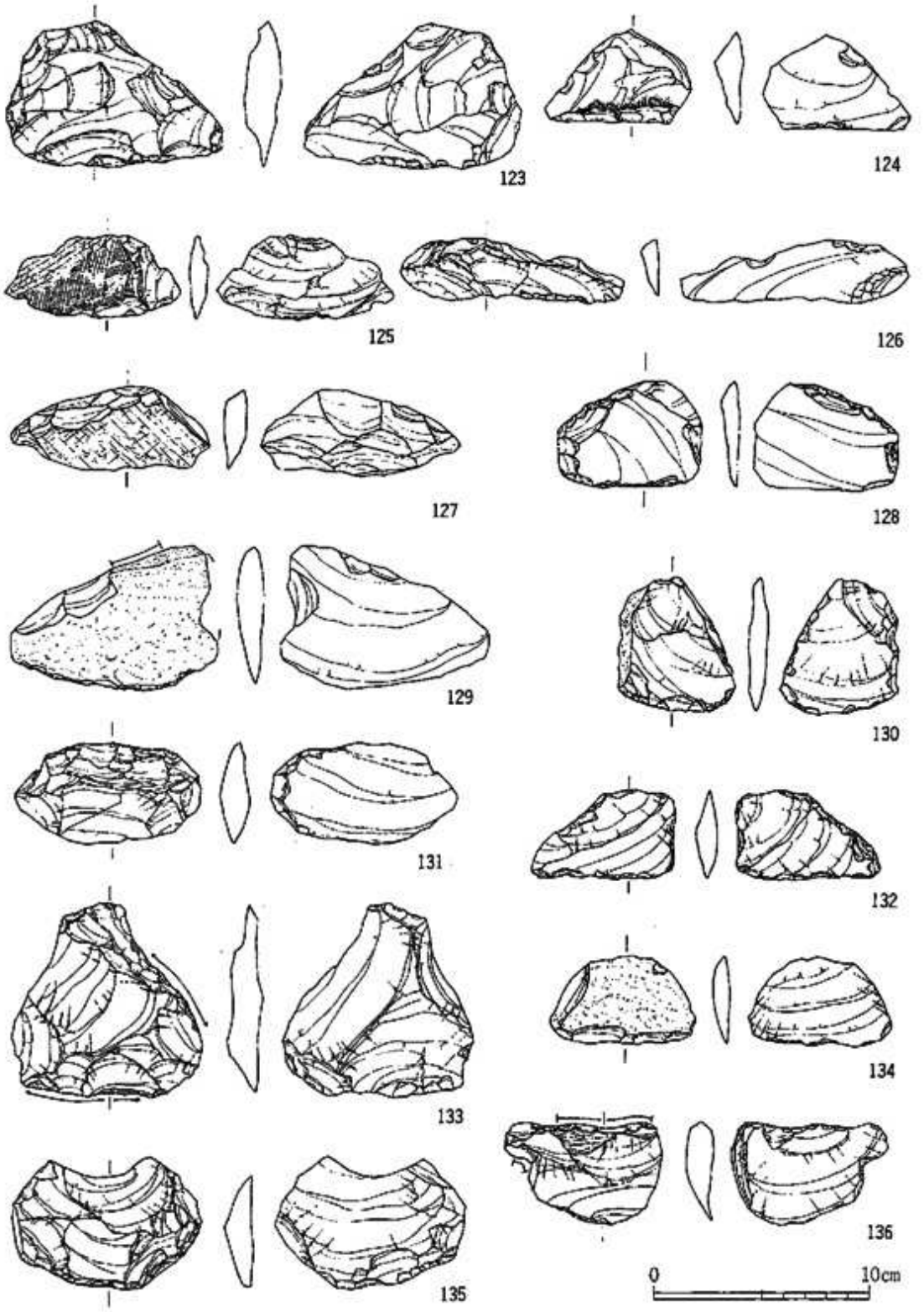
第61図　縄文時代の石器(5)



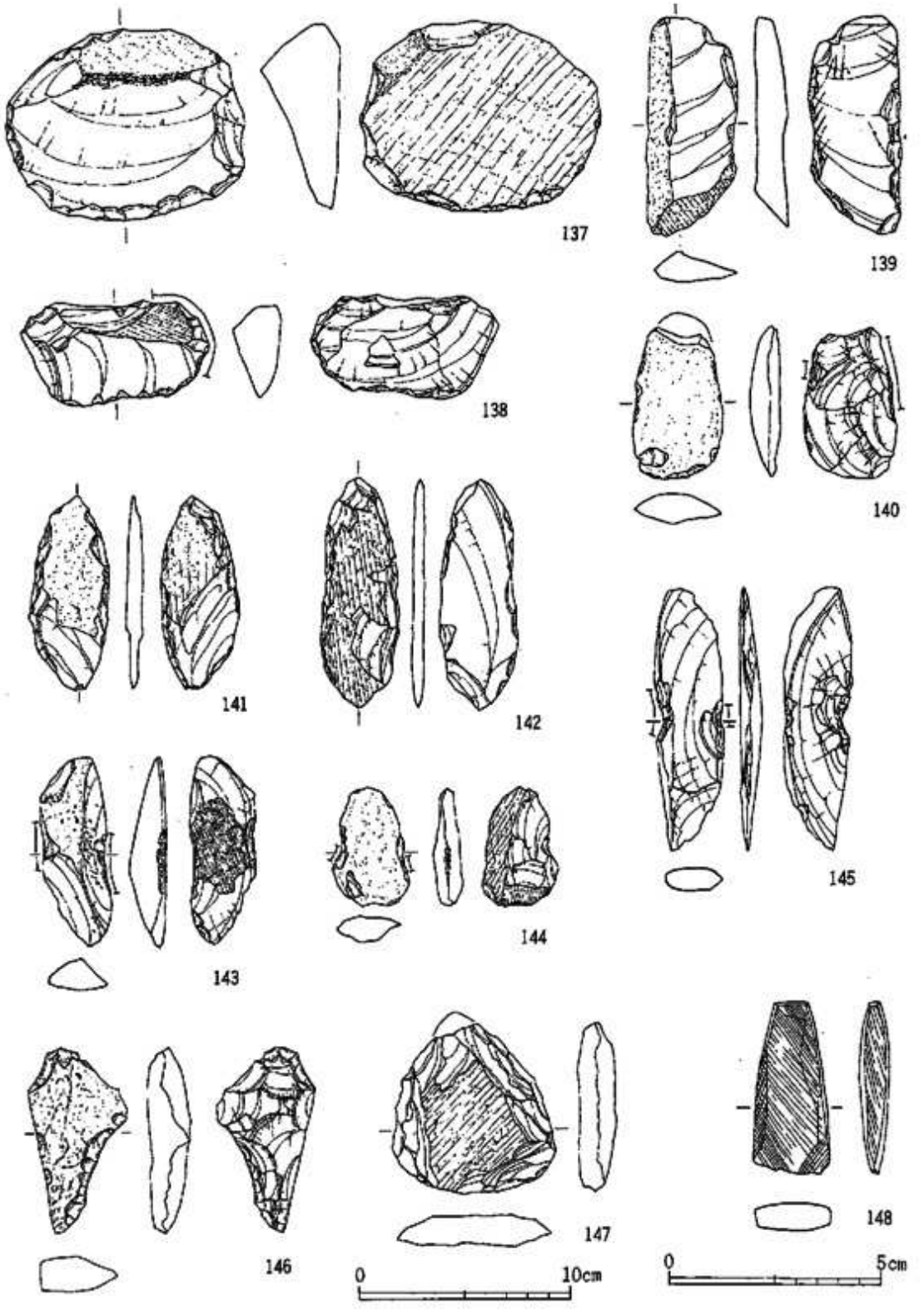
第62図　縄文時代の石器(6)



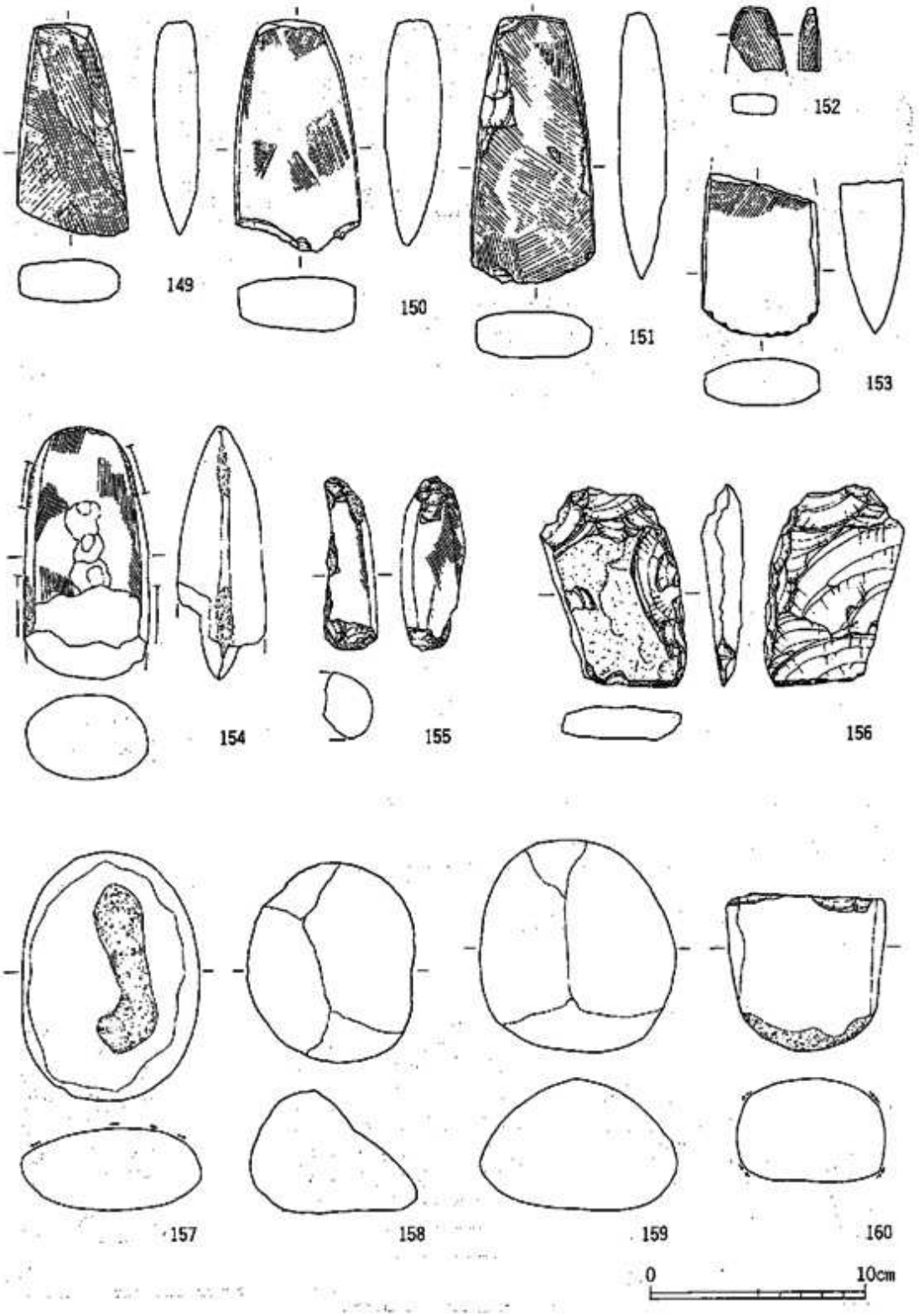
第63図　縄文時代の石器(7)



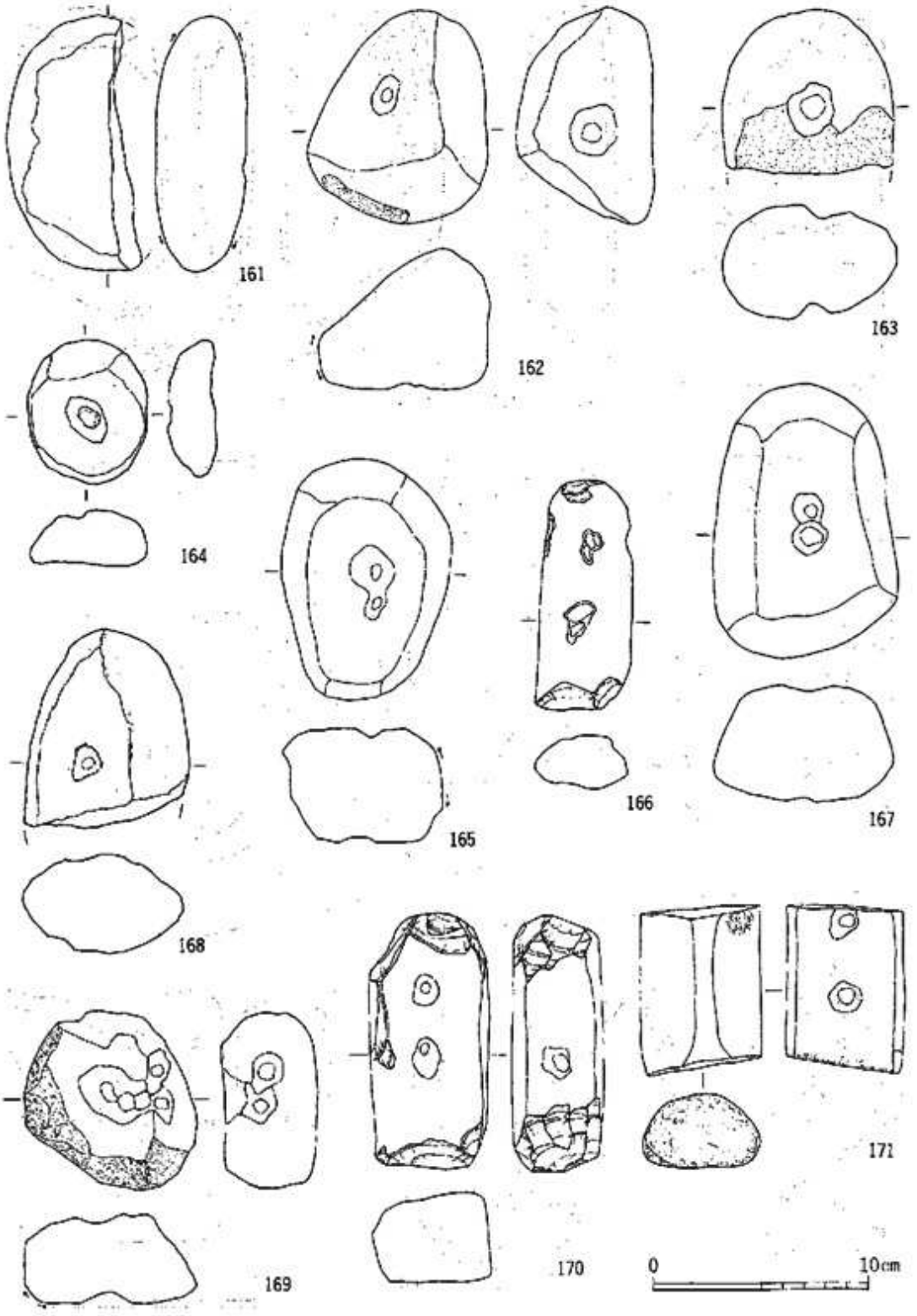
第64図　縄文時代の石器(8)



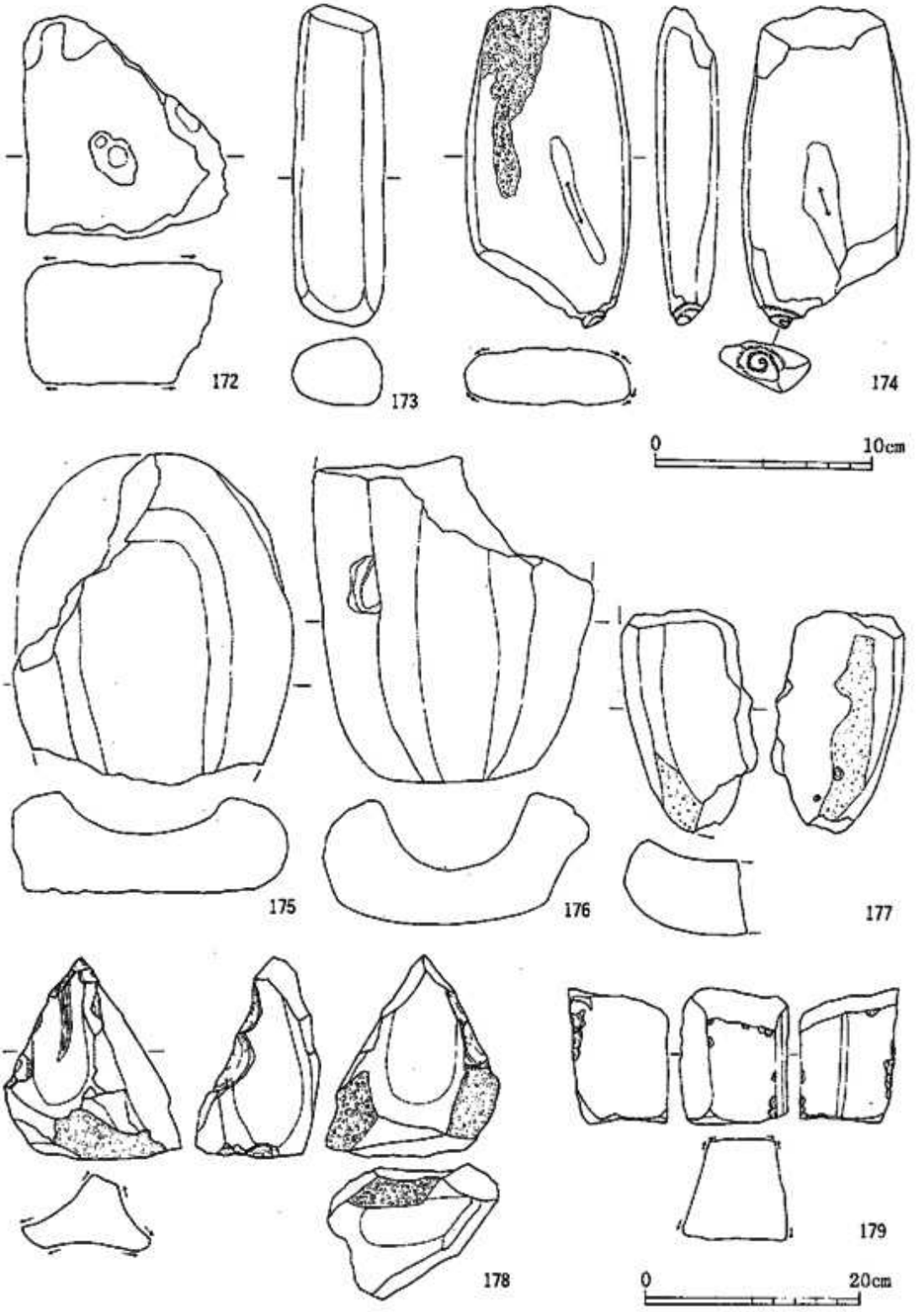
第65図　縄文時代の石器(9)



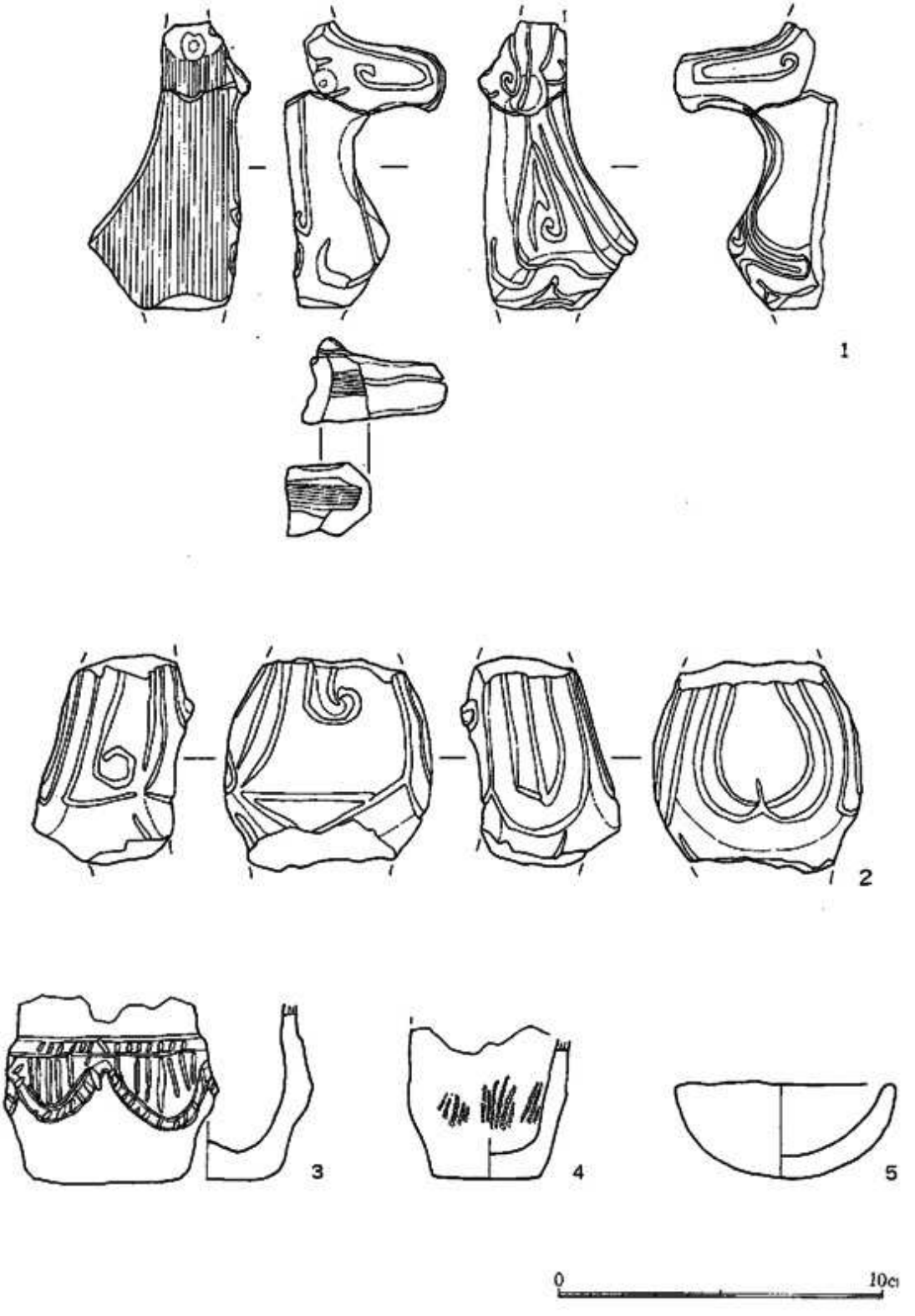
第66図　縄文時代の石器(10)



第67図　縄文時代の石器(11)



第68図　縄文時代の石器(12)

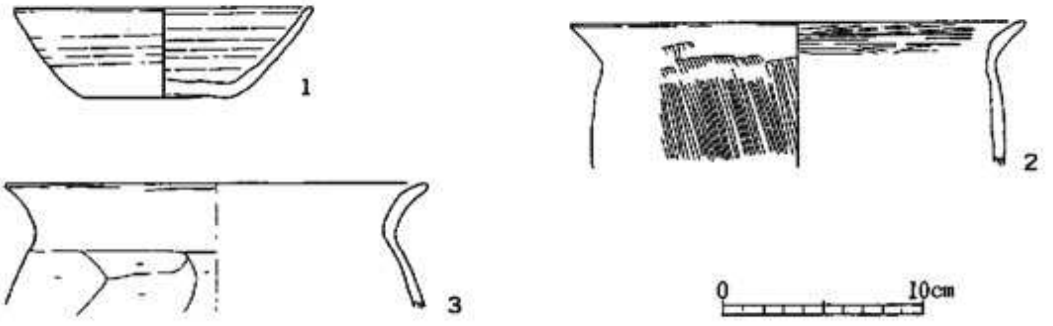


第69図　土　製　品

2．平安時代の遺物

(1) 土器・陶器（第70図）

第1号住居址から須恵器、土師器がわずかに出土し、図化できたのは3点のみである。1は須恵器杯で焼成は不良である。土師器甕は、ハケメによって調整された2と体部をヘラ削りした3がある。1号住の土器は9世紀前半と考えられる。



第70図　平安時代の土器

第4章　調査のまとめ

峯畑遺跡は田川と椛現沢川によって形成された東西に延びる尾根状台地の中央部に位置し、東西600m、南北200mと広範囲に及んでいる。西向きに緩やかに傾斜する台地上は日当たりが良く、両河川に挟まれていることから水も得られ、繰り返し集落が営まれることとなった。調査の結果、本遺跡は旧石器時代、縄文時代中・後期、平安時代の複合遺跡であることが判明した。

旧石器時代　黒曜石を主体にした遺物集中箇所が1基検出された。台地のほぼ中央に位置し、他時代の遺構の立地とは異なっている。遺物は石核1点のほか、剥片・砕片がわずかに出土したのみで遺構の時期や性格は明らかにできなかった。しかし、発掘調査で旧石器時代の遺物が出土したことによって、周辺で表面採集された遺物との関連が注目されることとなった。

田川上流域はこの時代の遺跡が僅少な松本平にあって比較的多くの遺跡が存在し、青木沢遺跡や柿沢遺跡からは良好な一括資料が出土している。田川とそれに流れ込む小河川によって形成された台地上は生活の場として最適であったといえる。また、田川を遡れば塩尻峠に至り、黒曜石原産地を控えた諏訪地方と接していることもあって遺跡が集中したと考えられる。

縄文時代　中期初頭から後葉の住居址が16軒検出された。今調査では2箇所のまとまりが確認され、国道153号沿いのみどり湖入口で中期集落の一端が明らかになった。（第71、72図）

中期初頭では第8号住居址が考えられる。また、38号土坑から埋設された梨久保式土器の完形品が出土している。

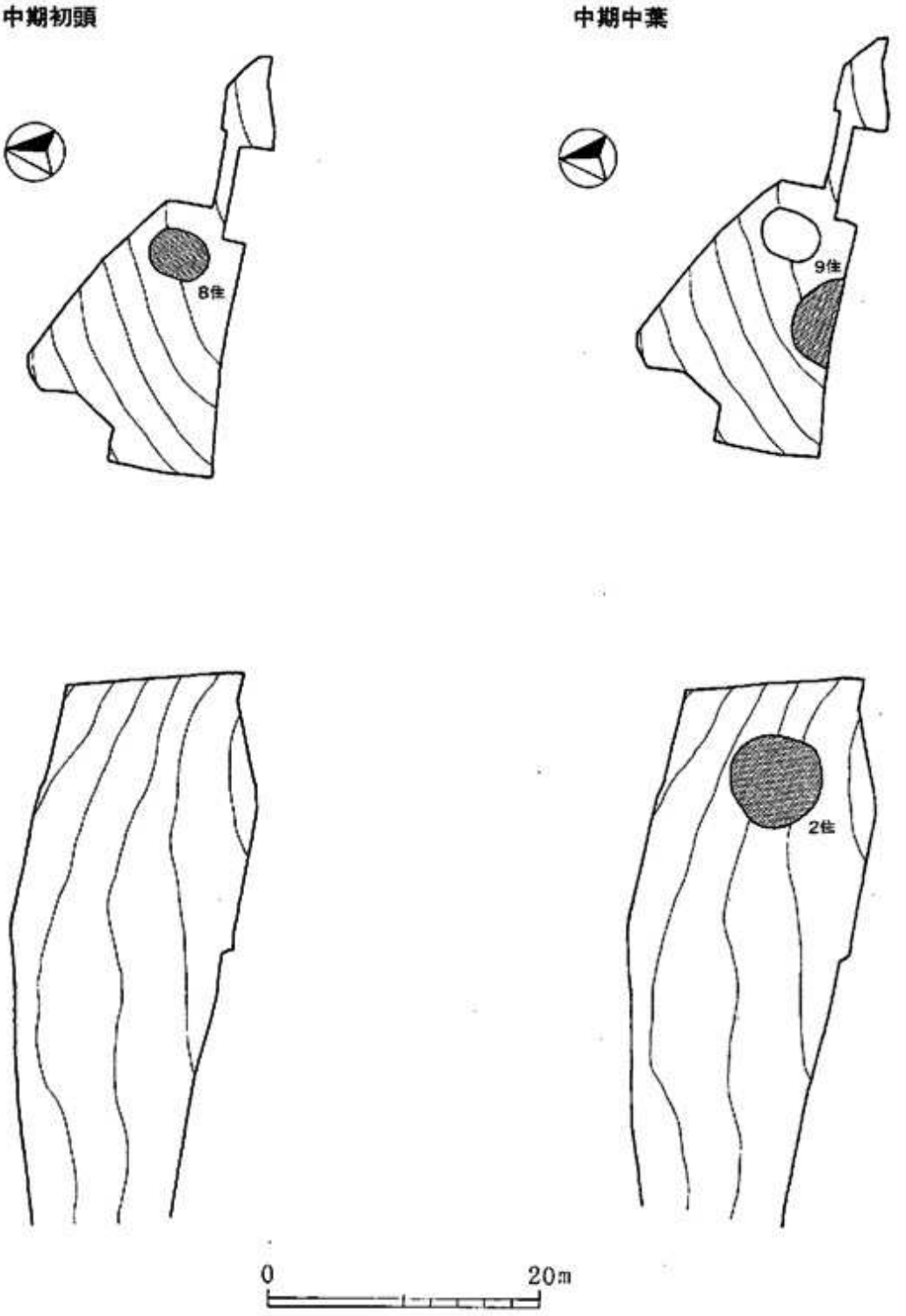
中期中葉では第9号住居址が中葉Ⅳ期（藤内Ⅱ式期）に出現し、中葉Ⅴ期（井戸尻Ⅰ式期）の第2号住居址が続いている。2軒とも大形で掘り込みの深い住居である。

中期後葉では中葉Ⅵ期（井戸尻Ⅲ式期）最終末から後葉Ⅰ期にかけて最も多くの住居址が存在した。第3、4、6、11、12、13、14号住居址が該当するが、近接して構築されており時間差が考えられる。唐草文系土器が普及する後葉Ⅱ期以降は第7、10号住居址があり、調査区全域に拡がる傾向を見せる。前段階の後葉Ⅰ期までの狭い範囲に密集した分布状況とは対照的である。特殊な遺構として、第10号住居址の埋甕上に設置された巨礫がある。住居址の平面形態も方形を呈し他の住居址と異なっているため、その性格が問われる。

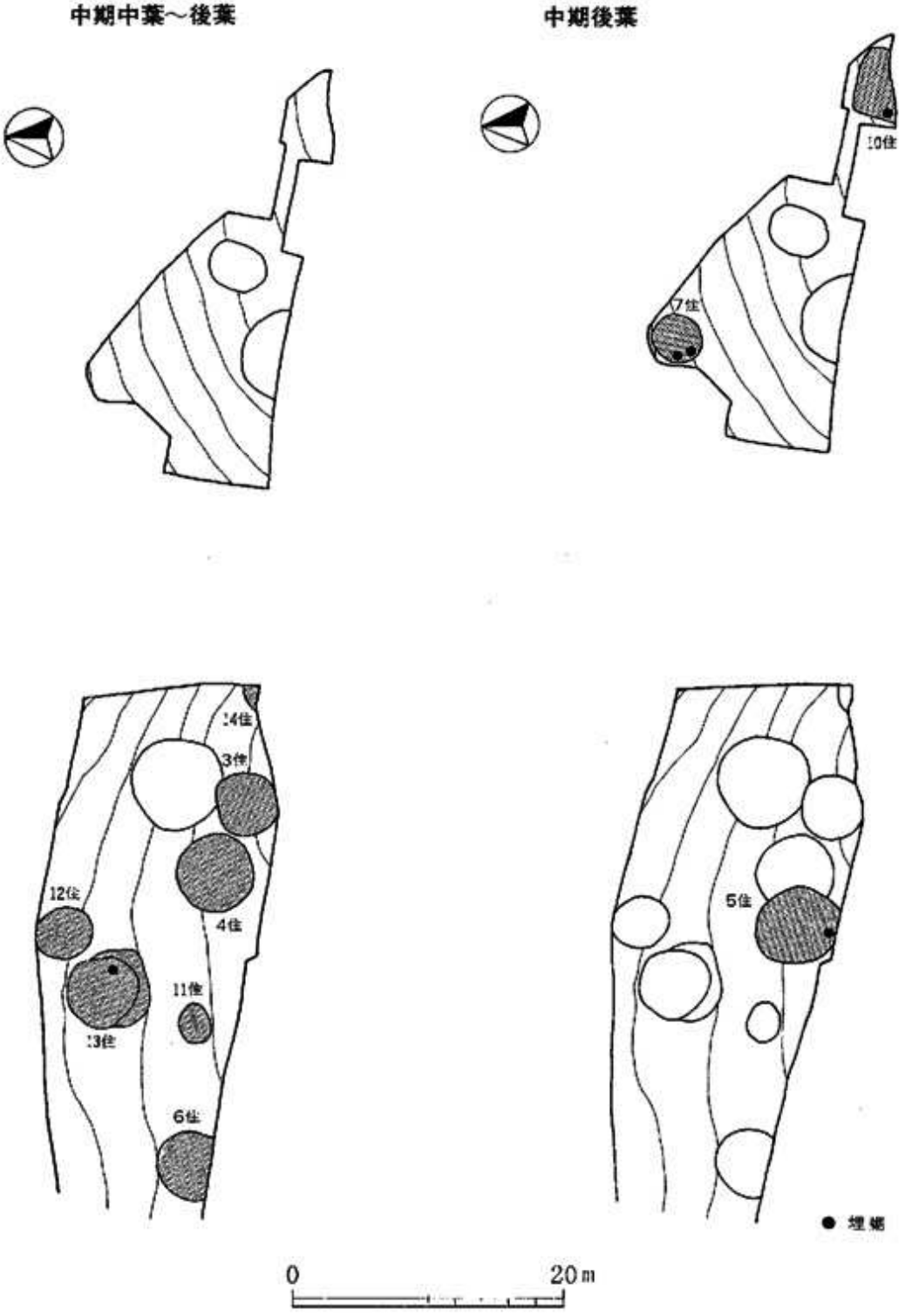
住居址が分布する拡がりや位置は中期初頭から後葉まで僅かずつ異なるが、集落の形態は、国道両わきの土坑群を取り囲むようにして田川に向かって開いた馬蹄形を呈すると考えられる。したがって調査区外の住居址は南側に弧状に拡がると予想される。また、中央広場には土坑群とともに市内で初めて発見された方形柱穴列もあり集落構造を示す貴重な資料となった。

遺物は住居址覆土から多量に出土し、特に第2号住居址出土土器を主体とした中期中葉から後葉の土器群は松本平の該期の編年研究にとって大きな資料提供となった。

平安時代　調査区西端で2軒の住居址が検出された。隣接する剣ノ宮遺跡で発見された該期住居址との関連が伺える。



第71図　縄文時代集落変遷図(1)



第72図　縄文時代集落変遷図(2)

第5章　結　語

峯畑遺跡の発掘調査は3ヶ年にわたって行われ、旧石器時代、縄文時代、平安時代の遺構が検出された。調査面積が狭かったこともあり、当初は大きな成果を期待していなかったが多くの新しい発見があった。

旧石器時代の遺構は規模や遺物が貧弱ではあったものの、ローム層中から原位置をとどめたまま石器が出土したのは南熊井山の神遺跡に次いで市内2例目のことである。遺物の分布は田川に向かって拡がっており段丘上の縁に展開していると考えられる。田川上流域は旧石器時代から縄文時代への過渡期に遺跡が密集した地域として認識されつつあり、田川に望む台地上には該期の未発見の遺跡の存在も予想され注意を促す調査となった。

縄文時代は過去の調査例から中央東線と隣接する調査区西端で住居址の存在を予想していたが、更に東方の国道沿いで中期の住居址が14軒検出された。住居址に囲まれた中央部には土坑群や方形柱穴列があり広場として認識できるものである。また、出土遺物も非常に多く、特に中期中葉から後葉にかけての土器は編年を考える上で重要である。調査区外には多数の住居址の存在が予想され規模の大きな集落である可能性が強い。峯畑遺跡が立地する台地だけでも焼町遺跡、剣ノ宮遺跡などの同時期の集落が狭い範囲に展開している。更に、田川を挟んで環状集落の一部が調査された柿沢東遺跡や環状集落の典型とされる狙原遺跡などの大規模集落が東山山麓に沿って点々と続いている。塩尻東地区から松本市中山地区にかけては該期の資料が蓄えられつつあり、東山山麓に展開した遺跡を総合的に分析することによって縄文集落の実態が解明されるものと思われる。

平安時代は2軒の住居址が狭い範囲から発見された。それ以外の場所では遺物の出土もなく、住居址が2軒検出されている剣ノ宮遺跡に向かって拡がっていると考えられる。また、両遺跡が立地する尾根状台地の先端には田川端遺跡があり、18軒の住居址が確認されている。多数の墨書土器や鉄器が出土した特異な集落で、田川上流域の拠点的集落と考えられている。住居址が散在する峯畑・剣ノ宮遺跡とは対照的で立地条件とともに集落の在り方が注目される。

田川流域はここ数年の各種事業に伴い多くの遺跡が発掘され、旧石器時代から中・近世に至るまで様々な遺構、遺物が出土している。その中には注目される遺跡もあればそうでない遺跡も数多くある。しかし、いずれの遺跡もこの地で生活した人々の痕跡であり、それらの資料を駆使することによって地域の歴史を解明していくことが大切である。

最後に今回の調査のため炎暑・積雪など悪条件の中、発掘に参加していただいた方々始め、多大な御理解をいただいた地元の方々に厚く感謝申し上げます。

平成3年 発掘調査前（西側から）

調 査 区 全 景（東側から）

図 版 2

第1号住居址

第17号住居址

平成4年春 発掘調査前（西側から）

調査区全景（東側から）

図 版 4

調査区全景（みどり湖入口、東側から）

第２号住居址遺物出土状態

第2号住居址遺物出土状態

第2号住居址

図 版 6

第4・5住居址

第4号住居址
P内遺物出土状態

第4号住居址遺物出土状態

第5号住居址埋甕

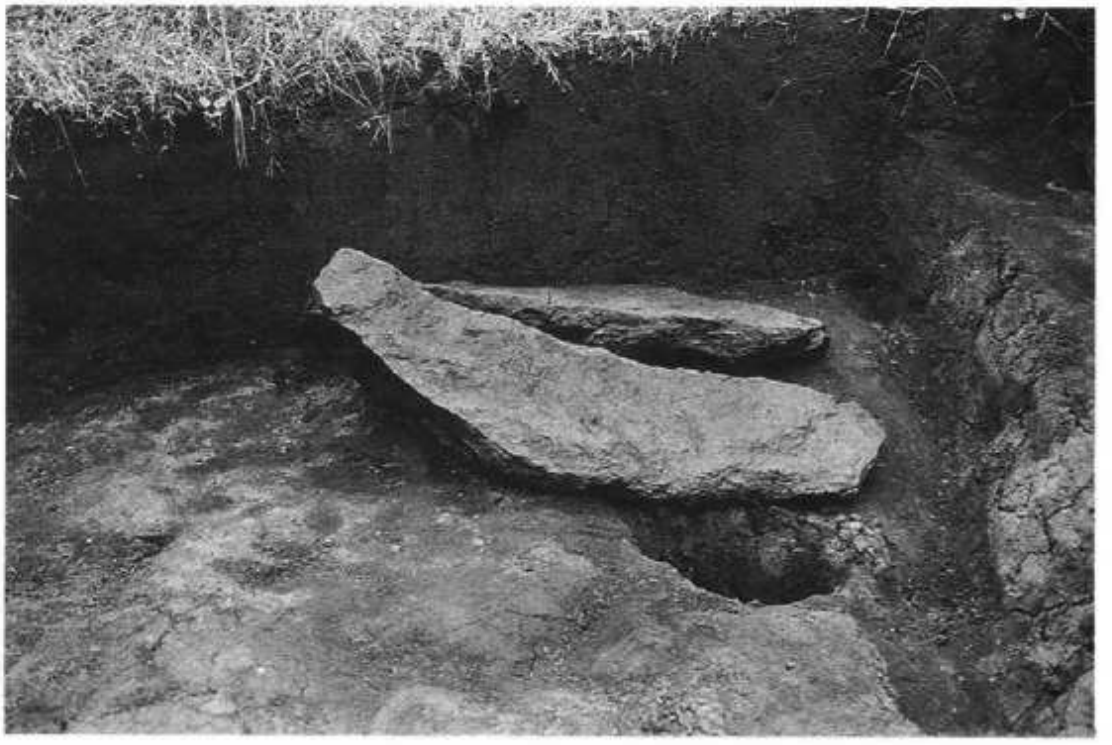
第9号住居址遺物出土状態

第9号住居址

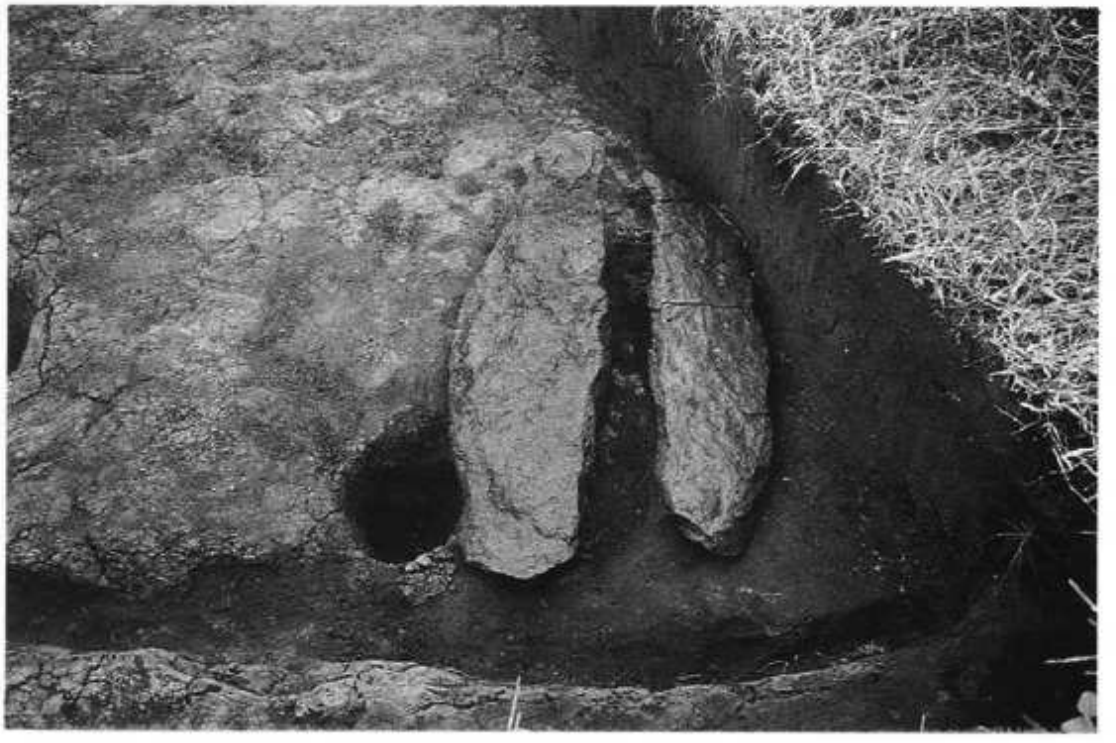
図 版 8

第 7 号 住 居 址

第10号 住 居 址



第10号住居址配石(北側から)



第10号住居址配石(西側から)

図 版 10

第12号住居址

第13号住居址

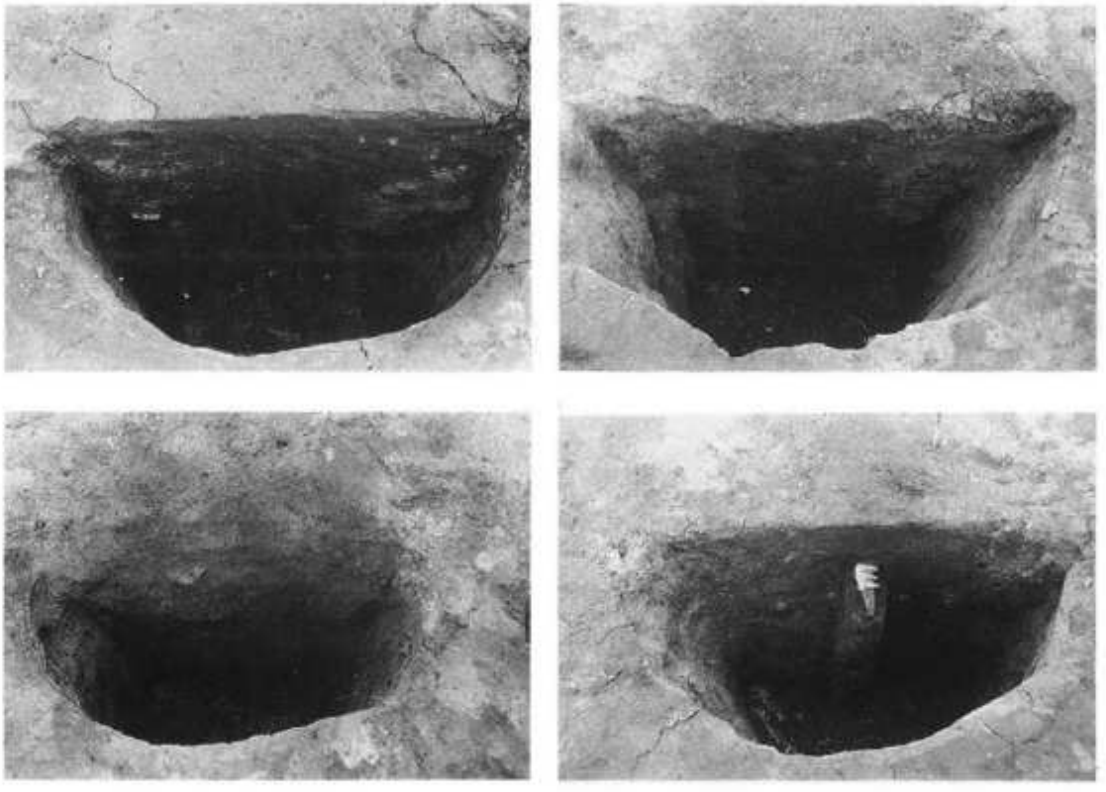
第13号住居址埋甕

第38号土坑埋設土器
出土状態

第4号集石土坑

図 版 12

第1号方形柱穴列（南西側から）



第1号方形柱穴列・柱穴半截状態

第4号住居址石囲埋甕炉

第12号住居址石囲埋甕炉

第5号住居址石囲炉

第7号住居址石囲炉

図 版 14

平成4年冬 発掘調査前(東側から)

調査区中央付近(西側から)

平成5年 旧石器出土状態

調 査 区 全 景（東側から）

図 版 16

出 土 土 器

人形把手付土器

土 偶

第2号住居址出土土器

第2号住居址出土土器

図 版 18

第5号住居址出土土器

第9号住居址出土土器

——峯　畑　遺　跡——

平成 6 年 3 月13日　印刷
平成 6 年 3 月15日　発行

発行　塩尻市教育委員会
印刷　術英巧堂印刷所